

MEDIAEDGE

MEDIAEDGE Decoder

MEDIAEDGE Decoder EX

取扱説明書

August 31, 2021

Version 8.4

Copyright (C) 2013-2021 MEDIAEDGE Corporation

目次

| | |
|-------------------------------------|----|
| I. はじめに | 1 |
| I-1. 本製品を使用される際の注意事項 | 2 |
| ■ 注意事項 | 3 |
| ■ 個人情報の取扱いについて | 3 |
| ■ 商標について | 3 |
| ■ 警告 | 4 |
| I-2. ご使用前に | 5 |
| ■ パッケージ内容の確認 | 5 |
| ■ 当社ホームページについて | 6 |
| ■ ファームウェアのバージョンについて | 6 |
| I-3. 留意事項 | 7 |
| ■ 表記について | 7 |
| ■ ご注意 | 7 |
| ■ 制限事項 | 7 |
| ■ 利用許諾について | 9 |
| II. MEDIAEDGE Decoder について | 10 |
| II-1. 概要と特長 | 11 |
| ■ II-1-1. MEDIAEDGE Decoder の概要 | 11 |
| ■ II-1-2. MEDIAEDGE Decoder の特長 | 11 |
| ■ II-1-3. 再生可能なコンテンツ | 12 |
| ■ II-1-4. 対応機器 | 15 |
| II-2. 各部の名称と機能 | 16 |
| ■ II-2-1. MEDIAEDGE Decoder 前面部 | 16 |
| ■ II-2-2. MEDIAEDGE Decoder 背面部 | 17 |
| ■ II-2-3. リモコン | 18 |
| II-3. 機器の接続 | 21 |
| III. MEDIAEDGE Decoder EX について | 22 |
| III-1. 概要と特長 | 23 |
| ■ III-1-1. MEDIAEDGE Decoder EX の概要 | 23 |
| ■ III-1-2. MEDIAEDGE Decoder EX の特長 | 24 |
| ■ III-1-3. 再生可能なコンテンツ | 24 |
| ■ III-1-4. 対応機器 | 27 |
| III-2. 各部の名称と機能 | 28 |
| ■ III-2-1. MEDIAEDGE Decoder EX 前面部 | 28 |
| ■ III-2-2. MEDIAEDGE Decoder EX 背面部 | 30 |
| ■ III-2-3. ビデオ信号同期 | 31 |

| | |
|--------------------------------------|----|
| ■ III-2-4. リモコン | 32 |
| III-3. 機器の接続 | 33 |
| IV. 動作確認と初期設定 | 34 |
| IV-1. 動作確認 | 35 |
| ■ IV-1-1. 起動とシャットダウン | 35 |
| ■ IV-1-2. 再生確認 | 36 |
| IV-2. 初期設定 | 37 |
| ■ IV-2-1. ネットワーク設定 | 37 |
| ■ IV-2-2. 表示設定 | 41 |
| ■ IV-2-3. 設定の初期化 | 42 |
| ■ IV-2-4. 設定ウィザード | 43 |
| V. ストリーミング再生 | 44 |
| V-1. 概要 | 45 |
| ■ V-1-1. ストリーミング再生について | 45 |
| ■ V-1-2. ストリーミング再生の状態確認 | 45 |
| V-2. ビデオオンデマンド | 47 |
| ■ V-2-1. MEDIAEDGE Server との接続 | 47 |
| ■ V-2-2. MEDIAEDGE LEB との接続 | 47 |
| ■ V-2-3. 設定 | 48 |
| V-3. スケジュール再生 | 50 |
| ■ V-3-1. 設定 | 50 |
| V-4. ライブ配信映像再生 | 51 |
| ■ V-4-1. 設定 | 51 |
| VI. ローカルファイル再生 | 52 |
| VI-1. スケジュール再生 | 53 |
| ■ VI-1-1. スケジュール再生について | 53 |
| ■ VI-1-2. DCM | 53 |
| ■ VI-1-3. フィラー再生 | 53 |
| ■ VI-1-4. 設定 | 54 |
| VI-2. メニュー再生 | 56 |
| ■ VI-2-1. 自動生成メニュー | 56 |
| ■ VI-2-2. ユーザーメニュー | 57 |
| ■ VI-2-3. スクリーンセーバー | 57 |
| ■ VI-2-4. 設定 | 57 |
| VI-3. チャンネル再生 | 61 |
| ■ VI-3-1. チャンネルモードについて | 61 |
| ■ VI-3-2. 設定 | 62 |
| VI-4. シリアル制御再生 | 63 |
| ■ VI-4-1. シリアル制御モードについて | 63 |

| | |
|---|----|
| ■ VI-4-2. 設定 | 64 |
| ■ VI-4-3. 接続 | 64 |
| ■ VI-4-4. コンテンツの配置 | 65 |
| ■ VI-4-5. シリアル制御モードの初期状態 | 66 |
| ■ VI-4-6. 制御方法 | 66 |
| ■ VI-4-7. 対応コマンド一覧 | 67 |
| ■ VI-4-8. エラーコード一覧 | 70 |
| VI-5. 複数台同期再生 | 71 |
| ■ VI-5-1. 同期再生とは | 71 |
| ■ VI-5-2. 同期再生を行うための条件 | 71 |
| ■ VI-5-3. 機器の接続方法 | 72 |
| ■ VI-5-4. MEDIAEDGE Decoder の設定 | 73 |
| ■ VI-5-5. チャンネルモードでの同期再生 | 74 |
| ■ VI-5-6. シリアル制御モードでの同期再生 | 76 |
| ■ VI-5-7. 複数台同期再生を使用する際の注意事項 | 77 |
| VII. 動作モード | 78 |
| VII-1. 概要 | 79 |
| VII-2. リモコン操作 | 80 |
| ■ VII-2-1. モード共通の操作 | 80 |
| ■ VII-2-2. チャンネルモードの操作 | 81 |
| ■ VII-2-3. メニューモードの操作 | 83 |
| VIII. 機能・動作 | 86 |
| VIII-1. コンテンツの更新 | 87 |
| ■ VIII-1-1. 更新について | 87 |
| ■ VIII-1-2. DCM との連携 | 87 |
| ■ VIII-1-3. ファイル共有 | 88 |
| ■ VIII-1-4. SD カードや USB ストレージ経由のコンテンツ更新 | 89 |
| ■ VIII-1-5. ストレージに直接書き込む | 89 |
| VIII-2. ネットワーク | 90 |
| ■ VIII-2-1. 時刻設定 (NTP) | 90 |
| ■ VIII-2-2. UPnP | 90 |
| ■ VIII-2-3. ストリーミング | 90 |
| ■ VIII-2-4. Web コントロール | 91 |
| VIII-3. SDI 入力の背景表示 | 92 |
| VIII-4. その他 | 94 |
| ■ VIII-4-1. 再生情報 | 94 |
| ■ VIII-4-2. リモートシリアル | 94 |
| ■ VIII-4-3. ログ | 94 |
| IX. Web コンソール | 95 |

| | |
|--|-----|
| IX-1. アクセス方法..... | 96 |
| IX-2. 状態表示..... | 97 |
| ■ IX-2-1. ステータス..... | 97 |
| ■ IX-2-2. 同期ステータス..... | 102 |
| ■ IX-2-3. ログ..... | 103 |
| IX-3. 設定ウィザード..... | 104 |
| ■ IX-3-1. 設定ウィザードについて..... | 104 |
| ■ IX-3-2. タイムゾーン..... | 104 |
| ■ IX-3-3. 日時設定..... | 104 |
| ■ IX-3-4. ネットワーク..... | 104 |
| ■ IX-3-5. 用途選択..... | 106 |
| IX-4. 設定..... | 109 |
| ■ IX-4-1. 設定について..... | 109 |
| ■ IX-4-2. 基本設定..... | 109 |
| ■ IX-4-3. ネットワーク..... | 115 |
| ■ IX-4-4. メニューモード..... | 123 |
| ■ IX-4-5. チャンネルモード..... | 126 |
| ■ IX-4-6. シリアル制御モード..... | 127 |
| ■ IX-4-7. 再生..... | 128 |
| ■ IX-4-8. シリアル..... | 136 |
| ■ IX-4-9. USB PIO..... | 137 |
| ■ IX-4-10. ビデオ..... | 138 |
| IX-5. 機器管理..... | 144 |
| ■ IX-5-1. ストレージ管理 (HDD/SSD 内蔵モデルのみ)..... | 144 |
| ■ IX-5-2. 再起動・シャットダウン..... | 144 |
| ■ IX-5-3. 初期化..... | 145 |
| ■ IX-5-4. 一括設定..... | 145 |
| ■ IX-5-5. 日時設定..... | 145 |
| ■ IX-5-6. ファームウェア更新..... | 146 |
| ■ IX-5-7. 情報の取得..... | 146 |
| ■ IX-5-8. ユーザー名・パスワード変更..... | 146 |
| IX-6. ソフトウェアライセンス表示..... | 147 |
| ■ IX-6-1. オープンソースソフトウェア一覧..... | 147 |
| X. フロントパネル..... | 148 |
| X-1. フロントパネルについて..... | 149 |
| X-2. 設定メニュー..... | 150 |
| ■ X-2-1. 操作..... | 150 |
| ■ X-2-2. 設定の反映について..... | 150 |
| ■ X-2-3. メニュー項目..... | 151 |

| | |
|--|-----|
| ■ X-2-4. VIDEO | 152 |
| ■ X-2-5. NETWORK..... | 154 |
| ■ X-2-6. SYSTEM | 155 |
| ■ X-2-7. INFORMATION | 156 |
| ■ X-2-8. SHUTDOWN | 157 |
| XI. Appendix | 158 |
| XI-1. 更新制御スクリプト..... | 159 |
| ■ XI-1-1. 概要 | 159 |
| ■ XI-1-2. 書式 | 159 |
| ■ XI-1-3. 記述例..... | 160 |
| XI-2. ファームウェアの更新..... | 162 |
| ■ XI-2-1. Web ブラウザーによるアップデート | 162 |
| ■ XI-2-2. SD カード/USB ストレージによるアップデート | 162 |
| XI-3. メンテナンスモード | 163 |
| ■ XI-3-1. メンテナンスモードについて..... | 163 |
| ■ XI-3-2. 接続と起動 | 163 |
| ■ XI-3-3. 操作 | 164 |
| ■ XI-3-4. 強制初期化 | 166 |
| ■ XI-3-5. 更新制御スクリプト(update.inst)によるファームウェア更新 | 166 |
| XI-4. 動作確認済み SD カード..... | 167 |
| XI-5. 無停電電源装置について..... | 168 |
| XI-6. 仕様 | 169 |
| ■ XI-6-1. MEDIAEDGE Decoder..... | 169 |
| ■ XI-6-2. MEDIAEDGE Decoder EX..... | 174 |
| ■ XI-6-3. コネクタピン配置 | 179 |

I. はじめに

この章では、MEDIAEDGE Decoder / MEDIAEDGE Decoder EX のご使用やセットアップの前に確認していただきたい事項や、ご注意いただきたい事項について説明します。

I-1. 本製品を使用される際の注意事項

ここでは、本製品を使用されるときにご注意いただきたい事柄について説明しています。ご使用方法や、この内容について不明な点、疑問点などがございましたら、メディアエッジ株式会社 カスタマーサポートまでお問い合わせください。

メディアエッジ株式会社
カスタマーサポート
TEL: 078-265-1552
FAX: 078-265-1550
Mail: support@mediaedge.co.jp
(月曜～金曜 10:00～12:00、13:00～17:00
※土日祝および当社指定休日を除く)

⊘ 電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。コードの上に重いものをのせたり、熱器具に近づけたりしないでください。また、コードを折り曲げたり、加工したりしないでください。AC アダプターを抜くときは、プラグ部分を持ってください。コードが傷んだら、お買い上げの販売店もしくは、当社カスタマーサポートまで交換をご依頼ください。

⊘ 分解しない

ケースを開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となります。内部の点検、修理はお買い上げの販売店もしくは、当社カスタマーサポートまでご依頼ください。

⊘ ほこりや湿気の多い場所で使用しない

ショートや発熱が起こり、火災や感電の原因となります。

⊘ 内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると、火災や感電の原因となりま

す。万一、水や異物が入った場合は、本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店もしくは、当社カスタマーサポートまでご連絡ください。

⊘ 雷が鳴り出したら使わない

本体や、プラグには触れないでください。感電の原因となります。

⊘ ぬれた手で AC アダプターを触らない

ぬれた手で AC アダプターを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

⊘ 直射日光の当たる場所に置かない

日光の当たる場所や熱器具のそばに置かないでください。火災や製品の故障の原因となります。

⊘ 煙が出た状態で使用しない

煙が出る、異臭がするなどの異常状態で使用しないでください。火災や製品の故障の原因となります。

異常が発生したら、本体の電源を切り、電源プラグを抜いて、煙が消えたのを確認してから、お買い上げの販売店もしくは、当社カスタマーサポートまでご連絡ください。

⊘ 製品が破損した状態で使用しない

本製品を落としたり、カバーを破損した状態のまま使用したりしないでください。火災や製品の故障の原因となります。製品が破損した場合は、本体の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店もしくは、当社カスタマーサポートまでご連絡ください。

⚠ 不安定な場所に置かない

不安定な台の上や傾いたところに置かないでください。落下するおそれがあり、けがをしたり、製品の故障の原因となります。

電源コードや AV ケーブルは整理して配置してください。足にひっかけると、けがや製品の故障の原因となります。

⚠ お手入れの際は電源を切る

接続するときやお手入れの際は、電源コードをコンセントから抜いてください。感電や製品の故障の原因となります。お手入れの際は、シンナーなどの揮発性の溶剤を使用しないでください。長期間使用しないときは、AC アダプターをコンセントから外してください。

⚠ 付属の AC アダプター以外は使用しない

付属の AC アダプター以外の製品を使用しないでください。火災や製品の故障の原因となります。

⚠ 本体を布などで覆わない

風通しの悪い場所や布などで覆った状態で使用しないでください。通風孔がふさがれると内部に熱がこもって、火災や製品の故障の原因となります。

■ 注意事項

ご使用上の過失の有無を問わず、本製品の運用において発生した逸失利益を含む特別、付随的、または派生的損害に対するいかなる請求があったとしても、当社はその責任を負わないものとします。

製品本来の使用目的及び、当社が推奨する使用環境以外での本製品の動作保証は、一切いたしかねます。

■ 個人情報の取扱について

当社では、お客様の個人情報は原則として下記の目的以外では使用いたしません。

- ご利用の当社製品のサポートの実施
当社製品の使用状況調査、製品改良、製品開発、サービス向上を目的としたアンケートの実施。

※ 調査結果につきましては、お客様の個人情報を含まない形で当社のビジネスパートナーに参考資料として提供することがあります。

- 銀行口座やクレジットカードの正当性、有効性の確認。
- ソフトウェアのバージョンアップや新製品の案内等の情報提供。
- 懸賞企画等で当選されたお客様への賞品の発送。

事前にお客様のご了承を得た上で、上記以外の目的で使用させていただく場合があります。

当社ではご記入いただいた情報を適切に管理し、特段の事情がない限りお客様の承諾なく第三者に開示・提供することはありません。

お客様の個人情報の取扱いに関するお問い合わせ、ご意見は <http://www.mediaedge.co.jp> までご連絡ください。

■ 商標について

- ① MEDIAEDGE は、メディアエッジ株式会社の登録商標です。
- ② HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。
- ③ Manufactured under license from Dolby Laboratories.
- ④ Dolby and the double-D symbol are trademarks of Dolby Laboratories.
- ⑤ Microsoft、Windows は米国マイクロソフト

ト・コーポレーションの登録商標です。

- ⑥ その他の商品名やそれに類するものは各社の商標または登録商標です。

■ 警告

■ 健康上のご注意

ごくまれに、コンピュータのモニターおよびテレビ画面に表示される強い光の刺激や点滅によって、一時的にてんかん・意識の喪失などが引き起こされる場合があります。こうした経験をこれまでになされたことがない方でも、それが起こる体質をもっていることも考えられます。こうした経験

をお持ちの方や、経験をお持ちの方の血縁にあたる方は、本製品を使用される前に必ず医師と相談してください。

■ 著作権について

テレビ放送やビデオなど、他人の作成した映像/音声をキャプチャしたデータは、動画、静止画に関わらず個人として楽しむ以外は、著作権法上、権利者に無断では使用できません。また、個人として楽しむ目的であっても複製が制限されている場合があります。キャプチャしたデータのご利用に対する責任は当社では一切負いかねますのでご注意ください。

I-2. ご使用前に

■ パッケージ内容の確認

MEDIAEDGE Decoder / MEDIAEDGE Decoder EX のパッケージの中に以下の付属品が入っていることを確認してください。

製品の梱包には万全を期しておりますが、万一不足しているものがありましたら、ご購入いただきました販売店もしくは下記カスタマーサポートまでご連絡ください。

メディアエッジ株式会社

カスタマーサポート

TEL: 078-265-1552

FAX: 078-265-1550

Mail: support@mediaedge.co.jp

(月曜～金曜 10:00～12:00、13:00～17:00 ※土日祝および当社指定休日を除く)

MEDIAEDGE Decoder 同梱物

- MEDIAEDGE Decoder 本体
- AC アダプター
- リモコン

リモコンには動作確認用の単 4 電池が 2 個付属しています。

- 操作ガイド
- お客様情報登録案内

MEDIAEDGE Decoder EX 同梱物

- MEDIAEDGE Decoder EX 本体
- AC アダプター
- リモコン

リモコンには動作確認用の単 4 電池が 2 個付属しています。

- 簡易説明書
- お客様情報登録案内

■ 当社ホームページについて

MEDIAEDGE Decoder / MEDIAEDGE Decoder EX を始めとする当社の最新情報をホームページ (<http://www.mediaedge.co.jp>)にて発信しています。最新のドライバー、ユーティリティ、製品マニュアル、FAQなどを公開していますので、当社ホームページに是非アクセスいただきご活用ください。

■ ファームウェアのバージョンについて

本書では MEDIAEDGE Decoder / MEDIAEDGE Decoder EX のファームウェアバージョン 8.4 での操作方法を説明しています。

I-3. 留意事項

■ 表記について

- 本書の説明と実際の運用方法とで相違点がある場合には、実際の運用方法を優先するものとします。
- 説明の便宜上、実際の製品とイラストおよび画面写真が異なる場合があります。
- 本書は MEDIAEDGE Decoder と MEDIAEDGE Decoder EX の共用の取扱説明書です。特別の表記がない場合、共通の内容については MEDIAEDGE Decoder と表記します。また、MEDIAEDGE Decoder EX 固有の内容については MEDIAEDGE Decoder EX と表記します。
 - **(MEDIAEDGE Decoder のみ)** …… MEDIAEDGE Decoder のみ該当する項目です。
 - **(MEDIAEDGE Decoder EX のみ)** …… MEDIAEDGE Decoder EX のみ該当する項目です。
- 本書では SSD 内蔵モデルの場合も HDD と区別せず内蔵 HDD と表記しています。

■ ご注意

- 本製品の内容や仕様は将来予告無しに変更することがあります。
- 本製品は内容について万全を期して作成いたしました。万が一不明な点や誤り、記載漏れなどお気付きの点がございましたら、当社までご連絡ください。
- 本製品付属のソフトウェア、ハードウェア、マニュアル、その他添付物を含めたすべての関連製品に関して、解析、リバースエンジニアリング、デコンパイル、ディスアセンブリを禁じます。

■ 制限事項

MEDIAEDGE Decoder / MEDIAEDGE Decoder EX 共通の制限事項を示します。

- 初期設定などで使用するブラウザとして、Windows で動作する Internet Explorer 8 (IE8)以降、Google Chrome、Mozilla Firefox をサポートしています。
上記以外の環境で使用した場合には一部もしくはすべての機能が正常に動作しない可能性があります。
- すべての SD カード/USB ストレージで正常動作することを保証するものではありません。
- SD カード/USB ストレージ内のコンテンツを再生中にこれらのドライブを抜くと内部的に異常な状態になることがあります。ドライブを抜く前に Web コンソールの[状態表示] > [ストレージ]タブで表示される、[安全な取り外し]ボタンをクリックし、情報ランプが消灯していることを確認してから取り外してください。
- UPnP は IPv4 の環境でのみ動作し、IPv6 が有効であっても IPv6 で通信しません。
- すべての動画、オーディオ、HTML、静止画コンテンツで正常動作することを保証するものではありません。正常に表示、再生できることを確認の上、コンテンツをご使用ください。
- 動画のみを再生している場合と、静止画やテロップ、HTML と同時に使用する場合は動画の再生

MEDIAEDGE

可能なビットレートなどの上限が異なります。

使用条件によって動作、再生の確認をお願いします。

- コンテンツの再生時間長を取得できないことがあります。そのため、再生情報のシークバーが正常に動作しないことがあります。
- mp4 または mov コンテンツの再生はスケジュールモード、チャンネルモード、メニューモードのローカルファイル再生でのみ動作します。また、前方/後方ジャンプ、可変速再生、複数台同期再生には対応していません。
- 動画コンテンツの再生開始時に、先頭付近でオーディオノイズが発生することがあります。
- Wi-Fi モデルでは、無線 LAN を使用したストリーミング再生には対応していません。
- リモコンの操作が再生状態に反映されるまでに時間がかかることがあります。
- **(MEDIAEDGE Decoder のみ)** HDMI 表示モードの設定が Auto のとき、OSD 背景色の設定にかかわらず黒 (RRGGBB=000000) になることがあります。
- **(MEDIAEDGE Decoder のみ)** モニターのメーカーや年式によっては HDMI CEC によるモニターの電源制御ができないことがあります。また、モニターによっては MEDIAEDGE Decoder の電源投入時にモニターの電源が自動的に入ってしまう機種があります。
- クローズドキャプションのビデオ出力および OSD 表示には以下の制限があります。
 - ストリーミング再生時はクローズドキャプション無効時よりもバッファリングが多く必要となります。そのためバッファリング時間設定に関わらずバッファリング時間が増加し、再生遅延が発生します。
 - MEDIAEDGE LEB Pro2/Express2 の低遅延ストリームには対応していません。
 - クローズドキャプションデータが含まれる 1280x720/59.94p でエンコードされたファイルを再生、またはストリーミング再生すると、コンポジットに含まれるクローズドキャプション信号は正しく出力されません。
 - 複数台同期再生が有効のときはクローズドキャプションのビデオ出力および OSD 表示は設定に関わらず無効になります。

MEDIAEDGE Decoder EX の制限事項を示します。

- 複数台同期再生が有効の場合、MEDIAEDGE Decoder の起動後 HDMI/SDI 出力信号がリファレンス信号に同期するまで 10 分ほど時間がかかります。また、同期処理中は HDMI/SDI 出力信号が乱れることがあります。コンテンツの再生は同期処理が終了してから開始してください。
- HDMI 出力信号は本機に設定された表示モードでのみ出力します。HDMI Sink (モニター等) が対応している表示モードへの自動設定は行いません。そのため HDMI モニターが対応しない表示モードが設定されている場合はモニターに正しく表示されないことがあります。
- HDMI CEC によるモニターの電源制御はできません。
- 単体の MEDIAEDGE Decoder EX は DCM で作成したレイアウト(SMIL)の表示は可能ですが、複数台同期再生を行う場合はレイアウト表示には対応していません。複数台同期再生での制限事項は「[■ VI-5-7 複数台同期再生を使用する際の注意事項](#)」も参照ください。
- SD カードスロットが搭載されていないため SD カードは使用できません。
- オーディオファイル(LPCM)はサンプリング周波数が 48kHz にのみ対応しています。

- テロップおよび SDI 入力映像はコンポジット出力には表示されません。

■ 利用許諾について

本製品は、搭載するソフトウェアの一部に GNU 一般公衆利用許諾 (GNU General Public License、以下「GPL」と呼ぶ) または GNU 劣等一般公衆利用許諾 (GNU Lesser General Public License、以下「LGPL」と呼ぶ) に該当するフリーソフトウェアを利用しています。

GPL/LGPL 該当のソフトウェアのリスト、ソースコードの請求、および本件に関する質問は当社カスタマーサポートまでお問い合わせください。

また本製品は、IPA フォントの派生フォント (ME フォント) を使用しています。IPA フォントライセンス v1.0 に基づき、派生フォントの写し、開発プログラムとフォントの他に生成されたファイル、本製品に含まれるフォントを IPA フォントに置き換える手順を提供することが可能です。本件に関する質問は当社カスタマーサポートまでお問い合わせください。

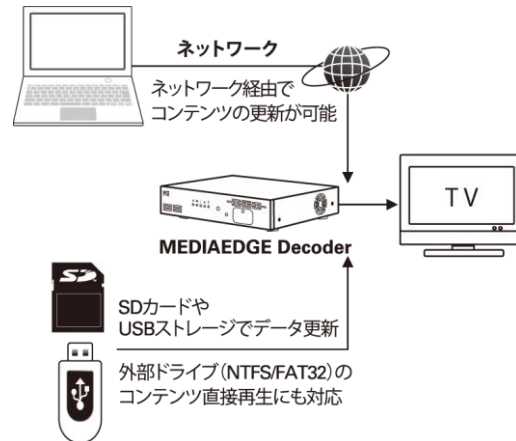
II. MEDIAEDGE Decoder について

この章では、MEDIAEDGE Decoder の概要や各部の機能について説明します。

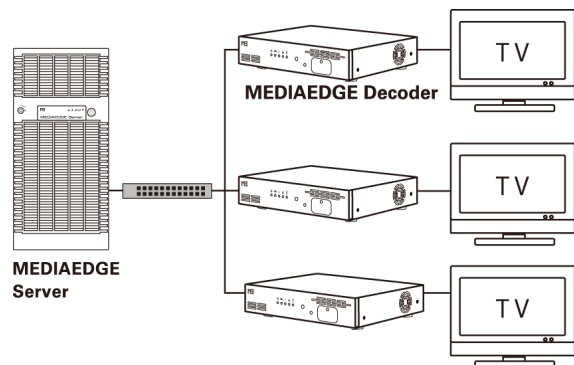
II-1. 概要と特長

■ II-1-1. MEDIAEDGE Decoder の概要

MEDIAEDGE Decoder は本体内蔵のストレージ (HDD、SSD) または接続されたストレージ (SD カード、USB ストレージ) のコンテンツファイルや、サーバーが配信する MPEG-2 トランスポートストリーム (MPEG-2 または H.264 でエンコードされたビデオストリーム) を再生するハイビジョン・プレイヤーです。メニューからコンテンツをリモコンで選択しての再生、ネットワークからのコントロールによる再生などを行います。コンテンツ更新はネットワークのほか SD カードや USB ストレージによっても行えます。



MEDIAEDGE Server (別売) と組み合わせてサーバー上のコンテンツをリモコンで選択してストリーミング再生をするビデオオンデマンドや、MEDIAEDGE LEB Pro2/Express2/Pro/Express (別売) からライブ映像ストリーミングを受信し再生することができます。



また、DCM (Display Content Manager: 別売) を使うとスケジュール再生や動画、静止画、HTML、テロップを一つの画面にレイアウトしたプレイリスト再生が可能です。複数台の本製品のコンテンツ更新や状態監視を一括して管理することができます。

ストリーミングとローカルコンテンツの再生、スケジュールやメニューモードなどを自由に組み合わせて使用可能です。制御、監視、コンテンツの更新などすべての機能がネットワークから行えます。

■ II-1-2. MEDIAEDGE Decoder の特長

- ローカルストレージに記録したデータの再生とストリーミング再生に対応。
据え置き型の再生装置とストリーミング端末としての両方の機能をサポートし、任意に切り替えて使用することで自由度の高いシステム構築が可能です。
- スケジュールによる自動再生、メニューによるコンテンツの選択、外部からのコントロールなど多くの用途への応用が可能です。
- 様々なネットワーク機能に対応。
 - IPv4、IPv6 に対応。
 - ストリーミング再生 (ユニキャスト、マルチキャスト)、共有ファイルへのアクセス。

- インターネット環境でコンテンツの更新、制御、監視などの操作が可能。
- ローカルストレージでの再生ではネットワークがなくても動作可能。
- 無線 LAN に対応 (Wi-Fi モデルのみ)。
- シームレスな再生切り替え (表示モードにより一部制約があります)。
- HTML5 に対応したブラウザを搭載。
- 複数コンテンツのレイアウト再生に対応。
- HDMI または SDI とコンポジットを同時に出力が可能。
 - HD モニターはメインに、SD モニターは手元で確認用などに使用できます。
- 場所を取らないコンパクトな筐体。

ご注意

- LAN 環境とインターネット環境では使用可能な機能や動作に差があります。
- 動作モードや機能の設定にはネットワークが必要です。

■ II-1-3. 再生可能なコンテンツ

II-1-3-1. 動画

H.264 もしくは MPEG-2 で圧縮されたフル HD (1920x1080) までの動画ファイルのファイル再生とストリーミング再生に対応しています。再生可能なファイルは、同時に再生するコンテンツや通信の状況、その他の条件によって制限が変わります。

ビデオ

- MPEG-2 (ISO/IEC 13818-2)
 - MP@HL、MP@H14
 - ◇ 解像度
1920x1080/30p、1920x1080/60i、1280x720/60p 以下
 - ◇ ビットレート
ファイル再生時 35Mbps 以下(※1)(※2)
ストリーミング再生時 25Mbps 以下(※3)(※4)
 - MP@ML
 - ◇ 解像度
720x480/30p、720x576/25p 以下
 - ◇ ビットレート
15Mbps 以下(※1)(※2)
 - コンテナ形式、拡張子
 - ◇ MPEG-2 TS (TS パケット長:192/188 バイト) : m2t, m2ts, mts
 - ◇ MPEG-2 PS : m2p

- MPEG-4 AVC / H.264 (ITU-T Rec. H.264)
 - HP@L4.0、MP@L4.0
 - ◇ 解像度
1920x1080/30p、1920x1080/60i、1280x720/60p 以下
 - ◇ ビットレート
ファイル再生時 24Mbps 以下(※1)(※2)
ストリーミング再生時 20Mbps 以下(※3)(※4)
 - BP@L3
 - ◇ 解像度
720x480/30p、720x576/25p 以下
 - ◇ ビットレート
10Mbps 以下(※1)(※2)
 - コンテナ形式、拡張子
 - ◇ MPEG-2 TS (TS パケット長:192/188 バイト) : m2t, m2ts, mts
 - ◇ MPEG-2 PS : mpg, m2p
 - ◇ MP4 (ISO/IEC 14496-14) : mp4 (※5)
 - ◇ QuickTime フォーマット : mov (※5)

※1 内蔵HDDにある動画を、レイアウト再生をせずに単独で再生した場合。SDカードやUSBストレージ上のファイルやレイアウト再生を行うと再生可能上限ビットレートは下がります。

※2 レイアウト再生を行う場合、MPEG-2: 18Mbps 以下、H.264: 9Mbps 以下を推奨。

※3 ローカルネットワークで MEDIAEDGE Server または MEDIAEDGE LEB からストリームを配信し、一度に送信する TS パケットの数: 7、FEC を使用しない設定にした場合。配信パラメーター(一度に送信する TS パケットの数や FEC 設定)により再生可能上限ビットレートは下がります。

※4 ストリーミング再生を行う場合、18Mbps 以下を推奨。

※5 mp4 または mov コンテンツの再生はスケジュールモード、チャンネルモード、メニューモードのローカルファイル再生でのみ動作します。また、前方/後方ジャンプ、可変速再生、複数台同期再生には対応していません。

オーディオ

- MPEG-1 Audio Layer1, Layer2 (ISO/IEC 11172-3)
- Dolby Digital (AC3) (1~5.1ch)
- MPEG-2/4 AAC-LC (1~2ch)

II-1-3-2. オーディオファイル

オーディオファイル再生は動画再生と排他使用となります。

- MPEG-1 Audio Layer3, MPEG-2 Audio Layer3
 - 32k/44.1k/48kHz (48kHz を推奨)
- RIFF waveform Audio Format
 - 非圧縮、8/16/24bit LPCM 1～2ch
 - 32k/44.1k/48kHz (48kHz を推奨)
- 拡張子
 - wav, mp3

II-1-3-3. 静止画

最大解像度 2000 × 2000 以下の静止画を任意の範囲に拡大、縮小して表示可能です。

- JPEG (Exif)
- PNG
- GIF (アニメーション GIF には対応していません)
- BMP
- 拡張子
 - jpg, jpeg, png, gif, bmp

II-1-3-4. HTML

HTML5に対応したブラウザを搭載しています (HTML5 のすべてのページが正しく表示できることを保証するものではありません)。

- 拡張子
 - html, htm, asp

II-1-3-5. テロップ

日本語、英語など複数の国の言語に対応したテロップの表示が可能です。テロップは文字と背景の色、文字サイズ、背景の透過度、スクロール速度が設定可能です。

- RSS
- テキスト (文字コードは UTF-8 または Shift JIS)
- 拡張子
 - text, txt, rss, xml, rdf

II-1-3-6. SMIL

「Display Content Manager」(別売り、以下 DCM と表記)を使用して作成されたプレイリスト (SMIL2.0 のサブセット) の再生に対応しています。

- 拡張子

➤ smil, smi, sml

※ レイアウト再生については DCM 付属のマニュアルを参照してください。

- コンテンツは、種類ごとにそれぞれ同時にひとつずつしか再生できません。
- 動画コンテンツとオーディオコンテンツは排他使用となります。
- すべてのファイルが正しく再生できることを保証するものではありません。

■ II-1-4. 対応機器

II-1-4-1. ストリーミング再生

次の機器が配信するストリーミング再生に対応しています。

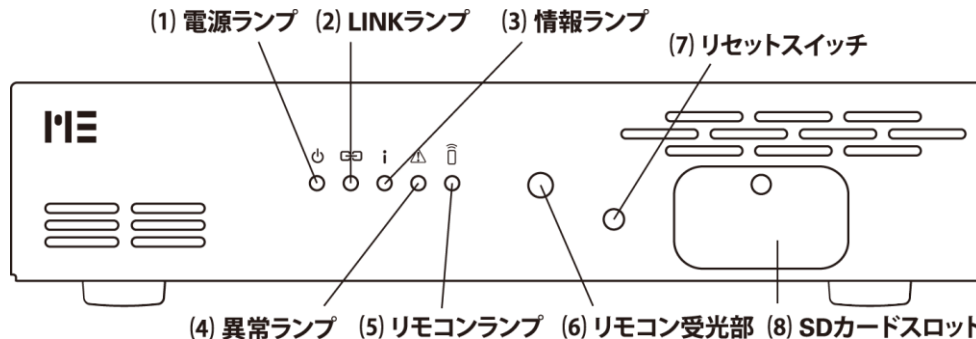
- MEDIAEDGE Server (SVS4)
- MEDIAEDGE LEB Pro2/Express2/Pro/Express/LEB4
- ネットワークカメラ

H.264、ONVIF 規格に対応した機種

- すべてのネットワークカメラで正しく再生できることを保証するものではありません。
- 動作確認済みネットワークカメラ一覧は当社のサイト(www.mediaedge.co.jp)をご参照ください。

II-2. 各部の名称と機能

■ II-2-1. MEDIAEDGE Decoder 前面部



- (1) 電源ランプ …………… 起動、シャットダウンなどの電源操作の伴う状態を表示します。
- ◇ 消灯……………電源が入っていません。
 - ◇ 緑色点滅(0.5 秒毎)………起動中・終了中です。
 - ◇ 緑色点滅(2 秒毎)………メンテナンスモードが起動しています。
 - ◇ 緑色点灯……………動作状態です。
 - ◇ 橙色点灯……………シャットダウン状態です。
 - ◇ 橙色点滅……………ファームウェア更新中です。
- (2) LINK ランプ……………ネットワークの状態を表示します。
- ◇ 消灯……………有線ネットワーク機器と接続されていません。
 - ◇ 点滅……………ネットワーク経由でデータを送受信しています。
 - ◇ 点灯……………有線ネットワーク機器と接続されています。
- (3) 情報ランプ……………外部ストレージ、内蔵 HDD/SSD のアクセス状態を表示します。
- ◇ 消灯……………外部ストレージが接続されていないか、書き込み禁止でマウントされています。
 - ◇ 点滅……………外部ストレージもしくは内蔵 HDD/SSD に書き込み中です。
 - ◇ 点灯……………外部ストレージが書き込み可能状態でマウントされています。
- (4) 異常ランプ……………ハードウェアに起因するエラー状態を表示します。
- ◇ 消灯……………正常に動作しています。
 - ◇ 点灯・点滅……………異常を検出しました。
- (5) リモコンランプ……………リモコンの受光を認識すると点灯します。
- (6) リモコン受光部……………リモコンの赤外線受光部が内蔵されています。
- (7) リセットスイッチ……………緊急時のリセットに使用します。通常は使用しないでください。
- ※ リセットスイッチを 5 秒以上押し続けた場合には「[メンテナンスモード](#)」に移行します。
- (8) SD カードスロット……………SD カードを挿入するスロットです。
- ※ 使用可能な SD カードは SD および SDHC のメモ리카ードのみです。

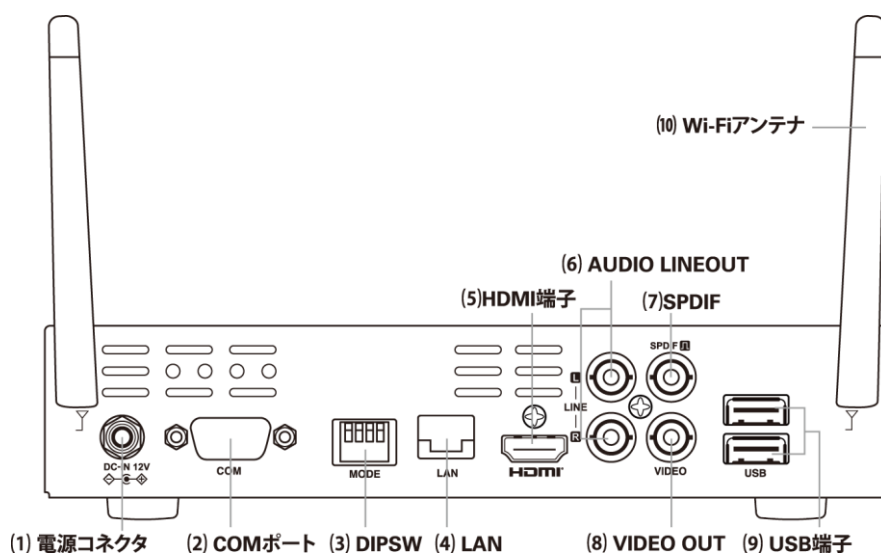
異常ランプ

装置の故障を検出すると異常ランプが点灯・点滅します。この場合は当社カスタマーサポートまでご連絡ください。

起動時のランプ点灯

電源投入直後や再起動直後、ハードウェアの初期化のため5秒程度の間ランプが全点灯します。

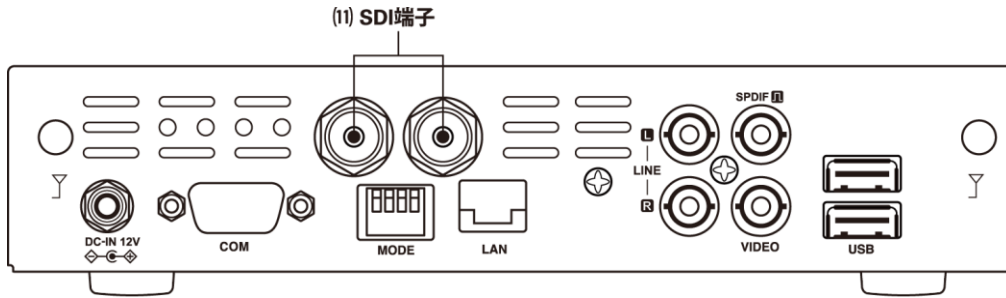
■ II-2-2. MEDIAEDGE Decoder 背面部



- (1) 電源コネクタ..... 付属の AC アダプターを接続します。
※付属の AC アダプター以外は絶対に使用しないでください。
- (2) COM ポート シリアル接続に使用します。
- (3) DIPSW..... 設定の初期化などに使用します。
※通常は全てのスイッチを OFF にしてください。
- (4) LAN LAN ケーブルを接続します。
- (5) HDMI 端子 HDMI 出力端子です。
※HDMI 端子にはビデオとオーディオが同時に出力されます。
※HDMI 端子は HDMI モデルのみ (SDI 端子とは排他使用です)。
- (6) AUDIO LINEOUT オーディオ出力です。
- (7) SPDIF..... 同軸デジタル音声出力端子です。
- (8) VIDEO OUT コンポジットビデオ出力端子です。
- (9) USB 端子..... USB デバイスを接続する端子です。本機では端子の上部を USB1、下部を USB2 として区別します。

(10) Wi-Fi アンテナWi-Fi 用のアンテナです。

※Wi-Fi アンテナは、Wi-Fi モデルのみに付属します。










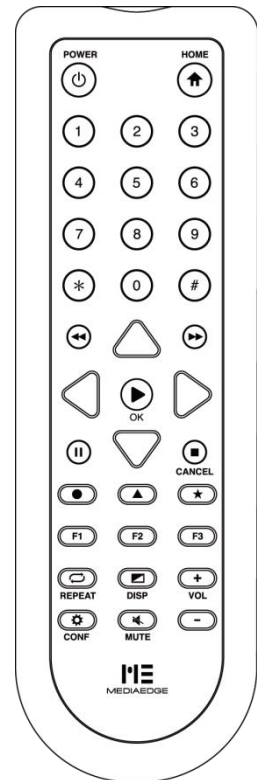
(11) SDI 端子3G/HD/SD-SDI 出力端子です。




※SDI 出力端子は SDI モデルのみ (HDMI 端子とは排他使用です)。

■ II-2-3. リモコン

キーの機能

-  (POWER)
MEDIAEDGE Decoder を起動またはシャットダウンします。
-  (HOME)
チャンネルモードで使用中はホームチャンネルを表示します。メニューモードで使用中はホーム画面に戻ります。
- (0)~(9)、(*)、(#)
チャンネルモードでは選択したチャンネルを選択します。メニューモードではメニューによって設定されたコンテンツを表示します。
その他に設定により数字の入力の必要な箇所で使用します。
-  (OK, CANCEL)
コンテンツの選択やメニューの選択に使用します。
- 
使用しません。
-  (REPEAT)
繰り返しが可能なコンテンツの場合に、繰り返しモードの ON/OFF を切り替えます。
-  (DISP)
再生情報 (再生中のコンテンツに関する情報) を表示します。
-  (CONF)
設定メニューを表示します。



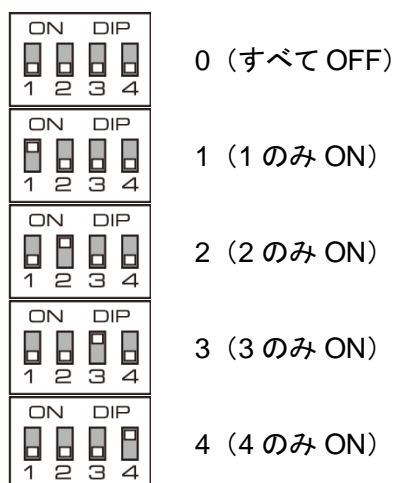
-  (MUTE)  (VOL+)  (VOL-) 音量を変更します。

リモコンで操作できる一部の機能は、設定により有効化／無効化できます。

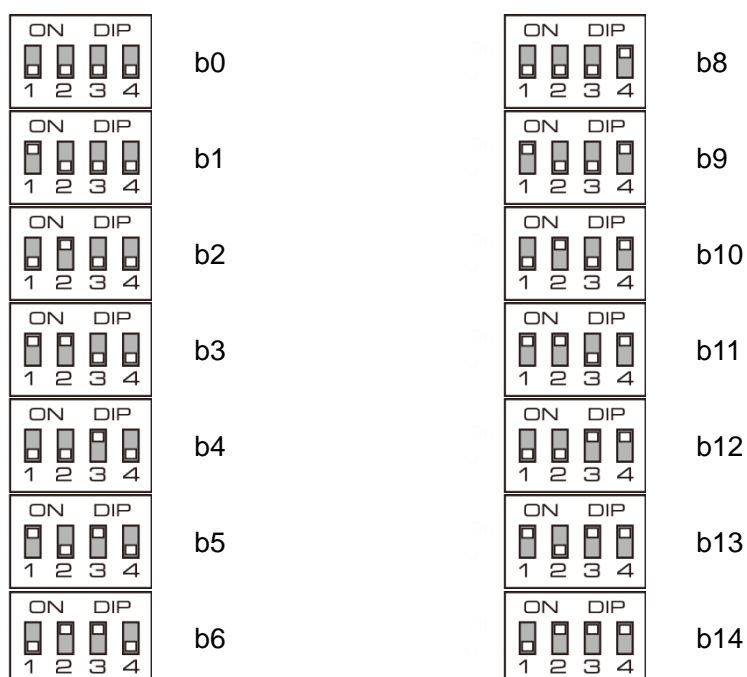
ID 設定

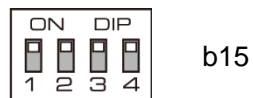
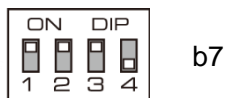
リモコンの ID 設定は電池ケースの中にある DIPSW で行います。

すべてのスイッチが OFF になっている状態で 0(初期状態)、1~4 はそれぞれの数字のスイッチを ON にします。



また、DIPSW の ON/OFF の組み合わせで 16 通りのリモコン信号を識別できます。





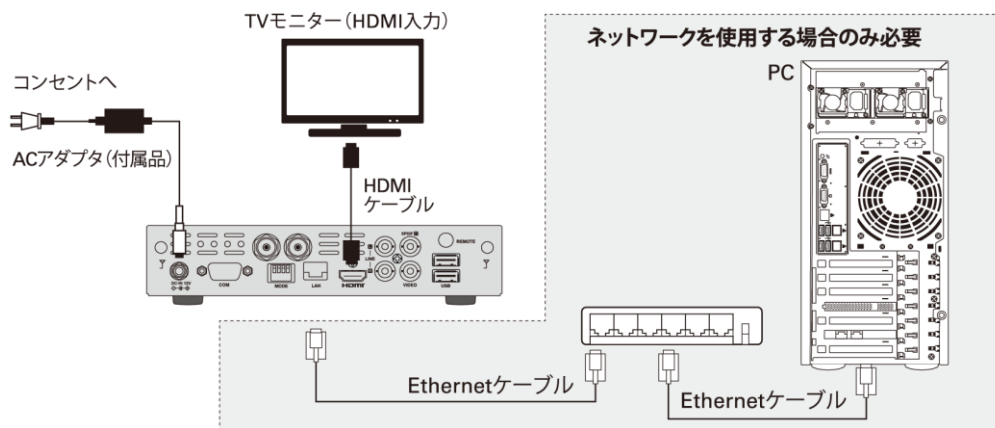
- ※ リモコンの ID は本体の設定 ([リモコン](#) 設定参照) と合わせてください。
- ※ リモコン ID の 0 と b0、1 と b1、2 と b2、3 と b4、4 と b8 と同じリモコン信号を出力します。

リモコンの ID と本体で設定している ID が異なっていると動作しません

II-3. 機器の接続

以下の接続例を参考に、MEDIAEDGE Decoder と周辺機器を接続してください。以下の説明は HDMI モデルのものですが、SDI モデルの場合は HDMI を SDI に読み替えてください。

- MEDIAEDGE Decoder とモニターを接続します。
接続例では HDMI で接続していますが、コンジットとオーディオケーブルで接続することも可能です。HDMI で接続した場合はモニターを自動で検出して最適なモードで表示を行います。
- 必要に応じてネットワークケーブルを接続します。
SD カードや USB ストレージ、内蔵 HDD/SSD などからコンテンツを再生するだけであれば、ネットワークケーブルを接続する必要はありません。
コンテンツの更新にネットワークを使用する場合、ネットワーク経由で制御する場合や設定を行う場合にはネットワークの接続が必要です。



- AC アダプターの DC プラグ(本体側)を本体の電源端子に接続してから AC プラグをコンセントに接続します。MEDIAEDGE Decoder に電源が入り装置が起動します。

AC アダプター接続時のご注意

AC アダプターを本体に接続するときは次の順番で行ってください。

- (1) AC プラグがコンセントに接続されている場合は抜く
- (2) DC プラグを本体に接続する
- (3) AC プラグをコンセントに接続する

III. MEDIAEDGE Decoder EX について

この章では、MEDIAEDGE Decoder EX の概要や各部の機能について説明します。

III-1. 概要と特長

■ III-1-1. MEDIAEDGE Decoder EX の概要

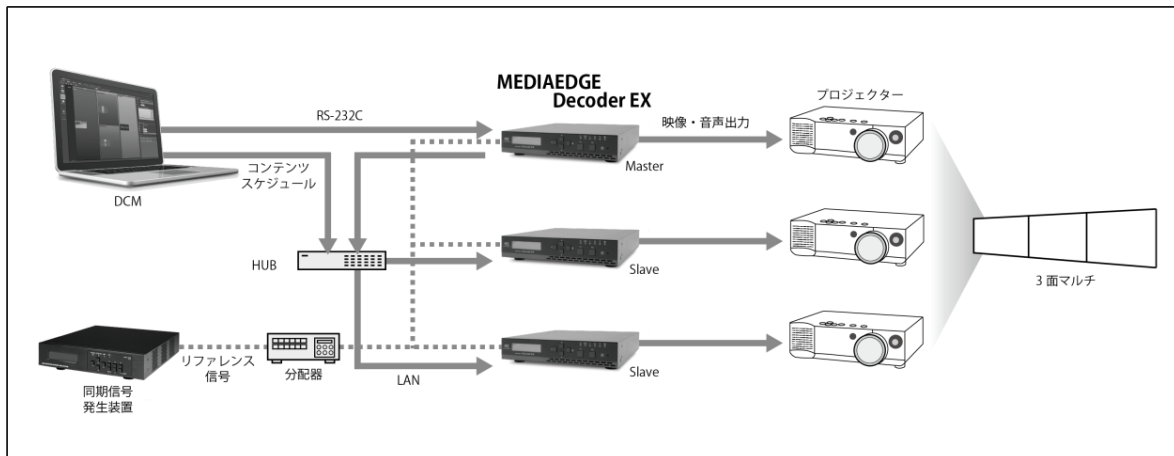
MEDIAEDGE Decoder EX は本体内蔵のストレージ(SSD)または接続されたストレージ(USBストレージ)のコンテンツファイル(MPEG-2またはH.264でエンコードされたビデオストリーム)を再生するハイビジョン・プレイヤーです。メニューからコンテンツをリモコンで選択しての再生、ネットワークからのコントロールによる再生などを行えます。コンテンツ更新はネットワークのほか USB ストレージによっても行えます。

また、DCM(Display Content Manager:別売)を使うとスケジュール再生や動画、静止画、HTML、テロップを一つの画面にレイアウトしたプレイリスト再生が可能です。複数台の本製品のコンテンツ更新や状態監視を一括して管理することができます。

ローカルコンテンツの再生、スケジュールやメニューモードなどを自由に組み合わせて使用可能です。制御、監視、コンテンツの更新などすべての機能がネットワークから行えます。

また、REF-IN (リファレンス信号入力) 端子を搭載しており、リファレンス信号に完全に同期した映像信号を出力することができます。

■ MEDIAEDGE Decoder EX 同期再生イメージ



■ III-1-2. MEDIAEDGE Decoder EX の特長

- 外部同期に対応。
リファレンス信号として Black Burst、3 値 Sync を入力し、MEDIAEDGE Decoder EX のビデオ出力をリファレンス信号に同期させることができます。
- 複数台同期再生に対応。
 - ネットワーク接続環境で MEDIAEDGE Decoder EX マスターユニットを操作することでスレーブユニットを制御して再生開始のタイミングを同期させることができます。
 - スケジュールまたは DVD/LD プレイヤー互換コマンド制御による同期再生に対応しています。
- DCM (Display Content Manager)を使用することにより同期再生スケジュールを作成できます。
- SDI 入力映像を再生映像の背景として重ね合わせて表示することができます。
- フロントパネルにより再生状態の表示、本体の設定の確認、設定等を行うことができます。

■ III-1-3. 再生可能なコンテンツ

III-1-3-1. 動画

H.264 もしくは MPEG-2 で圧縮されたフル HD (1980x1080) までの動画ファイルのファイル再生とストリーミング再生に対応しています。再生可能なファイルは、同時に再生するコンテンツや通信の状況、その他の条件によって制限が変わります。

ビデオ

- MPEG-2 (ISO/IEC 13818-2)
 - MP@HL、MP@H14
 - ◇ 解像度
1920x1080/30p、1920x1080/60i、1280x720/60p 以下
 - ◇ ビットレート
ファイル再生時 30Mbps 以下(※1) (※2)
ストリーミング再生時 25Mbps 以下(※3) (※4)
 - MP@ML
 - ◇ 解像度
720x480/30p、720x576/25p 以下
 - ◇ ビットレート
15Mbps 以下(※1) (※2)
 - コンテナ形式、拡張子
 - ◇ MPEG-2 TS (TS パケット長: 192/188 バイト) : m2t, m2ts, mts
 - ◇ MPEG-2 PS : m2p

- MPEG-4 AVC / H.264 (ITU-T Rec. H.264)
 - HP@L4.0、MP@L4.0
 - ◇ 解像度
1920x1080/30p、1920x1080/60i、1280x720/60p 以下
 - ◇ ビットレート
ファイル再生時 24Mbps 以下(※1)(※2)
ストリーミング再生時 20Mbps 以下(※3)(※4)
 - BP@L3
 - ◇ 解像度
720x480/30p、720x576/25p 以下
 - ◇ ビットレート
10Mbps 以下(※1)(※2)
 - コンテナ形式、拡張子
 - ◇ MPEG-2 TS (TS パケット長:192/188 バイト) : m2t, m2ts, mts
 - ◇ MPEG-2 PS : mpg, m2p
 - ◇ MP4 (ISO/IEC 14496-14) : mp4 (※5)
 - ◇ QuickTime フォーマット : mov (※5)

※1 内蔵 HDD にある動画を、レイアウト再生をせずに単独で再生した場合。USB ストレージ上のファイルやレイアウト再生を行うと再生可能上限ビットレートは下がります。

※2 レイアウト再生を行う場合、MPEG-2: 18Mbps 以下、H.264: 9Mbps 以下を推奨。

※3 ローカルネットワークで MEDIAEDGE Server または MEDIAEDGE LEB からストリームを配信し、一度に送信する TS パケットの数: 7、FEC を使用しない設定にした場合。配信パラメーター(一度に送信する TS パケットの数や FEC 設定)により再生可能上限ビットレートは下がります。

※4 ストリーミング再生を行う場合、18Mbps 以下を推奨。

※5 mp4 または mov コンテンツの再生はスケジュールモード、チャンネルモード、メニューモードのローカルファイル再生でのみ動作します。また、前方/後方ジャンプ、可変速再生、複数台同期再生には対応していません。

オーディオ

- MPEG-1 Audio Layer1, Layer2 (ISO/IEC 11172-3)
- Dolby Digital (AC3) (1~5.1ch)
- MPEG-2/4 AAC-LC (1~2ch)

III-1-3-2. オーディオファイル

オーディオファイル再生は動画再生と排他使用となります。

- MPEG-1 Audio Layer3, MPEG-2 Audio Layer3
 - 32k/44.1k/48kHz (48kHz を推奨)
- RIFF waveform Audio Format
 - 非圧縮、8/16/24bit LPCM 1～2ch
 - 48kHz のみ
- 拡張子
 - wav, mp3

III-1-3-3. 静止画

最大解像度 2000 × 2000 以下の静止画を任意の範囲に拡大、縮小して表示可能です。

- JPEG (Exif)
- PNG
- GIF (アニメーション GIF には対応していません)
- BMP
- 拡張子
 - jpg, jpeg, png, gif, bmp

III-1-3-4. HTML

HTML5に対応したブラウザを搭載しています (HTML5 のすべてのページが正しく表示できることを保証するものではありません)。

- 拡張子
 - html, htm, asp

III-1-3-5. テロップ

日本語、英語など複数の国の言語に対応したテロップの表示が可能です。テロップは文字と背景の色、文字サイズ、背景の透過度、スクロール速度が設定可能です。

- RSS
- テキスト (文字コードは UTF-8 または Shift JIS)
- 拡張子
 - text, txt, rss, xml, rdf

III-1-3-6. SMIL

「Display Content Manager」(別売り、以下 DCM と表記)を使用して作成されたプレイリスト (SMIL2.0 のサブセット) の再生に対応しています。

- 拡張子

- smil, smi, sml

※ レイアウト再生については DCM 付属のマニュアルを参照してください。

- SMIL 内で同時に再生できるコンテンツ個数の上限は次のようになります。
 - 動画またはオーディオファイル 1 個
 - 静止画 1 個
 - HTML 1 個
 - テロップ 2 個 (※1)
- (※1) コンポジット出力にはテロップは表示されません。
- 動画コンテンツとオーディオコンテンツは排他使用となります。
- すべてのファイルが正しく再生できることを保証するものではありません。

■ III-1-4. 対応機器

III-1-4-1. ストリーミング再生

次の機器が配信するストリーミング再生に対応しています。

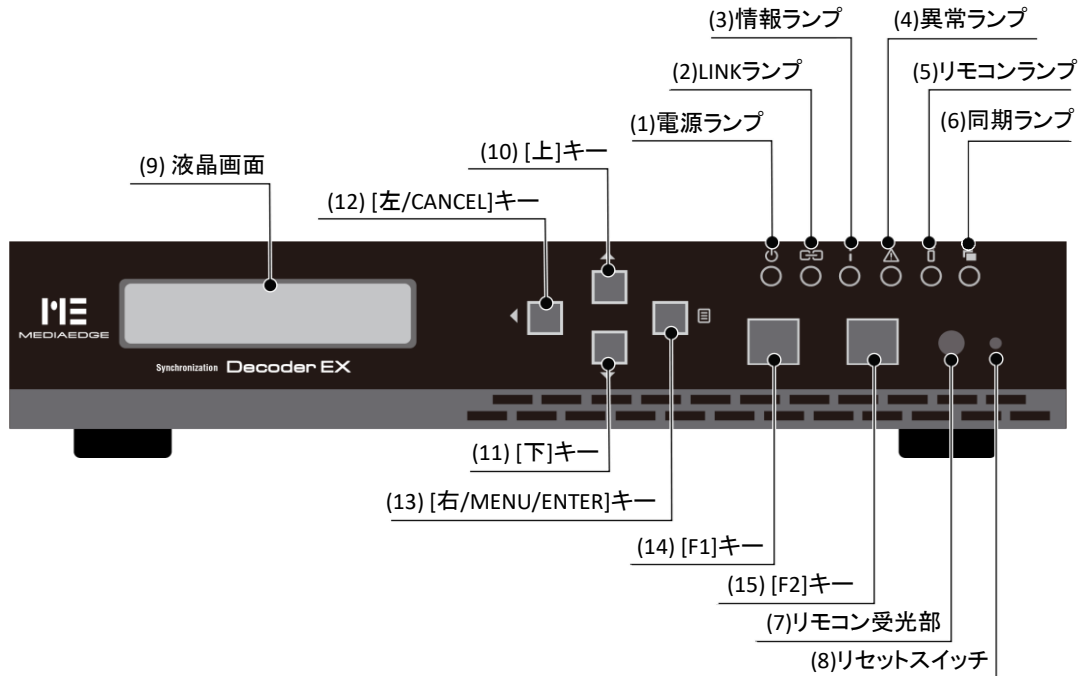
- MEDIAEDGE Server (SVS4)
- MEDIAEDGE LEB Pro2/Express2/Pro/Express/LEB4
- ネットワークカメラ

H.264、ONVIF 規格に対応した機種

- すべてのネットワークカメラで正しく再生できることを保証するものではありません。
- 動作確認済みネットワークカメラ一覧は当社のサイト(www.mediaedge.co.jp)をご参照ください。

III-2. 各部の名称と機能

■ III-2-1. MEDIAEDGE Decoder EX 前面部



- (1) 電源ランプ …………… 起動、シャットダウンなどの電源操作の伴う状態を表示します。
- ◇ 消灯 …………… 電源が入っていません。
 - ◇ 緑色点滅(0.5 秒毎) …………… 起動中・終了中です。
 - ◇ 緑色点滅(2 秒毎) …………… メンテナンスモードが起動しています。
 - ◇ 緑色点灯 …………… 動作状態です。
 - ◇ 橙色点灯 …………… シャットダウン状態です。
 - ◇ 橙色点滅 …………… ファームウェア更新中です。
- (2) LINK ランプ …………… ネットワークの状態を表示します。
- ◇ 消灯 …………… 有線ネットワーク機器と接続されていません。
 - ◇ 点滅 …………… ネットワーク経由でデータを送受信しています。
 - ◇ 点灯 …………… 有線ネットワーク機器と接続されています。
- (3) 情報ランプ …………… 外部ストレージ、内蔵 HDD/SSD のアクセス状態を表示します。
- ◇ 消灯 …………… 外部ストレージが接続されていないか、書き込み禁止でマウントされています。
 - ◇ 点滅 …………… 外部ストレージもしくは内蔵 HDD/SSD に書き込み中です。
 - ◇ 点灯 …………… 外部ストレージが書き込み可能状態でマウントされています。
- (4) 異常ランプ …………… ハードウェアに起因するエラー状態を表示します。
- ◇ 消灯 …………… 正常に動作しています。

- ◇ 点灯・点滅 ----- 異常を検出しました。
- (5) リモコンランプ リモコンの受光を認識すると点灯します。
- (6) 同期ランプ ビデオ出力信号の同期状態を表示します。
 - ◇ 消灯 ----- 同期可能なリファレンス信号/SDI 信号(※)が入力されていないかビデオ出力信号がない状態です。
 - ◇ 点滅 ----- 同期可能なリファレンス信号/SDI 信号(※)が入力されており、ビデオ出力信号を調整中です。
 - ◇ 点灯 ----- 同期可能なリファレンス信号/SDI 信号(※)が入力されており、ビデオ出力信号が同期した状態です。
- ※ [SDI 入力の背景表示](#)が無効の場合はリファレンス信号、有効の場合は SDI 信号に同期します。
- (7) リモコン受光部 リモコンの赤外線受光部が内蔵されています。
- (8) リセットスイッチ 緊急時のリセットに使用します。通常は使用しないでください。
 - ※ リセットスイッチを 5 秒以上押し続けた場合には「[メンテナンスモード](#)」に移行します。
- (9) 液晶画面 状態表示、設定メニューを表示します。
- (10) [上]キー 設定メニュー操作時に上の項目に移動します。
- (11) [下]キー 設定メニュー操作時に下の項目に移動します。
- (12) [左/CANCEL]キー 設定メニュー操作時に 1 つ前の項目へ移動/キャンセルキーとして使用します。
- (13) [右/MENU/ENTER]キー ... 設定メニュー操作時に項目を確定するキーとして使用します。シャットダウン状態のときに、5 秒以上押し続けることで MEDIAEDGE Decoder EX が起動します。
- (14) [F1]キー 使用しません。
- (15) [F2]キー 使用しません。

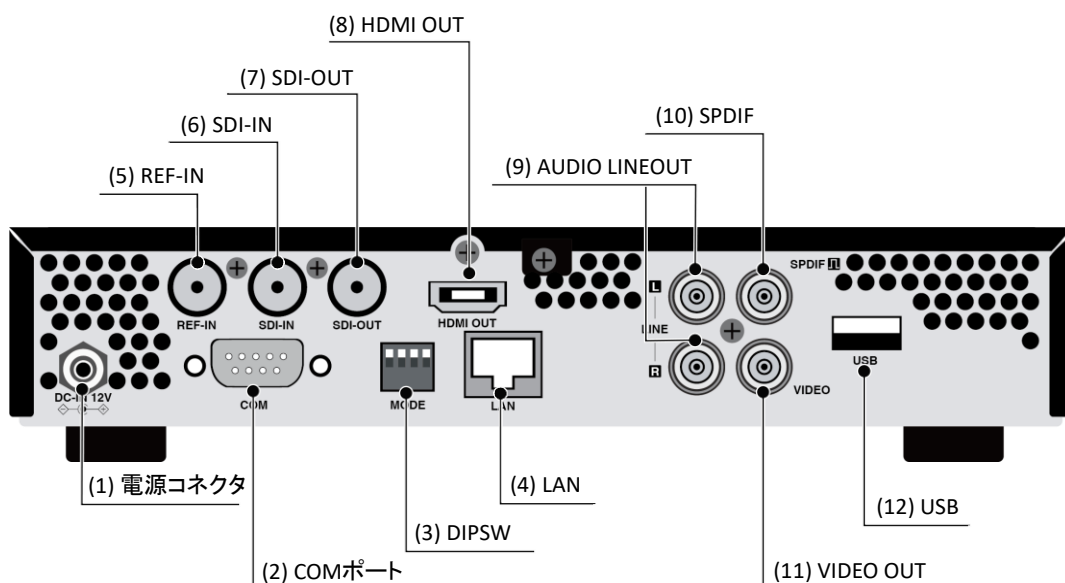
異常ランプ

装置の故障を検出すると異常ランプが点灯・点滅します。この場合は当社カスタマーサポートまでご連絡ください。

起動時のランプ点灯

電源投入直後や再起動直後、ハードウェアの初期化のため 5 秒程度の間ランプが全点灯します。

■ III-2-2. MEDIAEDGE Decoder EX 背面部



- (1) 電源コネクタ..... 付属の AC アダプターを接続します。
※付属の AC アダプター以外は絶対に使用しないでください。
- (2) COM ポート シリアル接続に使用します。
- (3) DIPSW 設定の初期化などに使用します。
※通常は全てのスイッチを OFF にしてください。
- (4) LAN LAN ケーブルを接続します。
- (5) REF-IN 端子 リファレンス信号の入力端子です。
- (6) SDI-IN 端子 3G/HD-SDI 入力端子です。
- (7) SDI-OUT 端子 3G/HD-SDI 出力端子です。
※SDI-OUT 端子にはビデオとオーディオが同時に出力されます。
- (8) HDMI OUT 端子 HDMI 出力端子です。
※HDMI 端子にはビデオとオーディオが同時に出力されます。
- (9) AUDIO LINEOUT..... オーディオ出力です。
- (10) SPDIF 同軸デジタル音声出力端子です。
- (11) VIDEO OUT コンポジットビデオ出力端子です。
- (12) USB 端子 USB デバイスを接続する端子です。

■ III-2-3. ビデオ信号同期

MEDIAEDGE Decoder EX はリファレンス信号に MEDIAEDGE Decoder EX のビデオ出力を同期させる Genlock に対応しています。

使用可能なリファレンス信号は次のとおりです。

- Black Burst (NTSC のみ)
- 3 値 Sync (1920x1080/59.94i のみ)

リファレンス信号との同期状況は本機前面部の同期ランプで確認可能です。

| 同期ランプの状態 | 説明 |
|----------|--|
| 消灯 | 同期可能なリファレンス信号が入力されていないかビデオ出力信号がない状態です。ビデオ出力信号はフリーランで動作します。 |
| 点滅 | 同期可能なリファレンス信号が入力されており、ビデオ出力信号を調整中です。 ※クロック調整中は HDMI/SDI 出力信号が乱れるため、モニターが黒画面になることや、正常に表示されないことがあります。 |
| 点灯 | 同期可能なリファレンス信号が入力されており、ビデオ出力信号が同期した状態です。 |

REF-IN 端子から入力するリファレンス信号としては一般的な信号発生器(シンクジェネレーター)が使用可能であり、次の信号発生器での動作を確認しています。

- イメージニクス株式会社製 SG-401
 - Black Burst
- ブラックマジックデザイン製 Mini Converter Sync Generator
 - NTSC、1080i/59.94

ご注意

- すべての信号発生器での動作を保証するものではありません。
- 複数台同期再生が有効の場合、MEDIAEDGE Decoder の起動後、HDMI/SDI 出力信号がリファレンス信号に同期するまで 10 分ほど時間がかかります。また、同期処理中は HDMI/SDI 出力信号が乱れることがあります。コンテンツの再生は同期処理が終了してから開始してください。
- [SDI 入力の背景表示](#)が[有効]の場合は REF-IN 端子の信号をリファレンス信号として使用することはできません。
- 再生を開始する前に安定したリファレンス信号を入力してください。また動作中にリファレンス信号を停止しないようにしてください。再生中にリファレンス信号を停止したり、リファレンス信号が変化したりすると、HDMI/SDI 出力信号が途切れたり、複数台間で表

示フレームがずれたりする恐れがあります。

複数台の MEDIAEDGE Decoder EX にリファレンス信号を入力する場合、次の分配形式に対応しています。

- 分配器による分配
すべての MEDIAEDGE Decoder EX でリファレンス入力終端抵抗の設定を「75Ω」に設定してください。
- 分岐コネクタによる分配
リファレンス入力終端抵抗の設定を、末端の 1 台を「75Ω」、その他を「Open」に設定すると最大 4 台までリファレンス信号を分配することができます。

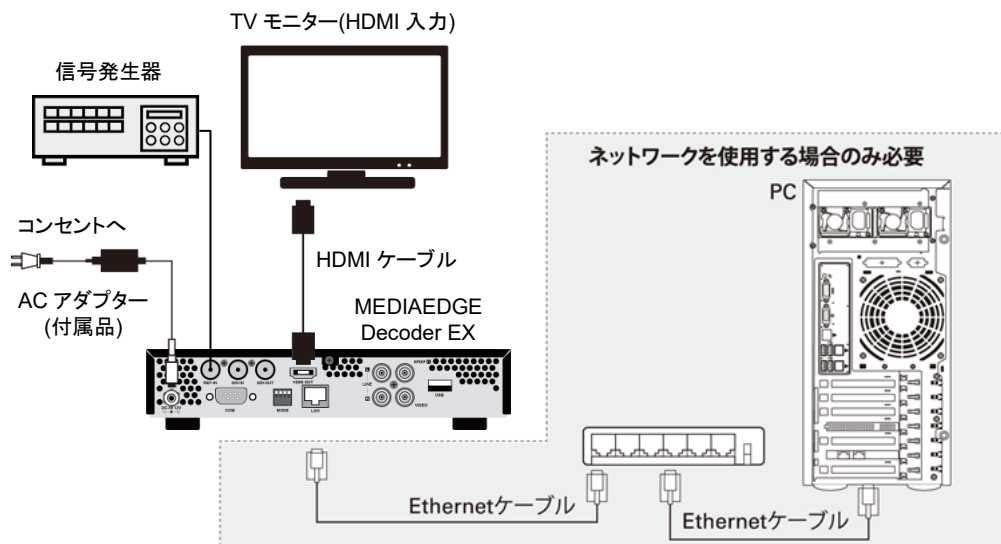
■ III-2-4. リモコン

- II-2-3 [リモコン](#)の項をご参照ください。

III-3. 機器の接続

以下の接続例を参考に、MEDIAEDGE Decoder EX と周辺機器を接続してください。

- MEDIAEDGE Decoder EX とモニターを接続します。
接続例では HDMI で接続していますが、SDI やコンポジットとオーディオケーブルで接続することも可能です。
- ビデオ出力信号をリファレンス信号と同期させる場合は REF-IN 端子と信号発生器の出力を接続します。
- 必要に応じてネットワークケーブルを接続します。内蔵 SSD や USB ストレージからコンテンツを再生するだけであれば、ネットワークケーブルを接続する必要はありません。
コンテンツの更新にネットワークを使用する場合、ネットワーク経由で制御する場合や設定を行う場合にはネットワークの接続が必要です。



- AC アダプターの DC プラグ(本体側)を本体の電源端子に接続してから AC プラグをコンセントに接続します。MEDIAEDGE Decoder EX に電源が入り装置が起動します。

AC アダプター接続時のご注意

AC アダプターを本体に接続するときは次の順番で行ってください。

- (1) AC プラグがコンセントに接続されている場合は抜く
- (2) DC プラグを本体に接続する
- (3) AC プラグをコンセントに接続する

IV. 動作確認と初期設定

この章では、MEDIAEDGE Decoder / MEDIAEDGE Decoder EX の動作確認方法および初期設定について説明します。

IV-1. 動作確認

■ IV-1-1. 起動とシャットダウン

IV-1-1-1. 起動

MEDIAEDGE Decoder を起動するには次の方法があります。

- AC アダプターをコンセントに接続する。
- リモコンの(POWER)キーを押す。
- 前面のリセットスイッチを押す。
- Web コンソールから[起動]ボタンを押す。
(MEDIAEDGE Decoder がシャットダウン中の場合のみ)
- **(MEDIAEDGE Decoder EX のみ)** フロントパネルの[右/MENU/ENTER]キーを 5 秒以上長押しする。
(MEDIAEDGE Decoder EX がシャットダウン中の場合のみ)

本機が起動完了すると電源ランプが緑色に点灯します。

MEDIAEDGE Decoder EX の場合、液晶画面は右のような状態表示になります。

| |
|--------------------|
| Decoder EX STOP |
|--------------------|

(MEDIAEDGE Decoder EX のみ) 起動状態になっても HDMI または SDI モニターに何も表示されていない場合は■ IV-2-2 [表示設定](#)を参照して表示設定を行ってください。

IV-1-1-2. シャットダウン

MEDIAEDGE Decoder をシャットダウンするには次の方法があります。

- リモコンの(POWER)キーを押す。
- Web コンソールの [機器管理] > [再起動・シャットダウン] 画面から [シャットダウン] を実行する。
- **(MEDIAEDGE Decoder EX のみ)** フロントパネルの設定メニューから [5.SHUTDOWN] > [Power off] を選択する。

本機がシャットダウンすると電源ランプが橙色に点灯します。

MEDIAEDGE Decoder EX の場合、液晶画面には何も表示されなくなります。

シャットダウン状態では一部の機能(ネットワークによる状態監視)が動作しています。

シャットダウン時のご注意

コンテンツの更新中やファームウェアの更新中は絶対にシャットダウンしないでください。

AC アダプターをコンセントから抜く場合は、必ずシャットダウン操作を行い電源ランプが橙色に点灯していることを確認してから行なってください。内蔵 HDD/SSD の故障や、コンテンツファイルの破損の恐れがあります。

■ IV-1-2. 再生確認

当社のサイト(www.mediaedge.co.jp)より MEDIAEDGE Decoder のサンプルコンテンツをダウンロードできます。ダウンロードしたデータを、SD カード(もしくは USB ストレージ)にコピーして MEDIAEDGE Decoder に挿入してください。

メニューモード(工場出荷時設定)ではリモコンの(CANCEL)キーを押すとメニューが更新され、挿入した SD カード(もしくは USB ストレージ)が画面に表示されます(※)。挿入したストレージ > MEDIAEDGE > _Schedule 以下にあるスケジュールコンテンツをリモコンで選択し、(OK)キーを押すとスケジュール再生ができます。

※ 工場出荷後の最初の起動時には[設定メニュー](#)が表示されます。設定メニューはリモコンの(CONF)キーで消去できます。

SD カード、USB ストレージについて

- SD カードは SDHC 32G バイトまで、USB ストレージは 2T バイトまで対応しています。
- ファイルシステムは NTFS もしくは FAT16/FAT32 に対応しています。コンテンツファイルのサイズが 4G バイトを越える場合には NTFS を使用してください。
- SD カード、USB ストレージは Windows PC でフォーマットしてください。
- 情報ランプが点滅または点灯している場合は SD カードや USB ストレージを取り外さないでください。Web コンソールの[状態表示] > [ストレージ]タブで表示される、[安全な取り外し]ボタンをクリックし、情報ランプが消灯していることを確認してから取り外してください。
- USB ストレージとして HDD を使用する場合、セルフパワーで給電するタイプのものを使用してください。USB バスパワーで動作させた場合、電力不足で動作しないことがあります。

IV-2. 初期設定

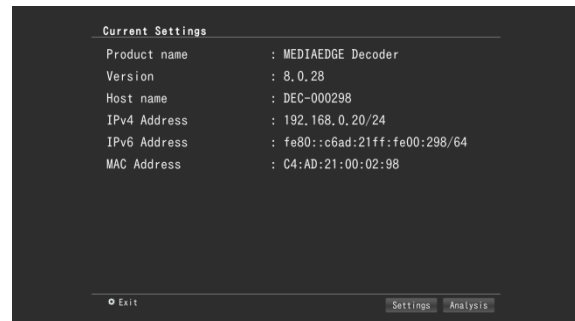
■ IV-2-1. ネットワーク設定

IV-2-1-1. リモコンを使用した設定

MEDIAEDGE Decoder の起動後にリモコンの(CONF)キーを押すと、モニターに設定メニューが表示されます。

● 現在の状態表示(Current Settings)

設定メニューを表示すると現在の状態(設定値もしくは DHCP などから取得した値)が表示されます。設定を変更するには▽キーを押して、[Next]を選択して設定画面(Change Setting)に移動してください。



● 設定の変更(Change Settings)

- IPv6 を使用する場合は、リモコンを使用して IPv6 の[Enabled]にチェックを付けてください。
- リモコンを使用して IPv4 の[Use the following IPv4 address]にチェックを付けてください。
- リモコンを使用して IP アドレスを入力してください。◀△▽▶キーでカーソル位置が移動します。(0)~(9)の数字キーで正しい数値を入力してください。Ⓜキーで文字削除ができます。
- リモコンを使用して[Use the following DNS server address]にチェックを付けてください。



- リモコンを使用して IP アドレスを入力してください。
- ※ DHCP 接続を行う場合、IPv4 は[Obtain an IPv4 address automatically (DHCP)]に、DNS は[Obtain DNS server address automatically]にチェックをつけてください。

● 設定の保存

設定を保存するには画面下の[Save]にカーソルを移動し、(OK)キーを押します。

MEDIAEDGE Decoder の再起動が必要な場合、"Settings requires rebooting the system. Proceed anyway?"と表示されます。[OK]を選択すると、MEDIAEDGE Decoder が再起動し、設定が反映されます。

● 設定終了

設定メニューを消去するにはリモコンの(CONF)キーを押します。

初期設定後の最初の起動では自動的に設定メニューが表示されます。設定変更の有無にかかわらず二度目からは表示されなくなります。必要な場合にはリモコンの(CONF)キーで呼び出してください。

無線 LAN 設定について(Wi-Fi モデルのみ)

無線 LAN の設定は設定メニューからは行えません。設定メニューで有線 LAN の設定後、有線ネットワーク経由で次節 [Web コンソールからの設定](#)に従い、Web コンソールから無線 LAN の設定を行ってください。

IV-2-1-2. フロントパネルでの設定 (MEDIAEDGE Decoder EX のみ)

- MEDIAEDGE Decoder EX が起動すると右のような状態表示になります。

```
Decoder EX  
STOP
```

- [右/MENU/ENTER]キーを押して設定メニューに切り替えます。

```
MENU  
1.VIDEO
```

- [下]キーを押して[2.NETWORK]を選び、[右/MENU/ENTER]キーを押します。

```
NETWORK  
1.IPv6
```

- [下]キーを押して[2.IPv4]を選び、[右/MENU/ENTER]キーを押します。

```
IPv4  
[ DHCP            ]
```

- [下]キーを押して[Manual]を選び、[右/MENU/ENTER]キーを押します。

```
Manual setting  
1.IP address
```

- [1.IP address]を選び、[右/MENU/ENTER]キーを押します。

```
IP address  
000.000.000.000
```

- IP アドレスを設定します。
[左/CANCEL]、[右/MENU/ENTER]キーで桁数を、[上]、[下]キーで数字を変更します。12 桁目で[右/MENU/ENTER]キーを押して IP アドレスは設定完了です。

```
IP address  
192.168.000.020
```

例) 192.168.0.20

- [2.Subnet mask]を選び、[右/MENU/ENTER]キーを押して、サブネットマスクを設定します。

```
Subnet mask  
255.255.255.000
```

[左/CANCEL]、[右/MENU/ENTER]キーで桁数を、[上]、[下]キ

一で数字を変更します。12桁目で[右/MENU/ENTER]キーを押してサブネットマスクは設定完了です。

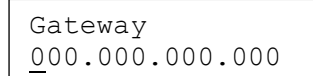
例) 255.255.255.0

- [3.Gateway]を選び、[右/MENU/ENTER]キーを押して、デフォルトゲートウェイを設定します。

[左/CANCEL]、[右/MENU/ENTER]キーで桁数を、[上]、[下]キーで数字を変更します。12桁目で[右/MENU/ENTER]キーを押してデフォルトゲートウェイは設定完了です。

例) 0.0.0.0 (“0.0.0.0”は無指定を意味します。)

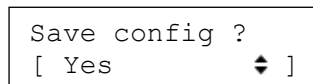
- 右の画面が表示されるまで[左/CANCEL]キーを押します。



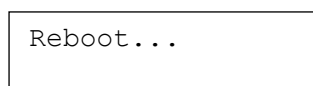
Gateway
000.000.000.000

- [Yes]を選び、[右/MENU/ENTER]キーを押すと設定が保存され、MEDIAEDGE Decoder EX が再起動します。

[No]を選び、[右/MENU/ENTER]キーを押すと設定は破棄されて状態表示に戻ります。この場合は再度設定を行ってください。



Save config ?
[Yes ⇩]



Reboot...

IV-2-1-3. Web コンソールでの設定

MEDIAEDGE Decoder がネットワークに接続できる場合は、[Web コンソール](#)から詳細な設定が行えます。Web ブラウザー (Windows 上で動作する Internet Explorer 8 以降もしくは Google Chrome か Mozilla Firefox) で MEDIAEDGE Decoder を開いてください。

例) : MEDIAEDGE Decoder の IPv4 アドレスが 192.168.0.20 である場合、次のように URL を入力します。

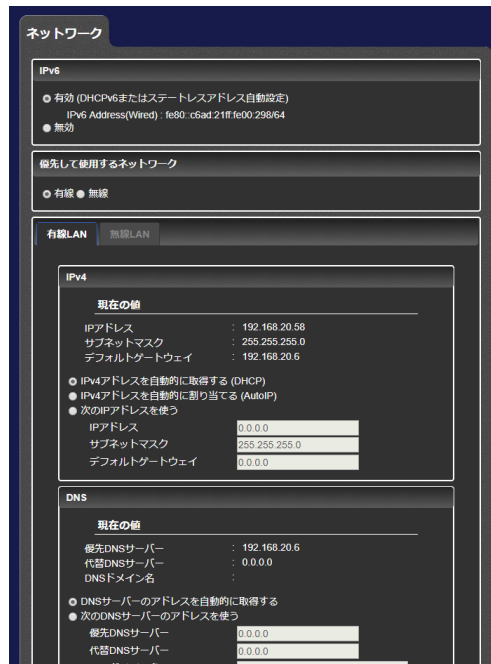
<http://192.168.0.20>

右のような画面が表示されるので、ユーザー名およびパスワードを入力してください。

※工場出荷時設定では、ユーザー名は admin、パスワードはなし(設定されていません)。

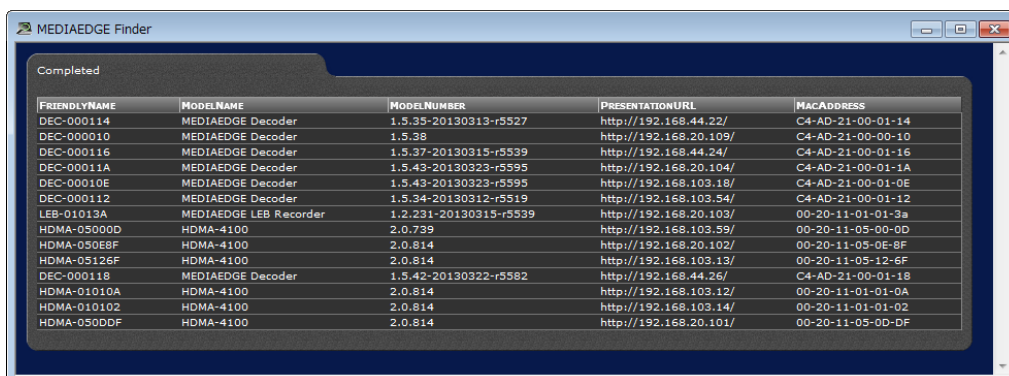


[設定] > [ネットワーク]からネットワークの設定画面を開き[IPv6]、[有線 LAN]、[無線 LAN]、[ホスト名]、[NTP]を設定してください。



IV-2-1-4. 設定、状態の確認

- MEDIAEDGE Decoder の起動後にリモコンの(CONF)キーで画面に設定メニューを表示します（設定により表示されない場合もあります）。
- Windows 7, 8, 10 ではエクスプローラーの[ネットワーク] > [その他のデバイス]に同一のネットワークに接続した MEDIAEDGE Decoder のホスト名が表示され、デバイスをダブルクリックすると Web コンソールが表示されます。
ホスト名を設定しない場合「DEC-xxxxxx」のように、MAC アドレスから自動的に生成します。
- PC と MEDIAEDGE Decoder を同じネットワークに接続し、PC にインストールした MEDIAEDGE Finder を使用して検出可能です。
検出した MEDIAEDGE Decoder の[PRESENTATION URL]をクリックすると Web コンソールが表示されます。



- ※ MEDIAEDGE Finder は当社ホームページからダウンロードできます。
MEDIAEDGE Decoder の他に USDP-R5000S、USDP-R2000S、USDP-R2200S、HDMA-4100、MEDIAEDGE-STB4H、MEDIAEDGE LEB Pro2/Express2/Pro/Express などが検出されます。

(MEDIAEDGE Decoder のみ)

DHCP もモニターもない場合は、以下の手順で設定を行うことが可能です。

- Windows PC の IPv4 アドレスを固定設定している場合は自動取得に変更します。(コントロールパネル > ネットワークと共有センター > アダプターの設定の変更を開き、ご使用のネットワークデバイスの TCP/IPv4 を「IP アドレスを自動的に取得する」にチェックします)
- MEDIAEDGE Decoder の DIPSW-3 を ON にします。
- PC と MEDIAEDGE Decoder を同じ HUB に接続し、MEDIAEDGE Decoder を起動します。
- PC で MEDIAEDGE Finder を起動します。IP アドレスを取得後に、MEDIAEDGE Decoder を検出します。[PRESENTATION URL]をクリックすると Web コンソールが表示されます。
- ※ Windows 7, 8, 10 ではエクスプローラーの[ネットワーク] > [その他のデバイス]にも検出した MEDIAEDGE Decoder のホスト名が表示されます。
- ※ DIPSW-3 を ON にした状態で MEDIAEDGE Decoder を起動すると、設定の状態にかかわらず IPv6 有効、IPv4 は IP を自動取得(20 秒待って DHCP で取得できない場合は AutoIP)で起動します。
- ※ UPnP が無効になっている可能性がある場合は、いったん設定値を初期化してから実行してください。

■ IV-2-2. 表示設定

IV-2-2-1. フロントパネルでの設定 (MEDIAEDGE Decoder EX のみ)

- MEDIAEDGE Decoder EX が起動すると右のような状態表示になります。

Decoder EX
STOP

- [右/MENU/ENTER]キーを押して設定メニューに切り替えます。

MENU
1.VIDEO

- [右/MENU/ENTER]キーを押します。

VIDEO
1.HDMI/SDI out

- [右/MENU/ENTER]キーを押します。

HDMI/SDI out
[1920x1080/59p◆]

- [上]/[下]キーを押して適切なビデオ出力設定を選び、[右/MENU/ENTER]キーを押します。

VIDEO
1.HDMI/SDI out

- 右の画面が表示されるまで[左/CANCEL]キーを押します。

Save config ?
[Yes ↕]

- [Yes]を選び、[右/MENU/ENTER]キーを押すと設定が保存されます。その後状態表示に戻ります。
ビデオ出力設定が反映されるまで約 1 分程度かかります。

Saving...

IV-2-2-2. Web コンソールでの設定

MEDIAEDGE Decoder とモニターを HDMI または SDI ケーブルで接続します。MEDIAEDGE Decoder HDMI モデルの場合はモニターの最適な解像度で表示を行います。

コンポジットのみで接続をする場合は、Web コンソールの[設定] > [ビデオ出力] > [コンポジット表示モード]を NTSC(J)(日本国内向け)、NTSC(US)(北米向け)もしくは PAL(**MEDIAEDGE Decoder のみ**)から選択します。

- 出荷時の設定では、[コンポジット表示モード]が [NTSC(J)]に設定されています(日本向けのモニターを使用する場合は NTSC(J)を選択してください)。
- (**MEDIAEDGE Decoder のみ**) [HDMI] > [表示モード]で [Auto]以外を選択した場合は、選択したモードで表示を行います。選択した表示モードをサポートしないモニターを接続すると、自動的に表示可能なモードで表示します。

※ 設定方法は [Web コンソール](#)を参照してください。

※ HDMI(または SDI)とコンポジットは同時に表示を行

います。どちらか一方だけ、もしくは両方にモニターを接続して使用可能です。



■ IV-2-3. 設定の初期化

DIPSW-1 を ON にした状態で、リセットスイッチを長押し(5 秒以上)すると、すべての設定値を初期化して MEDIAEDGE Decoder がシャットダウンします。

シャットダウン後に DIPSW-1 を OFF に戻し、電源を一旦切った後、再投入してください。

※ Web コンソールからも設定の初期化が可能です。■ IX-5-3 [初期化](#)をご参照ください。

■ IV-2-4. 設定ウィザード

MEDIAEDGE Decoder を目的に応じて使用するために、必要最低限の設定を行うウィザード設定を用意しました。ひとまず設定ウィザードを行ったあとで、設定を追加することを推奨します。

→ [設定ウィザード](#)

V. ストリーミング再生

この章では、MEDIAEDGE Decoder を MEDIAEDGE Server や MEDIAEDGE LEB に接続してストリーミングでファイルやライブ映像を再生する方法について説明します。

V-1. 概要

■ V-1-1. ストリーミング再生について

MEDIAEDGE Decoder は RTSP/RTP によるストリーミングをサポートし、サーバーから送出される MPEG-2 トランスポートストリームを受信し再生を行います。
ストリーミング再生は動画ファイルのみサポートしています。

RTSP

Real Time Streaming Protocol は TCP/IP ネットワーク上で、音声や動画などをリアルタイムに配信するためのプロトコルです。

RTP



Real-time Transport Protocol は音声や映像をストリーミング再生するための伝送プロトコルです。基本はパケットロス対策や伝送時間保証などは行われていない UDP タイプのプロトコルですが、本製品では RTSP の通信に RTP を重畳して配信する RTP over RTSP にも対応しています。

メニュー画面からリモコン操作により MEDIAEDGE Decoder 側から再生を開始するビデオオンデマンド、サーバー側からスケジュールで再生を開始するスケジュール再生、ライブ映像再生などが可能です。

ご注意

Wi-Fi モデルでは無線 LAN を使用したストリーミング再生はサポートしていません。

■ V-1-2. ストリーミング再生の状態確認

MEDIAEDGE Decoder の起動後にリモコンの (CONF) キーを押すと、モニターに設定メニューが表示されます。さらに   キーを押して [Analysis] を選択してストリーミング再生の状態確認画面に移動してください。

```
Current Settings
Product name : MEDIAEDGE Decoder
Version      : 8.0.28
Host name    : DEC-000298
IPv4 Address : 192.168.0.20/24
IPv6 Address : fe80::c6ad:21ff:fe00:298/64
MAC Address  : C4:AD:21:00:02:98

◊ Exit          Settings Analysis
```

- ストリーミング再生の状態確認画面
ストリーミング再生関連の情報が確認できます。

- URL
RTSP URL が表示されます。
- RTSP state
RTSP ステータスが表示されます。
- FEC
有効の場合、FEC のパラメーターが表示されます。
- elapsed time
再生開始からの時間が表示されます。
- status code
RTSP ステータスコード(正常時は 200)が表示されます。
- video stream
ビデオの PID、コーデック、フォーマット情報が表示されます。
- audio stream
オーディオの PID、コーデック、サンプリング周波数情報が表示されます。
- received packet count
受信パケット数が表示されます。
- packet loss count
パケットロス数が表示されます。
- max burst loss count
最大バーストロス数が表示されます。
- duplicated packet count
重複パケット数が表示されます。
- discarded packet count
破棄パケット数が表示されます。
- unrecoverable packet count
修復不能パケット数が表示されます。

```

Network analysis.
URL      : rtsp://leb-010004/video
RTSP state : playing
elapsed time : 00:05:21
status code : 200
video stream: ID 1011, codec H264, 1920x1080, interlaced
audio stream: ID 1100, codec MPEG, samplerate 48000
RTP transport protocol : UDP
received packet count : 322007
packet loss count      : 0
max burst loss count  : 0
duplicated packet count : 0
discarded packet count : 0
unrecoverable packet count: 0
Exit

```

● 正常に再生されない場合

- 受信パケット数が増えず、再生が開始されない場合は URL が正しく設定されているか確認してください。URL が正しく設定されている場合、サーバー側(MEDIAEDGE Server あるいは MEDIAEDGE LEB)の動作ログを確認してください。
- 再生は開始されるが映像、音声にノイズが発生する場合は、パケットロス数を確認してください。この数が増えていく場合、ネットワークが不安定なため、送信ビットレートを落とすなどの対応をしてください。

● ストリーミング再生の状態確認画面の終了

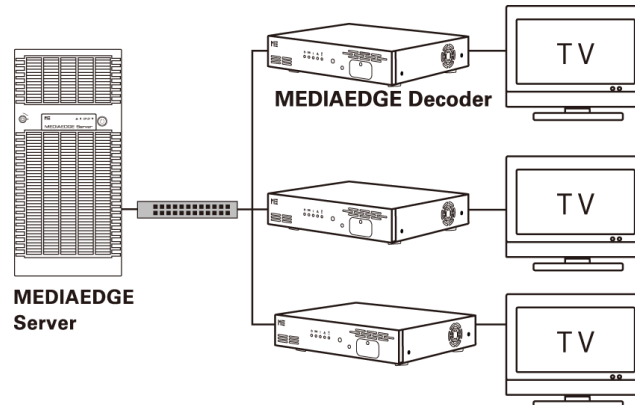
ストリーミング再生の状態確認画面を消去するにはリモコンの(CONF)キーを押します。

V-2. ビデオオンデマンド

MEDIAEDGE Server や MEDIAEDGE LEB のメニューページを画面に表示し、リモコンから再生を開始することができます。

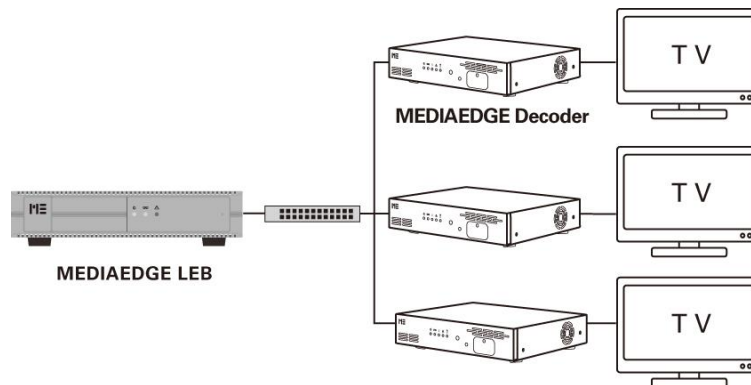
■ V-2-1. MEDIAEDGE Server との接続

MEDIAEDGE Server との接続は次のようになります。



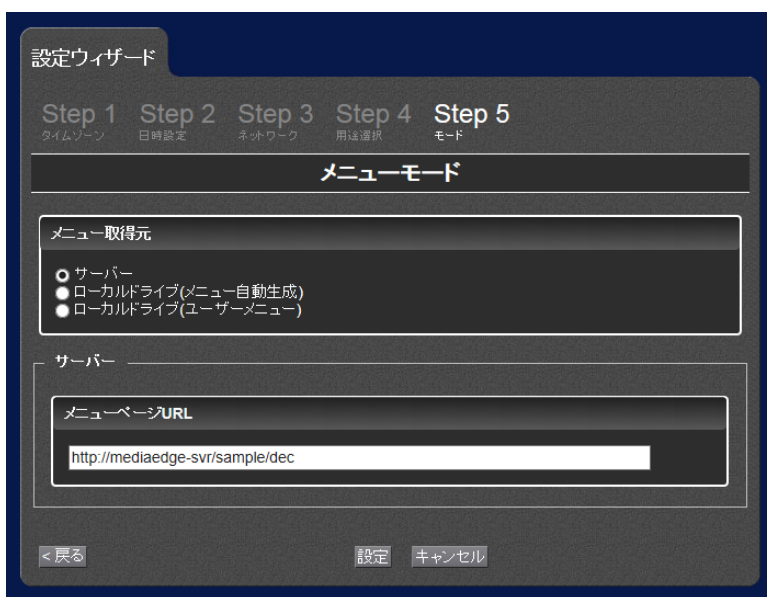
■ V-2-2. MEDIAEDGE LEB との接続

MEDIAEDGE LEB との接続は次のようになります。



■ V-2-3. 設定

Web コンソールにアクセスし設定ウィザードからタイムゾーン、日時設定、ネットワークの設定を済ませた後、用途選択の画面で[メニュー再生]を選択してください。



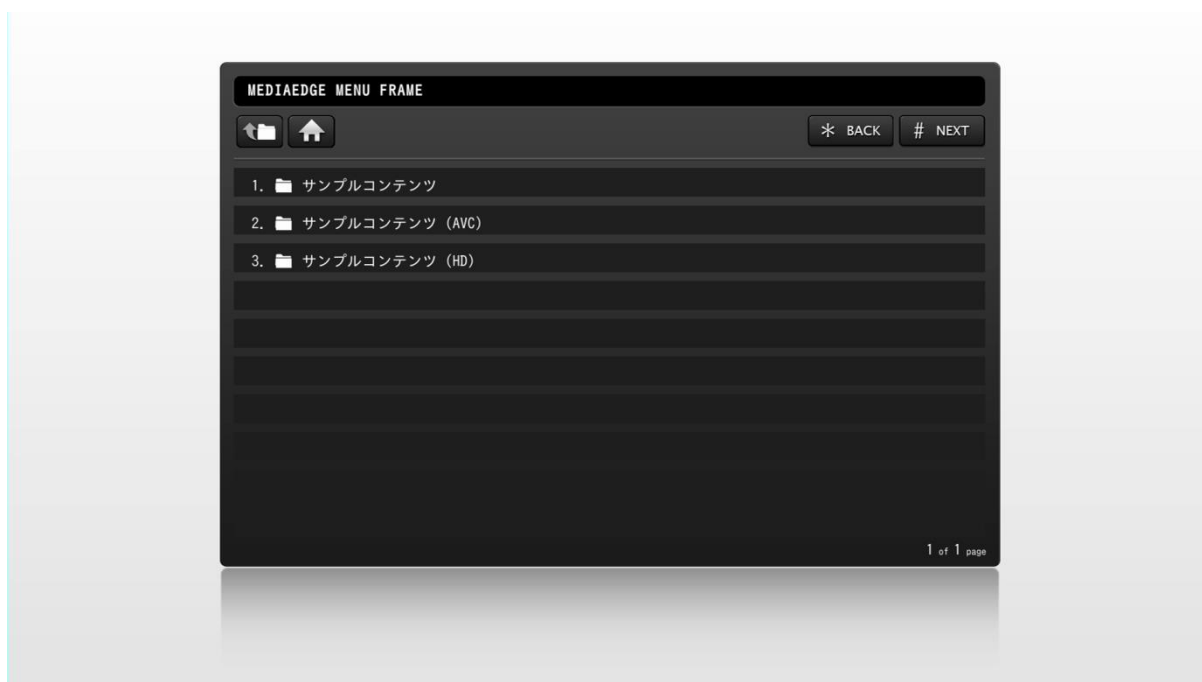
次の画面で[メニュー取得元]で[サーバー]を選択します。

次に[メニューページ URL]にメニューページの URL を記述します。MEDIAEDGE Server のサンプルページを表示する場合、

[http://(MEDIAEDGE Server の IP アドレスまたはホスト名)/sample/dec]

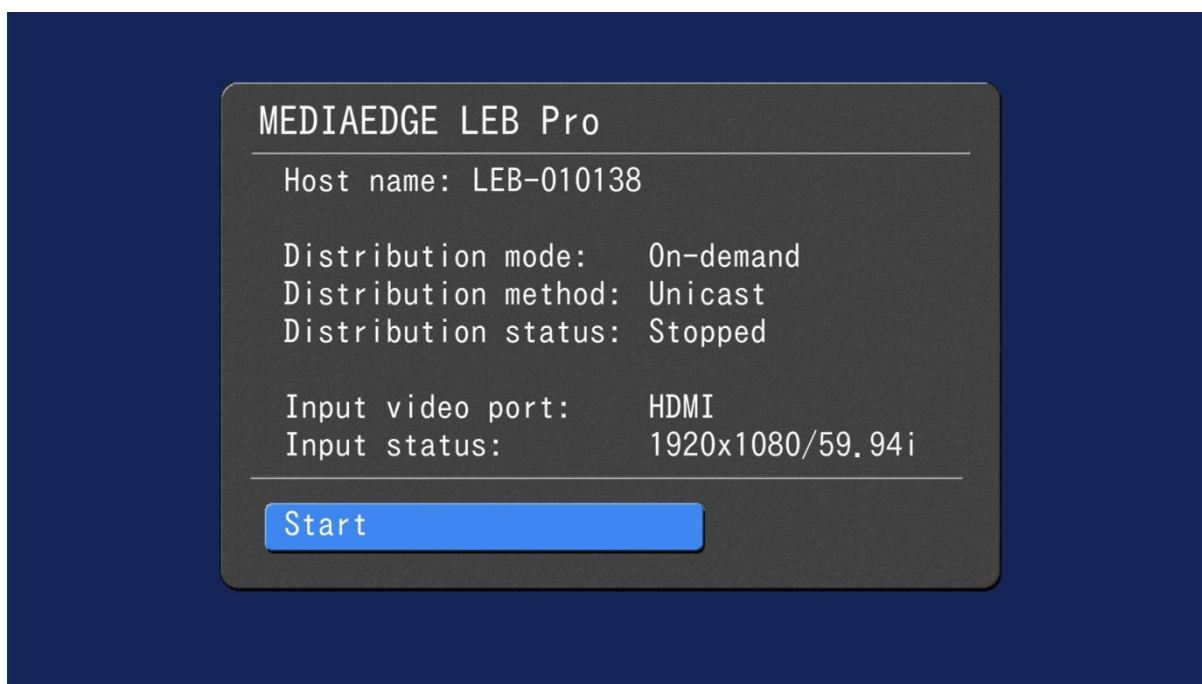
となります。

以上の設定が完了すると次のような画面が表示されます。リモコンでコンテンツを選択して(OK)キーを押すとストリーミング再生が開始されます。



MEDIAEDGE LEB のメニューを表示する場合は、
[[http://\(LEBのIPアドレスまたはホスト名\)/menu](http://(LEBのIPアドレスまたはホスト名)/menu)]
と記述します。

設定が完了すると次のような画面が表示されます。リモコンで(OK)キーを押すとストリーミング再生が開始されます。



V-3. スケジュール再生

MEDIAEDGE Server にスケジュールを登録し、ストリーミングによるスケジュール再生を行うことが可能です。スケジュールの作成の仕方は別途 MEDIAEDGE-SVS4 のマニュアルを参照してください。

■ V-3-1. 設定

設定ウィザードからチャンネルの設定を行います。[Web コンソール](#)にアクセスし[設定ウィザード](#)から設定します。[タイムゾーン](#)、[日時設定](#)、[ネットワーク](#)の設定を済ませた後、[用途選択](#)の画面で[チャンネル視聴]を選択してください。

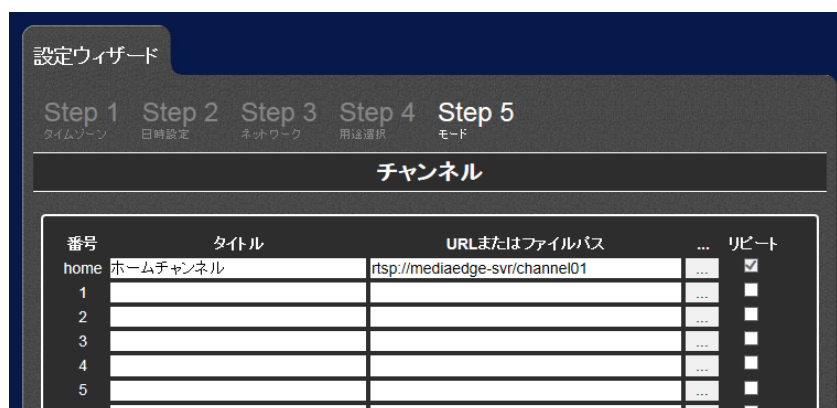


任意のチャンネルの[URL またはファイルパス]にチャンネルの URL を記述します。MEDIAEDGE Server の channel01 というチャンネルを指定する場合

[rtsp://(MEDIAEDGE Server の IP アドレスまたはホスト名)/channel01]

となります。

設定が完了したらリモコンから先ほど設定したチャンネル番号を選択します。

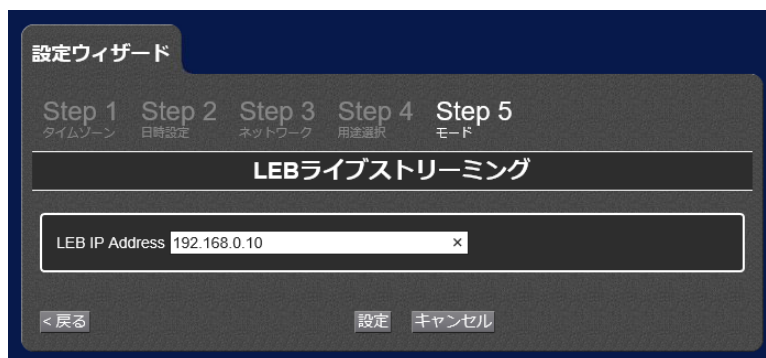


V-4. ライブ配信映像再生

MEDIAEDGE LEB のライブ配信映像を受信し再生することができます。[ビデオオンデマンド](#)の場合とは異なり、リモコンによる再生開始の指示が無くとも常に MEDIAEDGE LEB のライブ映像を再生することができます。

■ V-4-1. 設定

[Web コンソール](#)にアクセスし[設定ウィザード](#)から[タイムゾーン](#)、[日時設定](#)、[ネットワーク](#)の設定を済ませた後、[用途選択](#)の画面で[ライブ配信映像再生]を選択してください。



[LEB IP Address]に LEB の IP アドレスまたはホスト名を入力して設定してください。設定ウィザードからの設定では[home]チャンネルにライブ配信映像が割り当てられます。別のチャンネルを再生している場合はリモコンの \odot キーを押して[home]チャンネルを選択してください。別のチャンネルに割り当てる場合は[チャンネルモード](#)から任意のチャンネルの[URL またはファイルパス]に RTSP URL を記述してください。

VI. ローカルファイル再生

この章では、MEDIAEDGE Decoder に接続したストレージからファイルを再生する方法を説明します。

VI-1. スケジュール再生

■ VI-1-1. スケジュール再生について

MEDIAEDGE Decoder ではメニューモードでもチャンネルモードでもスケジュール再生が可能です。スケジュールを自動的に起動するには、チャンネルモードに設定し、[home]チャンネルに再生するスケジュールを登録します。複数のチャンネルにスケジュールを登録し、チャンネルによってスケジュールを切り替えるような使用方法も可能です。

チャンネルモードでは、スケジュールによる複数台同期再生に対応しています。詳細は、「VI-5 [複数台同期再生](#)」を参照ください。

■ VI-1-2. DCM

MEDIAEDGE Decoder のスケジュールとレイアウト作成にはDCMを使用します。DCMを使用する際、動作モードをチャンネルモードに設定するとチャンネルへの登録は自動的に行われます。DCM については、DCM に付属のマニュアルを参照してください。

MEDIAEDGE Decoder は DCM 1.80 以降に対応しています。

■ VI-1-3. フィラー再生

スケジュールファイルの再生でエラーが発生した場合、特定のコンテンツを再生することが可能です。MEDIAEDGE では、このとき再生するコンテンツをフィラーファイルやフィラーコンテンツ、フィラーファイルを再生することをフィラー再生と呼びます。フィラーファイルが再生されるとログに再生エラーとフィラーファイルの再生が記録されます。スケジュール上の次のコンテンツに切り替わると、フィラー再生は停止しスケジュールに戻ります。

■ VI-1-4. 設定

VI-1-4-1. 設定ウィザード

DCM を使用してスケジュールを作成する場合には [Web コンソール](#) にアクセスし [設定ウィザード](#) から [タイムゾーン](#)、[日時設定](#)、[ネットワーク](#) の設定を済ませた後、[用途選択](#) の画面で [スケジュール再生] を選択してください。



[スケジュールドライブ] で DCM から配信されるコンテンツを保存するドライブを選択します。ここで選択するドライブには十分な空き容量があることを確認してください。

続いて[ホスト名] に DCM サーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。DCM サーバーの接続ポート番号やアカウント情報が変更されている場合は [詳細設定](#) から設定を変更します。

VI-1-4-2. 詳細設定

[基本設定] > [ドライブの書き込み権限]

設定ウィザードの[スケジュールドライブ] で選択したドライブは[リードライト] に設定してください。

[基本設定] > [ネットワークドライブ]

設定ウィザードの[スケジュールドライブ]で[ネットワークドライブ]を選択している場合は、[ネットワークドライブ](#)の設定が必要になります。

[ネットワーク] > [サービスとの連携]

DCM サーバーの認証アカウントのユーザー名やパスワードを規定値から変更している場合は、新しいユーザー名とパスワードを設定してください。

→ [サービスとの連携設定](#)

[再生] > [スケジュール]

スケジュール再生中にエラーが発生した場合にフィルターコンテンツを再生するかどうかの設定を行います。

→ [フィルター再生設定](#)

VI-2. メニュー再生

■ VI-2-1. 自動生成メニュー

VI-2-1-1. 自動生成メニューについて

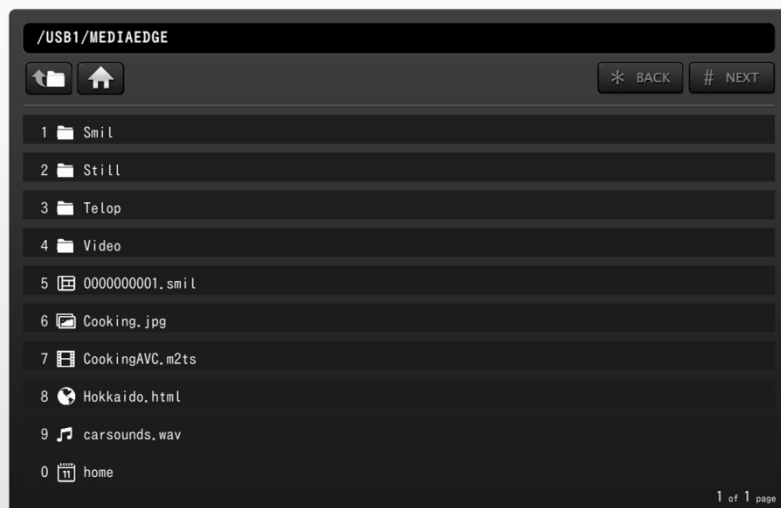
指定されたドライブのフォルダーとファイルの内容を元に、フォルダーごとに階層化したメニューを自動的に作成して表示します。リモコンからフォルダーを選択すると階層を移動し、コンテンツを選択すると再生を開始します。

USB ストレージや SD カードなどのコンテンツをリモコンから即座に選択して再生することができます。メニューの項目はファイル名を元に作成し、表示順序はファイル名順もしくは更新時間順となります。フォルダ(階層)をコンテンツファイルよりも優先して表示することもできます。

ファイル名

ファイル名は UTF-8 で、表示順も UTF-8 のコード順になります。そのため日本語などを使用した場合には辞書順に表示されません。

表示順をコントロールしたい場合には、ファイル名の先頭に 00-file.mpg、01-file.mpg のように、明示的なプリフィックスを使用することを推奨します。



VI-2-1-2. 名称の変更

コンテンツファイルのあるフォルダーに content.info ファイルを置くと、メニューに表示されるファイル名 **MEDIAEDGE**

を任意の名前に変更して表示することができます。

content.info ファイルはコンテンツを配置する個別のフォルダーそれぞれに置いてください。

content.info の書式

ファイルの書式は

コンテンツファイル名/変更する名称の文字列

になります。

例

Content01.m2t/自由の女神

Content01-HD.m2t/雪化粧

ファイル名および変更する名称は UTF-8 で記述してください。

■ VI-2-2. ユーザーメニュー

自動生成されるメニューではなく、外部で作成したメニューファイルを使用してメニューを使用することができます。

■ VI-2-3. スクリーンセーバー

メニューモードで操作が一定時間ない場合にスクリーンセーバーを表示することが可能です。スクリーンセーバー表示中にリモコン操作を行うとメニューに戻ります。

スクリーンセーバーとしては動画や静止画の他にスケジュールを指定することも可能で、操作の無い間はスケジュールを表示しリモコンでメニュー表示を行うといった使用方法が可能です。

またスクリーンセーバーからメニューに戻る際に、元のメニューに戻るか、メニューのホームに戻るかを選択できます。これはメニュー階層の途中で放置された場合に、ホーム画面に戻る必要がある場合に使用します。

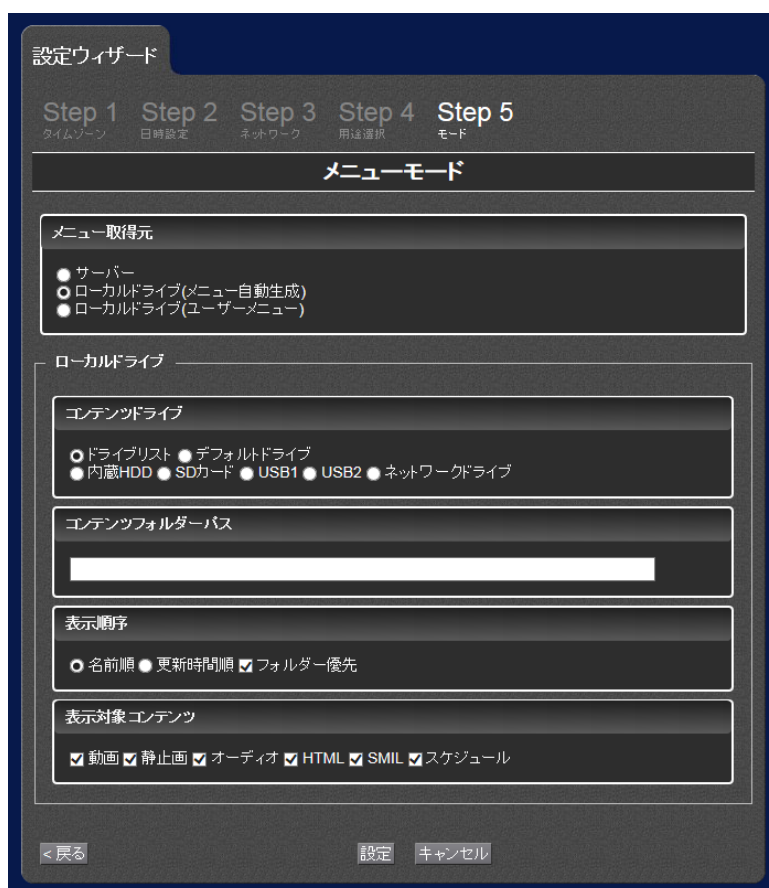
■ VI-2-4. 設定

VI-2-4-1. メニュー自動生成の場合

コンテンツが保存されているドライブを接続し、コンテンツをメニューに自動的表示するには [Web コンソール](#) にアクセスし [設定ウィザード](#) から [タイムゾーン](#)、[日時設定](#)、[ネットワーク](#) の設定を済ませた後、[用途選択](#) の画面で [メニュー再生] を選択してください。



[メニュー取得元]で[ローカルドライブ(メニュー自動生成)]を選択します。



[コンテンツドライブ]でコンテンツが保存されているドライブを選択します。複数のドライブを使用する場合は[ドライブリスト]を選択してください。[デフォルトドライブ]を選択すると[デフォルトドライブ](#)で選択したドライブが使用されます。

ドライブの特定のフォルダー以下だけをメニューに表示したい場合は[コンテンツフォルダーパス]を設定

してください。フォルダーパスの記述方法は[ローカルドライブ](#)の[コンテンツフォルダーパス]を参照してください。表示順序を変更する場合は[表示順序]、表示するコンテンツを変更したい場合は[表示対象コンテンツ]を設定してください。

VI-2-4-2. ユーザーメニューの場合

作成したメニューを使用する場合は、[Web コンソール](#)にアクセスし[設定ウィザード](#)から設定します。[タイムゾーン](#)、[日時設定](#)、[ネットワーク](#)の設定を済ませた後、[用途選択](#)の画面で[メニュー再生]を選択してください。



[メニュー取得元]で[ローカルドライブ(ユーザーメニュー)]を選択します。



[コンテンツドライブ]でメニューファイルが保存されているドライブを選択します。[デフォルトドライブ]を選

択すると[デフォルトドライブ](#)で選択したドライブが使用されます。

メニューファイルのパスを[メニューファイルパス]に設定してください。パスの記述方法は[ローカルドライブ](#)の[メニューファイルパス]を参照してください。

VI-3. チャンネル再生

■ VI-3-1. チャンネルモードについて

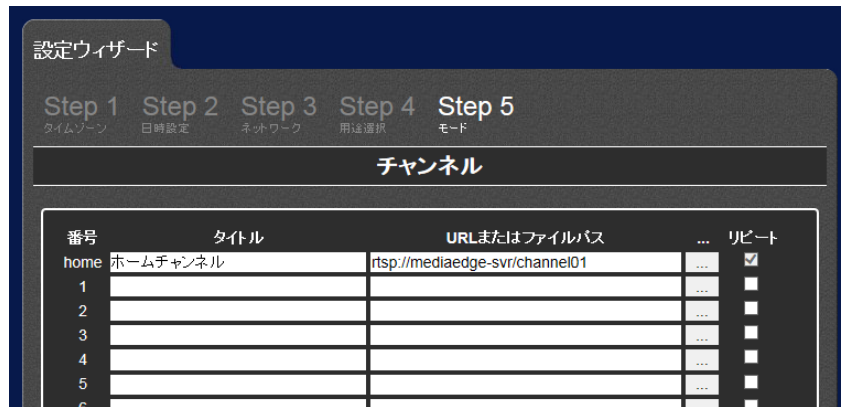
[home]および[1]～[999]の最大 999 個のチャンネルにコンテンツを登録し、リモコンで選択して再生することができます。

チャンネルの[home]に指定したコンテンツは MEDIAEDGE Decoder の起動後に再生を開始します。ここにスケジュールを登録するとスケジュール再生になります。コンテンツが登録されていない場合には黒画面が表示されます。

チャンネルモードは、複数台同期再生に対応しています。詳細は、「VI-5 [複数台同期再生](#)」を参照ください。

■ VI-3-2. 設定

チャンネル再生を使用する場合は、設定ウィザードからチャンネル視聴の設定を行います。[Web コンソール](#)にアクセスし[設定ウィザード](#)から設定します。[タイムゾーン](#)、[日時設定](#)、[ネットワーク](#)の設定を済ませた後、[用途選択](#)の画面で[チャンネル視聴]を選択してください。



VI-4. シリアル制御再生

■ VI-4-1. シリアル制御モードについて

シリアル制御モードは、シリアルポートまたはネットワークからの制御コマンドによって再生制御を行うモードです。

シリアル制御モードで起動すると、MEDIAEDGE Decoder は制御コマンドの待機状態となり、送られてきた制御コマンドを順に処理していきます。

MEDIAEDGE Decoder の制御コマンドは、パイオニア株式会社製 LD、DVD 機器の制御コマンドのサブセットとなっており(独自拡張のコマンドを含む)、HDMA-4100 のシリアル制御モードの「Pioneer LD/DVD 互換モード」と互換性があります(*1)。

制御コマンドの詳細については後述の「対応コマンド一覧」を参照ください。

シリアル制御モードで再生対象となるコンテンツは動画ファイルのみです。

起動時にコンテンツフォルダー(*2)以下の動画ファイルに自動的にコンテンツアドレス(*3)が割り当てられ、制御コマンドのパラメーターでコンテンツアドレスを指定して再生制御を行います。

シリアル制御モードは、複数台同期再生に対応しています。詳細は、「VI-5 [複数台同期再生](#)」を参照ください。

(*1) HDMA-4100のシリアル制御モード用に作られたすべての制御プログラムの動作を保証するものではありません。

(*2) 動画ファイルを配置するフォルダー。後述の「コンテンツの配置」を参照ください。

(*3) コンテンツアドレスについては後述の「コンテンツの配置」を参照ください。

■ VI-4-2. 設定

Web コンソールから以下の設定を行い、[設定]ボタンを押して保存します。

1. [設定] > [基本設定]
 - [動作モード]で、[シリアル制御モード]を選択します。
2. [設定] > [シリアル制御モード]
 - [コンテンツドライブ]で、再生に使用するドライブを選択します。
 - [コンテンツフォルダーパス]で、コンテンツを格納するフォルダー(コンテンツフォルダー)のパスを指定します。
 - ネットワーク経由で制御を行う場合は、[ネットワークシリアル制御]を[有効]にします。
 - [再生開始コマンド(PL)から再生開始までの遅れ]は 0 ミリ秒 (工場出荷時設定)にしておきます。
3. [設定] > [ネットワーク]
 - [ファイル共有] > [共有]を[有効]にします。
 - [ファイル共有] > [アカウント]で、ユーザー名とパスワードを指定します。
 - [ファイル共有] > [共有ドライブ権限]で、2. の[コンテンツドライブ]で指定したドライブの権限に [リードライト]を選択します。
4. [設定] > [シリアル] ※シリアルポート経由で制御を行う場合のみ(ネットワーク経由の場合は不要)
 - [シリアルポート機能]で、[シリアル制御]を選択します。
 - [通信速度]、[データビット長]、[パリティ]、[ストップビット長]、[フロー制御]は、制御機器側の設定と同じ値に設定します。

■ VI-4-3. 接続

- A) シリアルポートを使って制御する場合
制御機器と MEDIAEDGE Decoder のシリアルポート(RS-232C ポート)をシリアルケーブルで接続します(PC と接続する場合はクロスケーブルを使用します)。
- B) ネットワーク経由で制御する場合
制御機器(PC など)から MEDIAEDGE Decoder のネットワークシリアル制御ポート(工場出荷時設定:12000)に telnet などのターミナル通信ソフトで接続してください。

■ VI-4-4. コンテンツの配置

シリアル制御モードで再生する動画ファイルは、あらかじめコンテンツフォルダーに配置しておく必要があります。

コンテンツフォルダーは、Web コンソールの[設定] > [シリアル制御モード]で指定した[コンテンツドライブ]と[コンテンツフォルダーパス]によって決定されます。

シリアル制御モードでは、起動時にコンテンツフォルダーに配置された動画ファイルに対して自動的にコンテンツアドレスが割り当てられます。

コンテンツアドレスの割り当てルールは以下の通りです。

- コンテンツアドレスはタイトルナンバー、チャプターナンバーで構成されます。
- タイトルの数は最大で 99 個です。
- 1つのタイトルは 1 個から 99 個のチャプターを含むことができます。
- 1つのチャプターは 1 個から 99 個の動画ファイルを含むことができます。
- 拡張子が m2p、m2t、m2ts、mts、mpg のファイルが動画ファイルとして認識されます。
- コンテンツフォルダー直下のフォルダーまたは動画ファイルに対して(フォルダー名またはファイル名の昇順に)タイトルナンバーが割り当てられます。
- タイトルナンバーが割り当てられたフォルダー直下のフォルダーまたは動画ファイルに対して(フォルダー名またはファイル名の昇順に)チャプターナンバーが割り当てられます。
- チャプターナンバーが割り当てられたフォルダー以下の動画ファイルは(チャプターのフォルダーからの相対パスの昇順に)再生されます。

例) コンテンツフォルダーの構成とコンテンツアドレス

| コンテンツフォルダーからの相対パス | タイトルナンバー | チャプターナンバー | チャプター内での再生順 |
|--------------------------------|----------|-----------|-------------|
| title01/chapter01/sample01.m2p | 1 | 1 | 1 |
| title01/chapter01/sample02.m2t | 1 | 1 | 2 |
| title01/chapter01/sample03.mts | 1 | 1 | 3 |
| title01/chapter02/sample04.mpg | 1 | 2 | 1 |
| title02/chapter01.mpg | 2 | 1 | 1 |
| title02/chapter02.mpg | 2 | 2 | 1 |
| title03.mpg | 3 | 1 | 1 |

■ VI-4-5. シリアル制御モードの初期状態

- 現在位置: タイトル1、チャプター1
- アドレスモード: タイトル指定
- リピートモード: リピートしない
- 再生状態: 停止

■ VI-4-6. 制御方法

シリアルポートまたはネットワークシリアル制御ポートに対してコマンドを発行します。

- 使用可能なコマンドについては「対応コマンド一覧」を参照ください。
- コマンドは1つずつ発行することも、複数のコマンドをまとめて(最大 255 文字まで)発行することもできます。
- コマンドの発行単位をコマンドラインと呼びます。
- コマンドラインの末尾には終端コードとして<CR>(ASCIIコード:0x0d)が必要です。
- コマンドの実行が成功した場合は R<CR>、失敗した場合は Exx<CR> (xx はエラーコード)がレスポンスとして返されます。
- コマンドのレスポンスについては「エラーコード一覧」を参照ください。
- コマンドラインに複数のコマンドが含まれる場合
 - コマンドが順に実行され、最後のコマンドの実行結果がレスポンスとして返されます。
 - 途中のコマンドでエラーが発生した場合はレスポンスとしてエラーが返され、以降のコマンドは実行されません。
- 発行したコマンドラインのレスポンスが返ってから、次のコマンドラインを発行してください。
 - コマンドラインの処理中に次のコマンドラインが発行された場合、未実行のコマンドは無視され、次のコマンドラインの処理が行われます。

■ VI-4-7. 対応コマンド一覧

Pioneer LD/DVD 互換コマンド

<arg>はコマンドのパラメーターを表す。(arg)は省略可能。

<adrs>にはアドレス(タイトルナンバーまたはチャプターナンバー)を指定する。(adrs)は省略可能。

| コマンド | 説明 |
|----------|---|
| TI | アドレスモードをタイトルにする。 |
| CH | アドレスモードをチャプターにする。 |
| (adrs)PL | 現在位置から再生を開始する。アドレス指定した場合、指定位置で停止する。 |
| PA | 映像を表示した状態で静止する。 |
| ST | 映像を表示した状態で静止する(PAと同じ)。 |
| <adrs>SE | 指定したアドレス位置を表示した状態で静止する。 |
| <adrs>SL | 指定したアドレス位置から再生を開始する。 |
| <arg>SK | チャプターを前後、先頭に移動して静止する。 1: 次のチャプター 2: 1つ前のチャプター 3: 現在のチャプターの先頭 |
| <adrs>SM | 指定アドレスにストップマーカを設定する。 |
| <arg>MS | リピートモードを設定する。 0: リピートしない(最後のタイトルの末尾で静止) 8: チャプターをリピート 16: タイトルをリピート 24: 全体をリピート |
| RM | 現在のアドレスモードに対応するリピートモードを設定する。 アドレスモードがタイトルの場合、タイトルをリピート(16MSと同じ) アドレスモードがチャプターの場合、チャプターをリピート(8MSと同じ) |
| CL | ストップマーカ、リピートモードを解除する。 |
| <arg>AU | オーディオ設定(ミュートのみサポート) 0: ミュート 1: ミュート解除 |
| <arg>AD | オーディオ設定(ミュートのみサポート) 0: ミュート 3: ミュート解除 4: ミュート |
| (arg)RJ | 再生を停止し、ストップマーカ、リピートモードを解除する。 ※HDDの回転停止には非対応。引数は無視する。 |
| SA | 何もせずに成功を返す。 |

| | |
|---------|---|
| | ※HDD の回転を開始には非対応。 |
| <arg>KL | リモコン操作に関する設定を行う。 0: 有効 1: 無効 2: 電源 OFF のみ無効(拡張設定) |
| WW | 次の形式で時間を設定する。 WW<CR> YYMMDDWWhhmmss<CR> ※YY:年、MM:月、DD:日、WW:曜日(月:00~日:06)、hh:時、mm:分、ss:秒 ※WW:曜日は無視されるので 00~99 までの任意の値でよい |
| ?A | 現在位置(書式:TTCCMMMMSS)を返す。 TT:タイトルナンバー2桁、CC:チャプターナンバー2桁、MMMM,SS:時間(非対応のため常に0) |
| ?R | 現在位置のタイトルナンバー(書式:TT)を返す。 TT:タイトルナンバー2桁 |
| ?C | 現在位置のチャプターナンバー(書式:CC)を返す。 CC:チャプターナンバー2桁 |
| ?P | プレイヤーの現在の再生状態を返す。 P04: 再生中 P05: 一時停止中 P06: 停止中 |
| ?S | リピートモードの設定値(MS コマンドで設定した値)を返す。 |
| ?E | 最後に返したエラーコード(R を含む)を返す。 |
| ?X | 機種名(Decoder または Decoder EX)を返す。 |
| ?W | 時間(書式:YYMMDDWWhhmmss)を返す。 ※YY:年、MM:月、DD:日、WW:曜日(月:00~日:06)、hh:時、mm:分、ss:秒 |
| ?Z | ファームウェアのバージョンを返す。 |

独自拡張コマンド

<arg>はコマンドのパラメーターを表す。(arg)は省略可能。

<adrs>にはアドレス(タイトルナンバーまたはチャプターナンバー)を指定する。(adrs)は省略可能。

| コマンド | 説明 |
|-----------|--|
| SO | 再生を停止する(黒画面にする)。 |
| <adrs>MV | 停止状態で指定したアドレス位置に移動する。 |
| <arg>VO | 音量を設定する(左右同じ)。 0 以上 50 以下 |
| <arg>VL | 左音量を設定する。 0 以上 50 以下 |
| <arg>VR | 右音量を設定する。 0 以上 50 以下 |
| <arg>RX | 拡張設定(各設定値の和を書き込む)。 1: 停止時に黒画面にする 2: SE でファイルの先頭を表示しない 4: CL でリピートモードをクリアしない |
| <arg>CD | コンテンツを検索するドライブを変更する。 0: 内蔵 HDD 1: USB1 2: ネットワークドライブ 6: USB2 (※MEDIAEDGE Decoder 拡張) 7: SD カード(※MEDIAEDGE Decoder 拡張) |
| <arg>CR | コンテンツを検索するフォルダーを変更する。 <arg>にコンテンツフォルダ(*1)からの相対パスを" "で囲んで指定する。 |
| <arg>PO | MEDIAEDGE Decoder の動作モードを変更する。 0: 起動時の動作モードに切り替える 1: シリアル制御モードに切り替える 2: チャンネルモードに切り替える(※MEDIAEDGE Decoder 拡張) 3: メニューモードに切り替える(※MEDIAEDGE Decoder 拡張) ※動作モードがシリアル制御モード以外で動作中も実行可能 |
| (arg)POFF | 電源状態を制御する。 arg なし: シャットダウンする 99: 再起動する ※動作モードがシリアル制御モード以外で動作中も実行可能 |
| ?I | IP アドレスを返す。 IP アドレスが設定されたいない場合は R を返す 複数の IP アドレスがある場合は<LF>区切りで返す |
| ?O | 音量の設定値(書式: LLRR)を返す。 |

| | |
|-----|---|
| | LL:左音量、RR:右音量 |
| ?L | タイトルの数、チャプターの数を出す。 タイトルモードの場合はタイトルの数を出す。 チャプターモードの場合は現在のタイトル中のチャプターの数を出す。 |
| ?U | 同期スレーブの台数を出す。 複数台同期再生が有効で動作モードがマスターの場合、 ”通信可能数/全スレーブ数”を出す。 複数台同期再生が無効、または同期スレーブの場合は E04 を出す。 |
| \$X | 拡張設定の設定値(RX コマンドで設定した値)を出す |

(*1) コンテンツフォルダー

再生対象のコンテンツを格納したフォルダーのパス。

Web コンソールの[設定] > [シリアル制御モード] > [コンテンツフォルダー]で設定する(初期値: MEDIAEDGE/_Serial)。

■ VI-4-8. エラーコード一覧

コマンドに対して次のレスポンスが返ります。

R 成功(値を返さないコマンドの場合の応答)

E00 通信エラー

E04 使用できない機能

E06 正しいパラメーターが指定されていない

E12 サーチアドレスが見つけれられない

E80 シリアル制御が停止中(割り込み再生中または他の動作モードで動作中)

E99 致命的なエラーが発生した

VI-5. 複数台同期再生

■ VI-5-1. 同期再生とは

同期再生とはネットワーク接続した複数台の MEDIAEDGE Decoder または MEDIAEDGE Decoder EX でコンテンツ(動画ファイルのみ)を同期させて再生する機能です。(ファームウェアバージョン 6.0.25 以上で対応)

複数台の MEDIAEDGE Decoder のうち 1 台をマスターユニット、それ以外をスレーブユニットとし、ネットワーク経由で、マスターユニットからスレーブユニットに再生開始、停止などのコマンドを送ることで同期再生を実現しています。

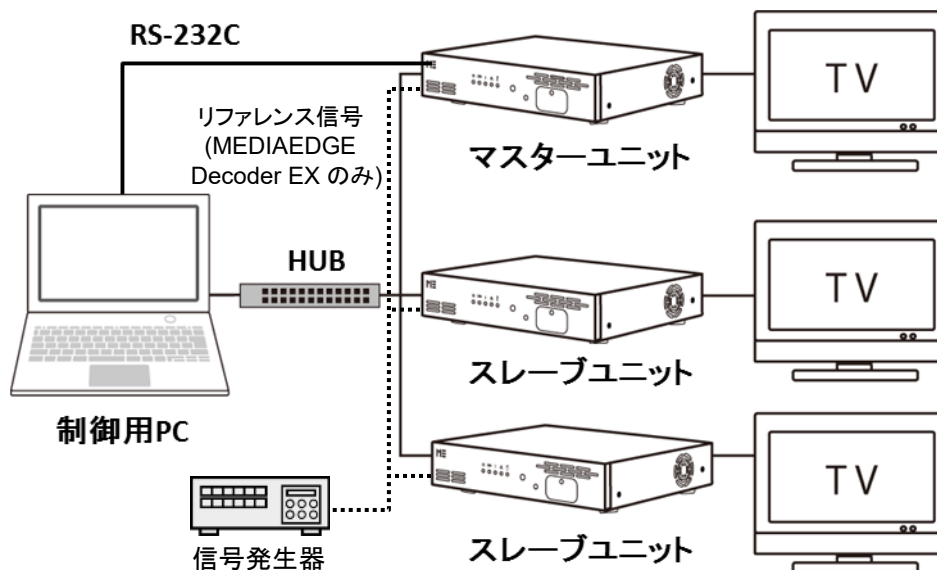
チャンネルモード、および、シリアル制御モードで同期再生が可能です。

■ VI-5-2. 同期再生を行うための条件

- 同期再生を行う場合は、HDD または SSD 内蔵モデルをご使用ください。(USB ストレージ、SD カードによる運用はサポート対象外となります)
- 同期再生を行う場合は、すべての MEDIAEDGE Decoder は 1 つの HUB に接続し、IPv4 固定アドレスによる安定した通信ができる環境で運用してください。
- 同期再生を行う場合は、「[■ VI-5-7 複数台同期再生を使用する際の注意事項](#)」もご参照ください。

■ VI-5-3. 機器の接続方法

下図は 3 台で同期再生する場合の接続方法です。



- 3 台の MEDIAEDGE Decoder と 1 台の制御用 PC を用意し、あらかじめ IPv4 の固定アドレスを割り当てておきます。以降の説明では、次のようなアドレスが割り当てられているものとして説明します。
 - 制御用の PC : 192.168.0.1
 - MEDIAEDGE Decoder(マスター) : 192.168.0.101
 - MEDIAEDGE Decoder(スレーブ) : 192.168.0.102
 - MEDIAEDGE Decoder(スレーブ) : 192.168.0.103
- **(MEDIAEDGE Decoder EX のみ)** すべての MEDIAEDGE Decoder EX の REF-IN 端子に同期可能なリファレンス信号(Black Burst または 3 値 Sync) を入力します。
- 1 つの HUB に 3 台の MEDIAEDGE Decoder と 1 台の制御用 PC を接続します。
- シリアル制御モードで同期再生する場合は、MEDIAEDGE Decoder(マスター)と制御用 PC を RS-232C クロスケーブルで接続します。

■ VI-5-4. MEDIAEDGE Decoder の設定

Web コンソールから以下の設定を行います。

マスターユニット:

- [設定] > [基本設定] > [動作モード]: **シリアル制御モード**
使用するモード(シリアル制御モードまたはチャンネルモード)を選択します。
- [設定] > [ネットワーク] > [ファイル共有] > [共有]: **有効**
- [設定] > [ネットワーク] > [ファイル共有] > [共有ドライブ 権限] > [内蔵 HDD]: **リードライト**
- [設定] > [再生] > [複数台同期] > [有効/無効]: **有効**
- [設定] > [再生] > [複数台同期] > [同期モード]: **マスター**
- [設定] > [再生] > [複数台同期] > [同期制御マルチキャストアドレス]: **239.192.40.0**
- [設定] > [再生] > [複数台同期] > [同期制御ポート番号]: **57024**
- [設定] > [再生] > [複数台同期] > [スレーブユニットのアドレス]:
192.168.0.102
192.168.0.103
※スレーブユニットの IPv4 アドレスを列挙します。

※シリアル制御モードの場合は以下のシリアルポートの設定も必要です。

- [設定] > [シリアル] > [シリアルポート機能]: **シリアル制御**
(以下のシリアルポートの通信設定も制御側に合わせて変更してください。)
- [設定] > [シリアル] > [通信速度]
- [設定] > [シリアル] > [データビット長]
- [設定] > [シリアル] > [パリティ]
- [設定] > [シリアル] > [ストップビット長]
- [設定] > [シリアル] > [フロー制御]

スレーブユニット:

- [設定] > [基本設定] > [動作モード]: **シリアル制御モード**
マスターユニットと同じモードを選択します。
- [設定] > [ネットワーク] > [ファイル共有] > [共有]: **有効**
- [設定] > [ネットワーク] > [ファイル共有] > [共有ドライブ 権限] > [内蔵 HDD]: **リードライト**
- [設定] > [再生] > [複数台同期] > [有効/無効]: **有効**
- [設定] > [再生] > [複数台同期] > [同期モード]: **スレーブ**
- [設定] > [再生] > [複数台同期] > [同期制御マルチキャストアドレス]: **239.192.40.0**
- [設定] > [再生] > [複数台同期] > [同期制御ポート番号]: **57024**

■ VI-5-5. チャンネルモードでの同期再生

VI-5-5-1. 同期再生時の動作

チャンネルモードの各チャンネルに割り当てた動画ファイルを同期再生します。

マスターユニットに対して リモコンで再生開始、停止、チャンネル切り替えを行うと、スレーブユニットでは、マスターユニットと同じチャンネルのコンテンツが同期して再生されます。

DCM を使って作成したスケジュールに沿って同期再生を行うことも可能です。

VI-5-5-2. セットアップ手順 (A)

(A) チャンネルに割り当てた特定の動画ファイルを同期再生する。

チャンネル 1 では 1 つの動画ファイルを、チャンネル 2 では指定したフォルダー以下の動画ファイルを同期再生するための手順を説明します。

(A-1) コンテンツの準備

制御用 PC のエクスプローラー(Windows の場合)で、MEDIAEDGE Decoder の共有フォルダー(例: マスターの場合、[¥¥192.168.0.101](#))を開き、各 MEDIAEDGE Decoder に以下のようなフォルダー構成になるように動画ファイルをコピーします。

- internal_HDD¥ChSync¥sample01.mpg ※チャンネル 1 用
- internal_HDD¥ChSync¥list01¥sample02.mpg ※チャンネル 2 用
- internal_HDD¥ChSync¥list01¥sample03.mpg ※チャンネル 2 用

(A-2) 設定

「■ VI-5-4 [MEDIAEDGE Decoder の設定](#)」に加えて、以下のチャンネルモードの設定を行います。

- [設定] > [チャンネル] > [1] > [URL またはファイルパス]:
file:///drives/internal_HDD/ChSync/sample01.mpg
- [設定] > [チャンネル] > [2] > [URL またはファイルパス]:
file:///drives/internal_HDD/ChSync/list01

(A-3) 再生開始

マスターユニットに対して、リモコンで 1 チャンネルまたは 2 チャンネルに切り替えを行います。

VI-5-5-3. セットアップ手順 (B)

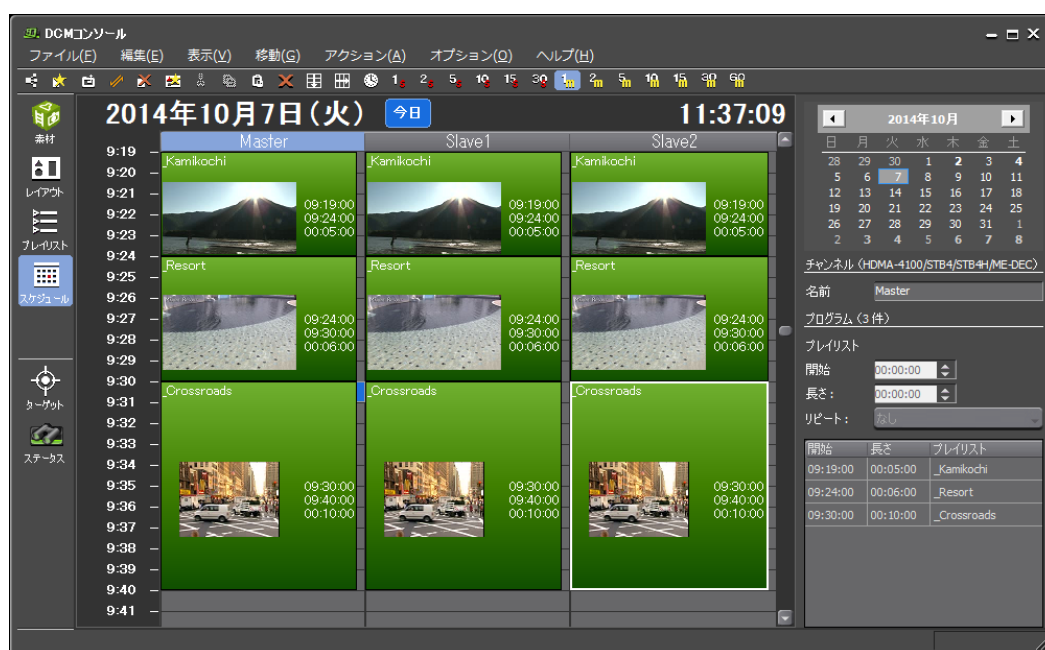
(B) DCM でスケジュールを作成して同期再生する。

MEDIAEDGE Decoder のホームチャンネルでスケジュールによる同期再生を行う手順を説明します。

※DCM の使用方法については DCM のマニュアルをご覧ください。

(B-1) スケジュールの作成

- 制御用 PC 上で DCM を使って(3 台の MEDIAEDGE Decoder 用に)3 つのチャンネルを作成します。
- 同期再生を行うためには、プレイリストの開始時刻と終了時刻が 3 つのチャンネルで同じになるようにスケジュールします。
- 同期再生が有効な場合、プレイリスト中の動画ファイルだけが順番にフルスクリーンで再生されます。(※レイアウトや長さの指定などは無視されます。)
- 同期再生は mp4 および mov コンテンツ(素材の「ビデオ MP4 MOV」で表示されるコンテンツ)には対応していません。「ビデオ MPEG」で表示されるコンテンツを指定してください。



(B-2) スケジュールの配信

- マスターユニットに対して、リモコンの(CANCEL)キーを押し、再生停止状態にします。
- DCM から 3 台の MEDIAEDGE Decoder に対して手動アップデートを実行し、更新が完了するまで待ちます。

(B-3) 再生開始

マスターユニットに対して、リモコンの(↑)キーを押し、再生を開始します。

■ VI-5-6. シリアル制御モードでの同期再生

VI-5-6-1. 同期再生時の動作

マスターユニットに対して Pioneer LD/DVD 互換コマンドによる再生制御を行うと、スレーブユニットでは、マスターユニットと同じタイトル、同じチャプターのコンテンツが同期して再生されます。シリアル制御モードの動作やコマンドの詳細については、「VI-4 [シリアル制御再生](#)」を参照ください。

VI-5-6-2. セットアップ手順

(1) コンテンツの準備

- 各 MEDIAEDGE Decoder で再生する動画ファイルを用意し、各 MEDIAEDGE Decoder のシリアル制御用のコンテンツフォルダーにコピーします。
- すべての MEDIAEDGE Decoder でコンテンツのフォルダー構成(タイトルとチャプターの構成)は同じにします。
- 例えば、以下のような構成になるように制御用 PC のエクスプローラー(Windows の場合)で、MEDIAEDGE Decoder の共有フォルダー(例: マスターの場合、¥¥192.168.0.101)を開き、動画ファイルをコピーします。

internal_HDD¥MEDIAEDGE¥_Serial¥title01¥sample01.mpg

※タイトル 1 のチャプター1

internal_HDD¥MEDIAEDGE¥_Serial¥title02¥sample02.mpg

※タイトル 2 のチャプター1

internal_HDD¥MEDIAEDGE¥_Serial¥title02¥sample03.mpg

※タイトル 2 のチャプター2

- コンテンツのコピーが完了したら、すべての MEDIAEDGE Decoder を再起動します。

(2) 設定

「■ VI-5-4 [MEDIAEDGE Decoder の設定](#)」のとおりです。

(3) 再生開始

制御用 PC からターミナルソフトを使用してマスターユニットのシリアルポートに Pioneer LD/DVD 互換コマンドを発行します。

例)

- タイトル 1 の先頭から最後(タイトル 2 の末尾)まで再生する。
TI1SEPL
- タイトル 1 の先頭からタイトル 1 の末尾まで再生する。
TI1SE1PL

■ VI-5-7. 複数台同期再生を使用する際の注意事項

- MEDIAEDGE Decoder と MEDIAEDGE Decoder EX を混ぜて同期再生することはできません。
- 同期再生を行うすべてのユニットは MEDIAEDGE Decoder のファームウェアを同じバージョンに合わせてください。
- 連続再生する動画ファイル(フォルダー再生やスケジュールのプレイリスト)には、同じエンコードパラメータで作成した動画ファイルを使用してください。
- 同期再生は mp4 および mov コンテンツには対応していません。
- クローズドキャプションのビデオ出力および OSD 表示は設定に関わらず無効になります。
- スケジュール再生でプレイリストの切り替わりの際は再生が張り付いた状態になります。
- スケジュール再生でフィラー再生は無効になります。
- スケジュール再生中のスケジュールおよびコンテンツの更新には対応していません。再生が停止している時間帯に更新を行ってください。
- スケジュールのオフセット設定は無効になります。
- 割り込み再生 (RTSP リダイレクトや Web API による) は効かなくなります。
- 再生情報 (タイトルと再生時間) の表示は行われません。
- 一時停止、早送り、巻き戻し、可変速再生には対応していません。
- シリアル制御モードでは、WW コマンド (時刻設定) は使用できません
- Web コンソール [設定] > [再生] > [ビデオ] > [ビデオファイルの再生開始位置] の設定で「ファイル先頭から数フレーム進める」は使用できません。
- MEDIAEDGE Decoder の電源 ON (または再起動) は全台同時に実行するか、個別に実行する場合は、(スレーブを先に) マスターを最後に実行してください。
※実際には、マスターは設定 (Web コンソール [設定] > [再生] > [複数台同期再生] > [スレーブユニットが起動するまでの待ち時間]) に従って、スレーブの起動完了を一定時間待ちますので、起動順序が多少前後しても大丈夫です。

MEDIAEDGE Decoder EX における注意事項です。

- 複数台同期再生を開始する前に、すべての MEDIAEDGE Decoder EX に安定したリファレンス信号を入力してください。また動作中にリファレンス信号を停止しないようにしてください。再生中にリファレンス信号を停止したり、リファレンス信号が変化したりすると、HDMI/SDI 出力信号が途切れたり、複数台間で表示フレームがずれたりする恐れがあります。
- SDI 入力の背景表示設定は無効になります。

VII. 動作モード

この章では、MEDIAEDGE Decoder の動作モードについて説明します。

VII-1. 概要

MEDIAEDGE Decoder は、内蔵 HDD、SD カード(**MEDIAEDGE Decoder のみ**)、USB ストレージ内のコンテンツファイルや、MEDIAEDGE Server、MEDIAEDGE LEB のストリーミングコンテンツを選択して再生することができます。コンテンツの選択、再生方法は用途に応じて次の3つの動作モードから選択します。

- チャンネルモード

メニュー画面は表示されず、テレビのチャンネル切り替えのようにリモコンの数字キーでコンテンツを選択します。合計 1000 チャンネル(ホームチャンネル、1~999 チャンネル)にコンテンツを割り当てることが可能です。各チャンネルでは指定したコンテンツのリピート再生やスケジュール再生(※)が可能です。

※ スケジュールの作成・配信には、DCM が必要です。

- メニューモード

メニュー画面の中から見たいコンテンツを選択し、再生します。メニューは MEDIAEDGE Server や MEDIAEDGE LEB などのネットワーク上にある Web ページや MEDIAEDGE Decoder に接続されたストレージから取得または自動生成します。コンテンツの再生が終わると再びメニュー画面が表示されます。

- シリアル制御モード

シリアルポートまたはネットワークからの制御コマンドによってコンテンツを再生します。

詳しくは、「VI-4 [シリアル制御再生](#)」をご覧ください。

動作モードの設定に関しては次の章を参照してください。









- V. ストリーミング再生
- VI. ローカルファイル再生

VII-2. リモコン操作

■ VII-2-1. モード共通の操作

チャンネルモード、メニューモード、シリアル制御モードで共通の操作です。

シリアル制御モードについては、共通の操作以外のキーは無効です。

| キー | 説明 |
|--|---|
|  (POWER) | MEDIAEDGE Decoder を起動またはシャットダウンします。(*1) |
|  (CONF) | 設定メニューを表示します。(*1) |
|  (MUTE) | 一時的に消音状態にします。再度  を押すか、   を押すと消音状態を解除します。 |
|  (VOL+) | 音量を+1します。 |
|  (VOL-) | 音量を-1します。 |

(*1) 設定により使用できない場合があります。

■ VII-2-2. チャンネルモードの操作

チャンネルモードでは次のように再生画面が表示されます。






① 再生情報

再生開始時やリモコンによる操作を行うと一定期間表示されます。チャンネル番号、タイトル、倍速表示、再生時刻／コンテンツ全体の時間、リピートの状態が表示されます。

再生画面では次の操作ができます。

| キー | 説明 |
|--------------|--|
| ⬆️ | ホームチャンネルを再生します。 |
| (0)～(9) | チャンネルを切り替えます。1～9のチャンネル番号に設定されたコンテンツを再生する場合は(1)～(9)キーを押した後しばらく待つか、(OK)キーを押すとチャンネルが確定します。10～99のチャンネル番号に設定されたコンテンツを再生する場合は2桁のチャンネル番号を入力します。チャンネルの設定がない場合、「No content」と表示されます。 |
| ⏪ | コンテンツを前方ジャンプします。キーを長押しするとジャンプ間隔が大きくなります。(*1) |
| ⏩ | コンテンツを後方ジャンプします。キーを長押しするとジャンプ間隔が大きくなります。(*1) |
| ⏸️ | 再生中のコンテンツを一時停止します。再度⏸️を押すか(OK)を押すと再生を再開します。(*1) |
| ⏹️ CANCEL | 再生中のコンテンツを停止します。 |
| ⏴ | 再生速度を遅くします。(*1) |
| ⏴ | 再生速度を早くします。(*1) |
| ⏵ | 再生中のチャンネル番号+1のチャンネルを再生します。設定されていないチャンネルは飛ばされます。 |

| | |
|---|---|
|  | 再生中のチャンネル番号-1のチャンネルを再生します。設定されていないチャンネルは飛ばされます。 |
|  (REPEAT) | リピートを設定／解除します>(*2) |
|  (DISP) | 再生情報の表示／非表示を切り替えます>(*3) |

(*1) 動画コンテンツのみ。コンテンツやサーバー側の設定により使用できない場合があります。

(*2) コンテンツによっては設定／解除ができないことがあります。

(*3) 設定により使用できない場合があります。

■ VII-2-3. メニューモードの操作

VII-2-3-1. メニュー画面



- ① 上へボタン
一つ上のフォルダー階層に移動します。
- ② ホームボタン
リモコンの(↑)キーと同じ動作をします。
- ③ * BACK ボタン
リモコンの(*)キーと同じ動作をします。
- ④ #NEXT ボタン
リモコンの(#)キーと同じ動作をします。
- ⑤ コンテンツ表示エリア
選択したフォルダー内のコンテンツが表示されています。

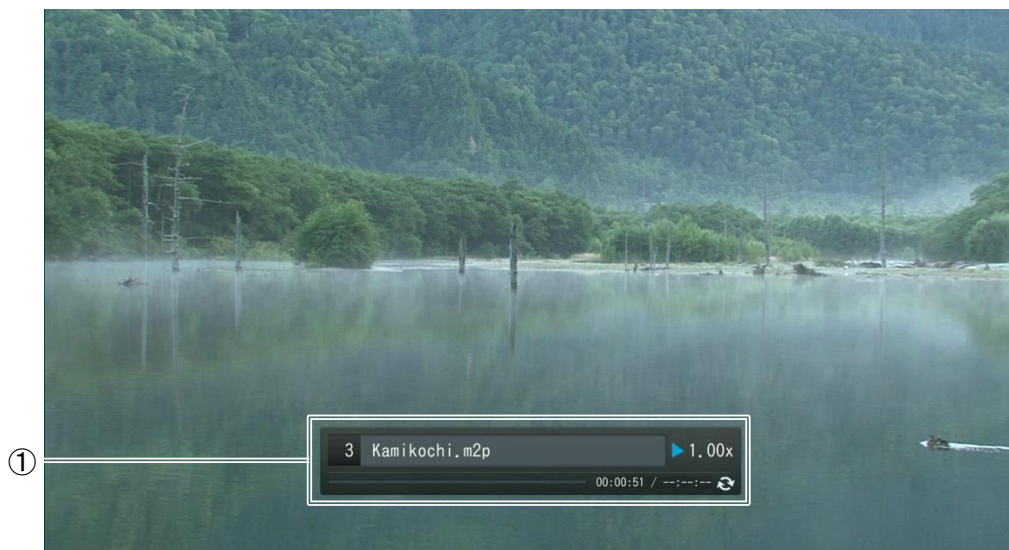
メニュー画面では次の操作ができます。

| キー | 説明 |
|---------|---|
| (↑) | [メニューページ URL]、[コンテンツフォルダーパス]、[メニューファイルパス]で指定されたページに移動します。 |
| (0)~(9) | メニュー番号 0~9 に対応するコンテンツを再生します。フォルダーの場合はそのフォルダー内に移動します。 テキストボックスがあるメニューページでは数字の入力ができます。 |
| (*) | 表示中のフォルダー内のコンテンツが 1 ページに収まらない場合、前のページを表示します。 |
| (#) | 表示中のフォルダー内のコンテンツが 1 ページに収まらない場合、次のページを |

| | |
|-------------|---|
| | 表示します。 |
| ⏪ | 1つ前に表示されていたメニューに戻ります。 |
| ⏩ | ⏪キーで前のメニューに戻った場合、1つ後のメニューに進みます。 |
| ◀▶ | カーソルを移動します。 |
| (OK) | カーソル位置の動作を実行します。フォルダー名を選択した状態で(OK)を押すとそのフォルダー内に移動します。コンテンツ名を選択した状態で(OK)を押すとそのコンテンツを再生します。 |
| Ⓜ | テキストボックスがあるメニューページではカーソル位置の文字を消去します。 |
| Ⓜ CANCEL | 表示されているメニュー画面を更新します。 |

VII-2-3-2. コンテンツ再生画面

メニュー画面からコンテンツを選択すると次のように再生が開始します。









① 再生情報

再生開始時に一定期間表示されます。メニュー上のコンテンツの番号、タイトル、倍速表示、再生時刻／コンテンツ全体の時間、リピートの状態が表示されます。

再生画面では次の操作ができます。

| キー | 説明 |
|---------|--|
| ⏸ | 再生を停止し、[メニューページ URL]で指定されたページに移動します。 |
| (0)～(9) | メニュー上のコンテンツの番号に対応するコンテンツに切り替えます。 |
| ⏪ | コンテンツを前方ジャンプします。キーを長押しするとジャンプ間隔が大きくなります。(*1) |
| ⏩ | コンテンツを後方ジャンプします。キーを長押しするとジャンプ間隔が大きくなります。(*1) |
| ◀ | 再生速度を遅くします。(*1) |

| | |
|---|--|
|  | 再生速度を早くします。(*1) |
|  | 再生中のコンテンツを一時停止します。再度  を押すか(OK)を押すと再生を再開します。(*1) |
|  CANCEL | 再生中のコンテンツを停止します。 |
|  (REPEAT) | リピートを設定／解除します。(*2) |
|  (DISP) | 再生情報の表示／非表示を切り替えます。(*3) |

(*1) 動画コンテンツのみ。コンテンツやサーバー側の設定により使用できない場合があります。

(*2) コンテンツによっては設定／解除ができないことがあります。

(*3) 設定により使用できない場合があります。

VIII. 機能・動作

この章では、コンテンツの更新方法やリモートシリアルなどの機能について説明します。

VIII-1. コンテンツの更新

■ VIII-1-1. 更新について

MEDIAEDGE Decoder での再生に必要なコンテンツやスケジュールファイル、メニューファイルなどを本体にコピーするには次のような複数の方法があります。使用用途により方法を選択していただくこととなります。

複数の方法を組み合わせて使用することも可能ですが、その場合にはそれぞれの操作の中での整合性を考慮する必要があります。

■ VIII-1-2. DCM との連携

スケジュールを DCM で作成し、コンテンツを管理する場合には DCM との連携が必要になります。DCM と MEDIAEDGE Decoder に適切な設定を行い、連携させると DCM の操作のみで MEDIAEDGE Decoder にコンテンツを書き込み、スケジュールを設定することができます。

DCM を使用せずに、別のソフトでスケジュールファイルを作成し運用する場合にはそれぞれのアプリケーションの使用方法を参照してください。

MEDIAEDGE Decoder の Web コンソールにて次の設定を行なってください。

VIII-1-2-1. 基本設定

デフォルトドライブ

DCM を使用してコンテンツファイルを転送するドライブを選択します。SD カードや USB ストレージを選択した場合、実際にデバイスが接続されていない場合には、コンテンツの転送でエラーになります。

ドライブの書き込み権限

コンテンツを転送するドライブは[リードライト]に設定します。使用しないドライブに関してはどちらに設定していても問題ありません。

VIII-1-2-2. ネットワーク

詳細な設定方法は、[ネットワーク設定](#)を参照してください。DCM とアクセス可能なように適切に設定する必要があります。

サービスとの連携

- 連携

有効に設定します。

- サービス
DCM を選択します。
- DCM サーバー
DCM サーバーのアドレスと使用するポートアドレス(DCM の設定に合わせる必要があります)を設定します。外部にある DCM サーバーに接続する場合には、ルーターなどもアクセス可能なように設定する必要があります。
- アカウント
DCM に設定したのと同じユーザー名とパスワードを設定します。

VIII-1-2-3. チャンネルモード

DCM を使用する場合、[基本設定] > [動作モード]をチャンネルモードに設定しておく、チャンネルに関する設定は DCM 経由で行われます。

■ VIII-1-3. ファイル共有

ファイル共有を有効にすると、MEDIAEDGE Decoder のドライブにネットワーク経由でアクセスすることが可能になります。

書き込み可能に設定したドライブは自由にコンテンツの更新が可能になります。ただし再生中のファイルを削除したり、上書きしたりすると再生が失敗します。

VIII-1-3-1. ネットワーク

詳細な設定方法は、ネットワーク設定を参照してください。Windows PC からアクセス可能なように適切に設定する必要があります。

ファイル共有

- 共有
有効に設定します。
- アカウント
共有ドライブに接続する際のアカウントと設定値を設定します。
初期値はアカウントが[mediaedge]、パスワードは設定されていません。
- 共有ドライブ権限
それぞれのドライブに対する共有の権限を設定します。無効に設定すると、そのドライブは共有されません。
共有ドライブの権限はドライブの書き込み権限とは別に設定できますが、ドライブが[リードオンリー]の場合に[リードライト]に設定しても書き込みはできません。

■ VIII-1-4. SD カードや USB ストレージ経由のコンテンツ更新

SD カードや USB ストレージに更新すべきコンテンツファイルと更新制御スクリプト (update.inst) を入れておき、MEDIAEDGE Decoder に挿入することで、スケジュール再生やメニューモードで使用するコンテンツの更新を行うことができます。MEDIAEDGE Decoder は SD カードや USB ストレージの接続を認識し、デフォルトドライブとして設定されているドライブへコンテンツの更新を行います。コンテンツの更新が完了すると新しいコンテンツやスケジュールで再生を再開します。

更新制御スクリプトについては[更新制御スクリプト](#)の章を参照してください。

ご注意

コンテンツ更新等の動作中は情報ランプが点滅します。

情報ランプの点滅中は SD カードや USB ストレージを抜かないでください。コンテンツ更新中に SD カードや USB ストレージを抜くと正常に更新が行われず、ファイルが壊れ、再生が正常に行われない場合がありますのでご注意ください。

■ VIII-1-5. ストレージに直接書き込む

SD カードや USB ストレージを使用する場合には、これらのストレージを MEDIAEDGE Decoder から取り外し PC などでも直接コンテンツを書き込むことができます。

MEDIAEDGE Decoder ではファイルシステムとして NTFS と FAT16/32 に対応しています。

VIII-2. ネットワーク

■ VIII-2-1. 時刻設定(NTP)

NTP(Network Time Protocol)は、ネットワークに接続される機器が持つ時計を正しい時刻へ同期するための通信プロトコルです。

インターネットやローカルのネットワーク内に設置されている NTP サーバーのアドレスを指定することで、自動的に時刻を補正します。使用する NTP サーバーに関してはネットワーク管理者に確認してください。

MEDIAEDGE Decoderでは起動後および更新間隔(分)で設定した時間ごとにNTPサーバーに時刻を問い合わせ、補正を行います。更新間隔の初期値は 60 分ですが、それぞれの運用で必要な時刻の精度に合わせて調整してください。

■ VIII-2-2. UPnP

UPnP(Universal Plug and Play)は機器をネットワークに接続すると、自動的に検出し情報を取得するプロトコルです。

MEDIAEDGE Finder や Windows 7, 8, 10 では UPnP を使用して、同じネットワークにある MEDIAEDGE Decoder などの UPnP に対応した機器を検出します。

UPnP では起動時、シャットダウン時の他にも一定間隔で認識用のパケットをネットワークに送出しています。ストリーミングのパケットがネットワークの影響を受けるような場合にはパケットの送出を止めることも可能です。

■ VIII-2-3. ストリーミング

MEDIAEDGE は RTSP/RTP のストリーミングプロトコルを使って、動画ストリームを配信します。

FEC(Forward Error Correction)

RTP のパケットはUDP で送られるため、パケットロスなどが発生しても再送信されずに、動画ストリームが届きません。FEC を有効にしていると、一定の範囲で発生したパケットロスが自動的に補正されます。ただしエラー訂正用のパケットをネットワークに重畳するため通信容量が多く必要となります。

MEDIAEDGE Decoder で FEC を有効にすると、MEDIAEDGE Server や MEDIAEDGE LEB で設定した値でエラー訂正用のパケットを追加した通信を行います。

キープアライブ

RTSP の通信を使用して、ストリーミングの制御を行なっています。

キープアライブを有効にすると、MEDIAEDGE Server や MEDIAEDGE LEB の停止や再起動などでストリーミングが停止したことを検出し再度接続を行うことが可能です。

MEDIAEDGE

RTSP リダイレクト

RTSP リダイレクトを使用して、外部から再生コンテンツの制御を行うことが可能です。

制御コマンドではコンテンツの再生、停止、一時停止などの制御が可能です。

本機の RTSP サーバーは Method として REDIRECT のみ応答します。他の Method は無視されます。

RTSP リダイレクトには認証機能がないため、ネットワークに接続できるすべての機器から制御が可能になります。セキュリティが問題になる場合は、この機能を無効にして Web API を使用してください。

バッファリング時間

受信したストリームを内部でバッファリングする時間をミリ秒単位で設定します。バッファリング時間を長くすると、ネットワークの問題で発生する再生エラーには強くなりますが再生が遅延します。

設定値が0でも、再生のために最低限必要な時間は、バッファリングされています。

■ VIII-2-4. Web コントロール

Web コントロールは、PC、タブレット、スマートフォンなどの Web ブラウザーから MEDIAEDGE Decoder の再生制御やリモコン操作を行うための機能を提供します。

※本機能を利用して Web ブラウザーから MEDIAEDGE Decoder の再生制御を行うためには、ユーザー様ご自身でメニュー画面の HTML や制御用の JavaScript などを作成していただく必要があります。

公開フォルダー機能

Web コントロール機能が有効になっている場合、Web コントロールで設定した公開フォルダー以下のコンテンツが次の URL で公開されます。

<http://decoder-address/web_control/menu/xxxx.html>

※decoder-address は MEDIAEDGE Decoder の IP アドレス

※xxxx.html はユーザー様が作成されたコンテンツ

再生制御、リモコン制御用の CGI

再生制御、リモコン制御用の CGI の仕様とサンプルは当社ホームページよりダウンロードできます。

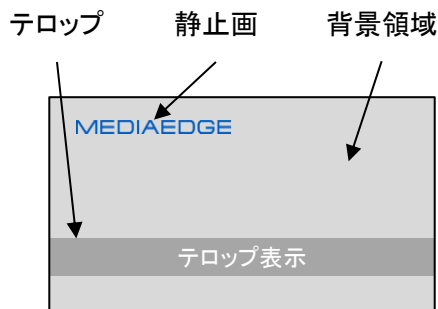
VIII-3. SDI 入力の背景表示

ご注意

SDI 入力の背景表示は MEDIAEDGE Decoder EX のみの機能です。

MEDIAEDGE Decoder EX は SDI-IN 端子から入力された映像信号を静止画やテロップと重ね合わせて表示させることができます。

DCM で下図(A)のような静止画やテロップを含むコンテンツをレイアウトします。SDI 入力映像が表示される領域はリージョンが設定されていない背景領域となります([キーカラー](#)の設定を変更することで背景以外の色も指定可能です)。SDI-IN 端子に映像信号を入力した状態でこのコンテンツを本機で再生すると下図(B)のように背景の部分が SDI 入力信号に置き換わり HDMI/SDI 出力から映像出力されます。



(A) レイアウトしたコンテンツ



(B) 出力映像

ご注意

- SDI 入力の背景表示を行う際は [SDI 入力の背景表示](#) を有効にしてください。
- 表示可能な SDI 入力信号は以下のとおりです。

1920x1080/59.94p

1920x1080/59.94i

1280x720/59.94p

SDI 入力信号の解像度、フレームレートは HDMI / SDI 出力信号と同じである必要があります。表示可能な SDI 信号が入力されている場合はフロントパネルの同期ランプが点灯状態になります。同期ランプが消灯している場合は SDI 入力信号および [表示モード \(HDMI / SDI\)](#) の設定を確認してください。

- SDI 入力の背景表示を有効にすると、[リファレンス信号によるビデオ信号同期](#) は使用できません。
- SDI 入力信号がある場合、HDMI / SDI 出力信号は SDI 入力信号の周波数と同期していますが同期信号には一定量の遅延があります。遅延量の調整はできません。

- SDI 入力信号が途切れた場合、ビデオ出力信号はフリーラン動作に切り替わります。このとき HDMI / SDI 出力の同期信号が一瞬乱れます。
- SDI 入力へブランキングスイッチャを接続して使用する場合は、事前に十分な動作確認を行ってください。
- SDI 入力映像はコンポジット出力には表示されません。
- SDI 入力映像は HDMI / SDI 出力と同じサイズで表示されます。レイアウトのリージョンに合わせた縮小表示などはできません。
- 再生する静止画やテロップの表示色はキーカラーと異なる色にする必要があります。静止画やテロップの表示色がキーカラーに近い色である場合、その部分が SDI 入力映像に置き換わり意図しない表示になることがあります([キーカラー許容値](#)を変更することで SDI 入力映像の表示範囲を調整することができます)。
- レイアウト表示をする際に使用するコンテンツとして動画(ファイルおよびストリーミング)はおすすめできません。一般的な動画にはキーカラーと同色の画素が含まれる可能性があり、キーカラーと同色の部分が SDI 入力映像に置き換わってしまうことで意図しない表示になります。
- AUDIO LINEOUT 出力、SPDIF 出力は [SDI 入力の音声を使用する](#) 設定にかかわらず常にビデオやオーディオファイルに含まれる再生音声が出力されます。

VIII-4. その他

■ VIII-4-1. 再生情報

再生中に画面に表示されるコンテンツの情報が表示されます。

■ VIII-4-2. リモートシリアル

リモートシリアルは MEDIAEDGE Decoder の COM ポートに接続した RS-232C からの通信を、ネットワークを経由して中継する仕組みです。

ネットワーク上の中継先とは一対一での接続になり、複数の中継先との一対多の通信はできません。接続モードの連動とは、ストリーミングを開始するとストリーミングサーバーに対して接続を行う機能です。固定接続先を指定した場合は接続先に指定したアドレスと接続します。サーバー動作の場合は接続を待受け、最初に接続に来た機器と接続します。

■ VIII-4-3. ログ

MEDIAEDGE Decoder は再生やファイル転送、発生したエラーのログを本体内に保持し、Web コンソールの「状態表示」画面に表示します。

また Web API やリモートログ出力を利用して外部から読み出すことも可能です。

内部に保持しているログは一定量を越えると自動的に古いものから削除されます。エラーが連続するなどログが大量に発生すると保持期間が短くなる場合があります。

Web コンソールの[機器管理] > [初期化] > [ログ初期化]でログを削除することが可能です。これはなんらかの理由でログ保持情報を削除する場合に行います(通常の場合には使用しません)。

装置の故障等で不具合が発生した場合には、[機器管理] > [情報の取得] > [ログの取得]で動作ログや内部状況をファイルとして出力することができます。取得したデータは当社カスタマーサポートまでお送りください。

IX. Web コンソール

MEDIAEDGE Decoder に PC から、Web ブラウザーでアクセスすると Web コンソールによる設定や操作を行うことができます。

この章では Web コンソールの操作と設定について説明します。

IX-1. アクセス方法

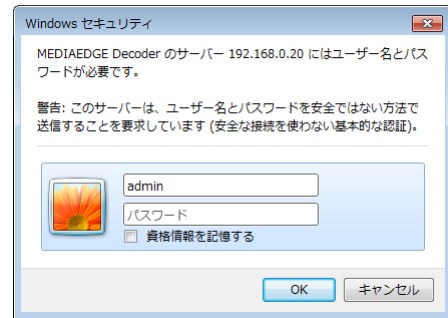
Web ブラウザー (Windows 上で動作する Internet Explorer 8 以降もしくは Google Chrome か Mozilla Firefox) で MEDIAEDGE Decoder を開いてください。MEDIAEDGE Decoder の IP アドレスが分からない場合には、まず [ネットワーク設定](#) を参照してください。

例) : MEDIAEDGE Decoder の IPv4 アドレスが 192.168.0.20 である場合、次のように URL を入力します。

<http://192.168.0.20>

右のような画面が表示されるので、ユーザー名およびパスワードを入力してください。

※工場出荷時設定では、ユーザー名は admin、パスワードはなし(設定されていません)。



次の画面が表示されます。

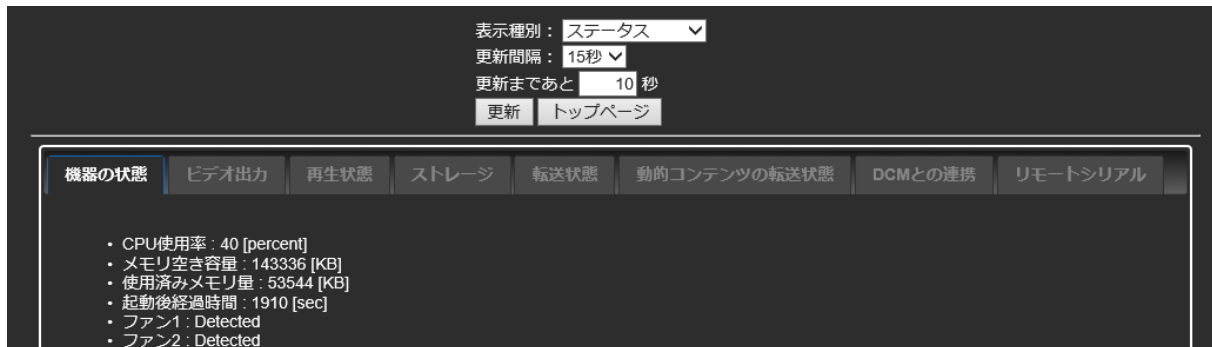


左側のメニュー下部の [Language] より表示言語を日本語/英語から選択できます。

次に画面左側メニューについてそれぞれ説明していきます。

IX-2. 状態表示

この画面では、MEDIAEDGE Decoder の状態やログを確認することができます。状態表示画面を開くと次の画面が表示されます。



画面の上部の[表示種別]のセレクトボックスからステータスやログなどの表示を切り替えることができます。表示できる情報は以下の通りです。

- ステータス
- 同期ステータス(複数台同期再生が有効で動作モードがマスターのときのみ)
- 動作ログ
- エラーログ
- 転送ログ

この画面は一定間隔の時間で表示の自動更新を行うことができます。更新間隔は 15 秒、30 秒、45 秒、60 秒の中から選択できます。[手動]を選択すると自動更新を行いません。その場合は[更新]ボタンで表示を更新してください。

■ IX-2-1. ステータス

MEDIAEDGE Decoder の現在の動作状態を表示します。

IX-2-1-1. 機器の状態

- CPU 使用率
CPU の使用率が表示されます。
- メモリ空き容量
使用可能なメモリの残り容量が表示されます。
- 使用済みメモリ容量
使用済みのメモリ容量が表示されます。
- 起動後経過時間
起動してから経過した時間が表示されます。再起動するとリセットされます。
- ファン 1/ファン 2

ファン 1/ファン 2 が検出できているかどうかが表示されます。製品モデルによってはファンが搭載されていないものもあります。その場合はこの表示はありません。Error と表示される場合は、ファンに問題が発生していますので当社カスタマーサポートまでお問い合わせください。

➤ 筐体内部温度

製品筐体内の温度を表示します。

動作モード

➤ モード

現在の動作モードを表示しています。動作モードには「channel」と「menu」と「serial control」があります。基本的に設定に従ったモードで動作しますが、外部からネットワーク制御によって割り込みの再生が行われたときは「interrupted_playback」になります。

➤ 動作状態

現在の動作モードによる動作の状態が「good/bad」で表示されます。「bad」になっている場合はログを確認してください。

➤ チャンネル No

チャンネルモードで動作している場合に、現在再生しているチャンネル No が表示されます。

➤ メニューURL

メニューモードで動作している場合に、現在表示しているメニューページの URL またはファイルパスが表示されます。

➤ コンテンツアドレス

シリアル制御モードで動作している場合に現在のコンテンツアドレス(タイトル2桁、チャプタ2桁)が表示されます。

➤ コンテンツ URL

現在再生しているコンテンツの URL またはファイルパスが表示されます。

➤ 表示状態

現在の表示状態を示します。menu (メニューページ) / content (コンテンツ) / screen saver (スクリーンセーバー)のいずれかが表示されます。

ハードウェア情報

➤ 製品名

製品名が表示されます。

➤ 有線 MAC アドレス

有線ネットワークアダプタの MAC アドレスが表示されます。

➤ 無線ネットワーク

Wi-Fi モデルの場合は「Exist」と表示されます。Wi-Fi 非搭載モデルの場合は「none」と表示されません。

➤ 無線 MAC アドレス

無線ネットワークアダプタの MAC アドレスが表示されます。

➤ SDI

MEDIAEDGE Decoder SDI モデルまたは MEDIAEDGE Decoder EX の場合は「Exist」と表示されます。MEDIAEDGE Decoder HDMI モデルの場合は「none」と表示されます。

➤ 内蔵 HDD

HDD または SSD 内蔵モデルの場合は「Exist」と表示されます。非搭載モデルの場合は「none」と表示されます。HDD または SSD に故障が発生してもこの表示は変わりません。各ストレージの状態は[ストレージ](#)から確認してください。

➤ FAN

ファン搭載モデルの場合は「Exist」と表示されます。非搭載モデルの場合は「none」と表示されます。ファンに故障が発生してもこの表示は変わりません。各ファンの状態は前述の「ファン 1」「ファン 2」の項目を確認してください。

UPS

➤ UPS

無停電電源装置(UPS)の検出状況が表示されます。

検出状態: Detected、非検出状態: none

➤ UPS への AC 入力

接続されている UPS への AC 入力の検出状況が表示されます。

AC 入力が検出された場合: Detected、AC 入力が検出されない場合: none

➤ バッテリー駆動時間

UPS がバッテリー駆動状態になってからの経過時間(秒)が表示されます。

➤ バッテリー残容量

UPS のバッテリー残容量(%)が表示されます。

IX-2-1-2. ビデオ出力

➤ HDMI (MEDIAEDGE Decoder HDMI モデルのみ)

「出力」には現在の HDMI 出力の解像度や周波数の情報が表示されます。HDMI 出力の設定を「Auto」にしている場合は接続しているモニターに合わせて表示モードが自動で調整されます。

「モニター」には現在のモニターの電源状態が「on/off」で表示されます。この表示にはモニターが HDMI CEC に対応している必要があります。モニターが接続されていない場合や HDMI CEC 非対応のモニターに接続している場合は「unknown」と表示されます。

➤ SDI (MEDIAEDGE Decoder SDI モデルのみ)

「出力」には現在の SDI 出力の解像度や周波数の情報が表示されます。

➤ HDMI / SDI (MEDIAEDGE Decoder EX のみ)

「出力」には現在の HDMI / SDI 出力信号の解像度や周波数の情報が表示されます。

➤ コンポジット

現在のコンポジット出力が「NTSC(J)/NTSC(US)/PAL」のうちどれになっているかが表示されます (PAL は MEDIAEDGE Decoder のみ)。コンポジット出力はビデオ出力設定に従って動作します。

IX-2-1-3. 再生状態

本製品には複数のウィンドウを画面に表示することができ、ここでは各表示ウィンドウの状態が表示されます。

- メインウィンドウ
 - SMIL
 - ビデオ
 - オーディオ
 - HTML
 - 静止画
 - テロップ
- オーバーレイ HTML
- オーバーレイ静止画
- オーバーレイテロップ
- オーバーレイ時計

IX-2-1-4. ストレージ

現在接続されている各ストレージの状態が表示されます。本製品に接続することのできるストレージには次の種類があります。

- 内蔵 HDD/SSD
- SD カード (**MEDIAEDGE Decoder のみ**)
- USB1
- USB2 (**MEDIAEDGE Decoder のみ**)
- ネットワークドライブ

各ストレージには次の値が表示されています。接続されていないストレージに関しては「---」と表示されます。

- ファイルシステム
ファイルシステムの種類が表示されます。
- アクセスモード
「read only」または「read write」のどちらの権限で接続しているかが表示されます。
- ストレージ容量
ストレージ全体の容量が表示されます。
- 使用量
ストレージの使用済みの容量が表示されます。
- 空き容量
ストレージの使用可能な容量が表示されます。

内蔵 HDD/SSD 以外のストレージについては、接続されている場合[安全な取り外し]ボタンが表示されています。これらのストレージを取り外す際は、必ずこのボタンを押してから取り外してください。

ご注意

アクセス中(コンテンツ再生中や配信中)のストレージは絶対に取り外さないでください。必ず[安全な取り外し]を行ってください。コンテンツファイルやファイルシステムが壊れることがあり、ストレージの故障の原因となります。

IX-2-1-5. 転送状態

DCM と連携してファイルを転送する際の状態や転送ファイル状況を表示します。

- 進捗
全体の転送処理における進捗をパーセントで表示します。進捗は上部のプログレスバーにも反映されます。
- 転送状態
転送処理に問題があるかどうか「good/bad」で表示されます。「bad」と表示されている場合は転送ログを確認してください。
- 転送中かどうか
転送中は「running」と表示されます。転送が終了すると「stopped」と表示されます。
- 転送中のファイル名
転送するファイルの中で、現在転送されているファイル名が表示されます。
- 転送済みのファイルサイズ
「転送済みのファイルの合計サイズ/転送予定のファイルの合計サイズ」の書式で転送済みファイルサイズが表示されます。
- 転送済みファイル数
「転送済みファイル数/転送予定のファイル数」の書式で転送済みファイル数が表示されます。
- 転送開始日時
転送を開始した日時が表示されます。
- 経過時間
転送開始日時から経過した時間が表示されます。
- 終了日時
転送が終了すると、その日時が表示されます。
- 予測終了日時
転送が開始すると予測される日時が表示されます。この日時通りに転送が終了することを保証するものではありません。
- 転送するファイル
転送する/されたファイル名が表示されます。
- 転送済みファイル
転送済みのファイル名が表示されます。
- 転送失敗ファイル

転送に失敗したファイル名が表示されます。

IX-2-1-6. 動的コンテンツの転送状態

動的コンテンツ#1～#5 の転送ファイル状況を表示します。表示内容は IX-2-1-5. [転送状態](#)を参照してください。

IX-2-1-7. DCM との連携

- DCM サーバーとの接続
DCM との通信状態は「true/false」で表示されます。「false」の場合、[ネットワーク](#)設定や DCM サーバーの状態を確認してください。

IX-2-1-8. リモートシリアル

- 接続
リモートシリアルの接続状態が「true/false」で表示されます。
- 動作状態
リモートシリアル接続が正常かどうか「good/bad」で表示されます。
- 送信側ピア
送信側の IP アドレスが表示されます。
- 受信側ピア
受信側の IP アドレスが表示されます。

■ IX-2-2. 同期ステータス

複数台同期再生時のマスターおよびスレーブの状態を表示します。本ステータスは複数台同期再生が有効で動作モードがマスターのときのみ選択可能です。

状態が異常の場合は赤色表示、状態に注意が必要な場合は黄色表示されます。

- sync mode
マスターユニットの場合は“master”，スレーブユニットの場合は“slave”と表示されます。
- address
マスターユニットおよびスレーブユニットの IPv4 アドレスが表示されます。
- connected
スレーブユニットがマスターユニットに接続しているときは“true”、接続していないときは“false”と表示されます。
- firmware version
各ユニットのファームウェアバージョンが表示されます。
- running mode

各ユニットの現在のモード(booting / menu / channel / interrupted_playback / sleep)が表示されます。マスター/スレーブ間でモードが一致しない場合はエラーとなります。

- time
各ユニットの現在の時刻が表示されます。マスター/スレーブ間で時刻が一致しない場合はエラーとなります。
- video clock
マスターユニットとのビデオクロック同期状態 (MEDIAEDGE Decoder) / リファレンス信号とのビデオクロック同期状態 (MEDIAEDGE Decoder EX)が表示されます。
 - ◇ locked
ビデオクロックが同期状態です
 - ◇ unlocked
ビデオクロックが同期しておらず、調整中です
 - ◇ freerun (**MEDIAEDGE Decoder EX のみ**)
同期可能なリファレンス信号が検出されないため、ビデオクロックが同期していません
- playback state
各ユニットの再生状態(stopped/loading/playing/paused/stopped)が表示されます。
- content
各ユニットの再生中のコンテンツ URL が表示されます。
- seamless error
シームレス再生が失敗した回数が表示されます。

■ IX-2-3. ログ

MEDIAEDGE Decoder のログを表示します。

動作ログ

再生状態および動作の状態を表示します。

エラーログ

装置内部で発生したエラーログを表示します。

転送ログ

DCM と連携してファイルを転送するログを表示します。

IX-3. 設定ウィザード

■ IX-3-1. 設定ウィザードについて

MEDIAEDGE Decoder はメニューによる操作、スケジュールによる再生、チャンネル視聴、サーバーと接続してのストリーミングなど複数の使用方法をサポートしています。

MEDIAEDGE Decoder を目的に応じて使用するために必要な設定項目が異なります。設定ウィザードを使用することで、必要最低限の設定を行うことができます。最初に設定ウィザードを行い、その後必要となる設定を設定画面から追加することを推奨します。

状態表示

▶ 設定ウィザード

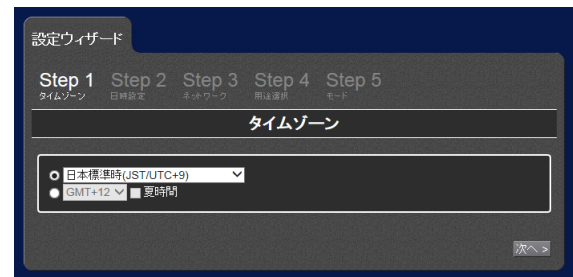
設定

機器管理

ソフトウェアライセンス表示

■ IX-3-2. タイムゾーン

MEDIAEDGE Decoder を設置する地域の属するタイムゾーンを選択してください。地域が選択肢に存在しない場合には GMT との時差を、また夏時間の間は夏時間のチェックボックスをチェックしてください。タイムゾーン設定は[次へ]ボタンを押した時点で反映されます。



■ IX-3-3. 日時設定

MEDIAEDGE Decoder を設置する地域のローカル時刻を設定します。

[PC の時計に同期する]をチェックすると、タイムゾーンの設定とは無関係に設定を行なっている PC と同じ時刻がセットされます。

日時設定は[次へ]ボタンを押した時点で反映されます。



■ IX-3-4. ネットワーク

有線ネットワーク関連の設定を行います。最低限の設定のみをおこないますので、必要であればウィザード終了後に[ネットワーク設定](#)で必要な項目を追加で設定してください。

➤ IPv4

IP アドレスの取得方法を設定します

➤ IPv4 アドレスを自動的に取得する(DHCP) — (初期値)

IP アドレスを DHCP サーバーから取得します。割り振られる IP アドレスは DHCP の設定によ

ります。

- IPv4 アドレスを自動的に取得する (AutoIP)

AutoIPを使用して自動的にIPアドレスを割り振ります。AutoIP の範囲内で自動生成されます。

- 次の IP アドレスを使う

使用する IP アドレスを手動で設定します。設定値については、ネットワーク管理者に確認してください。

● DNS

DNS サーバーのアドレスを設定します。

- DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する

DHCP サーバーから自動的に DNS サーバーアドレスを取得します。

- 次の DNS サーバーのアドレスを使う

使用する DNS サーバーを設定します。設定値については、ネットワーク管理者に確認してください。

- 優先 DNS サーバー

優先する DNS サーバーを指定します。

- 代替 DNS サーバー

優先 DNS サーバーからレスポンスが返らなかった場合に使用する、代替 DNS サーバー指定します。

- DNS ドメイン名

設定値については、ネットワーク管理者に確認してください。

● NTP

MEDIAEDGE Decoder 内蔵時計の時刻を補正する NTP サーバーを設定します。 →

[時刻設定 \(NTP\)](#)

- NTP サーバーのアドレスを自動的に取得する

DHCP サーバーから自動的に NTP サーバーアドレスを取得します。

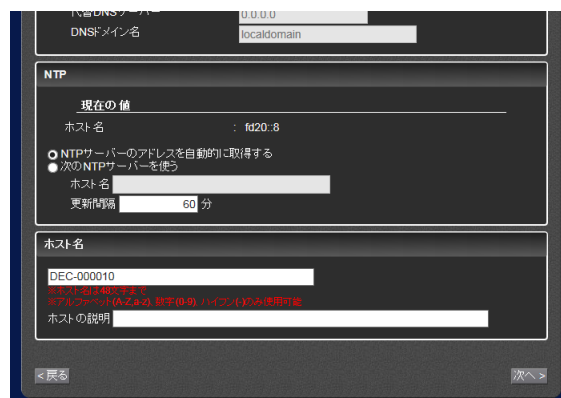
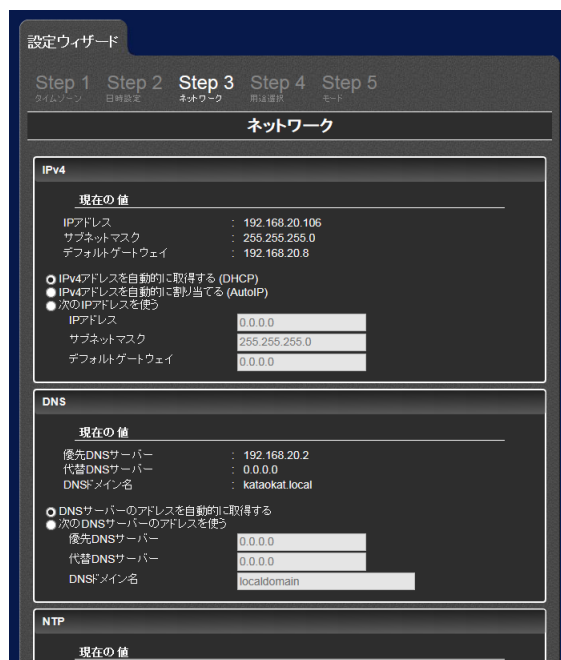
- 次の NTP サーバーを使う

◇ ホスト名

使用する NTP サーバーを設定します。設定値については、ネットワーク管理者に確認してください。

◇ 更新間隔(分)

ここで設定した間隔で NTP サーバーに接続し時刻を補正します。



- **ホスト名**

MEDIAEDGE Decoder のホスト名を設定します。

ホスト名に使用できる文字は半角のアルファベットと数字、「-」のみになります。ホスト名を設定しない場合は MAC アドレスから自動的に生成します。

※ ホスト名の先頭と末尾に「-」は使用できません。

- **ホストの説明**

ホスト名と同時に表示される説明を設定します。

■ IX-3-5. 用途選択

スケジュール再生、メニュー再生、チャンネル視聴、ライブ配信映像再生から使用方法を選択します。



IX-3-5-1. スケジュール再生

DCM から配信されたスケジュールにしたがって自動的にファイルの再生を行います。

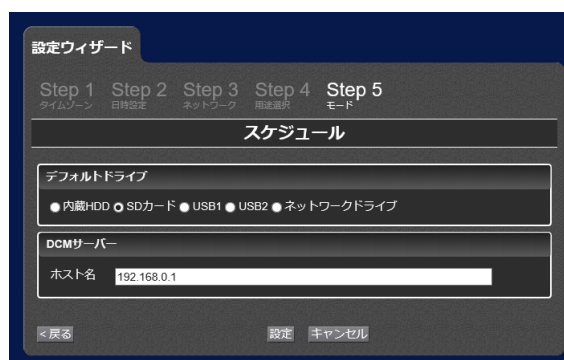
- **デフォルトドライブ**

コンテンツファイルを保存するドライブを選択します。DCM はここで選択したドライブにコンテンツを配信します。

ネットワークドライブを選択した場合には別途、基本設定から接続するネットワークドライブを設定してください。

- **DCM サーバー**

DCM との連携は自動的に有効になります。スケジュールとコンテンツを配信する DCM サーバーのホスト名を設定してください。DCM サーバーの認証アカウントのアカウント名とパスワードを規定値から変更している場合には[サービスとの連携](#)で変更してください。



IX-3-5-2. メニュー再生

MEDIAEDGE Server もしくはローカルストレージにあるファイルをメニュー表示し、リモコンでメニューが

MEDIAEDGE

らコンテンツを選択して再生します。

- **メニュー取得元**

メニューページの取得元を選択します。

サーバーを選択した場合 MEDIAEDGE Server のメニューを表示し、ストリーミング再生を行います。

[ローカルドライブ(メニュー自動生成)]を選択した場合、指定したドライブにあるコンテンツを元にメニューを自動的に生成し表示します。
[ローカルドライブ(ユーザーメニュー)]を選択した場合、メニューファイルパスに指定したドライブにあるメニューファイル(HTML)を表示します。

- **メニューページ URL**

[メニュー取得元]で[サーバー]を選択した場合に設定します。接続する MEDIAEDGE Server のメニューページの URL を指定します。

- **コンテンツドライブ**

[メニュー取得元]で[ローカルドライブ(メニュー自動生成)]または[ローカルドライブ(ユーザーメニュー)]を選択した場合に設定します。コンテンツを再生するドライブを選択します。

- **コンテンツフォルダーパス**

[メニュー取得元]で[ローカルドライブ(メニュー自動生成)]を選択した場合に設定します。使用するフォルダーのパスを指定します。パスは各ストレージのトップ階層から相対パスで記述します。SD カードの content フォルダー以下を見せたい場合はコンテンツドライブ設定で SD カードを選択して [content]と記述します。

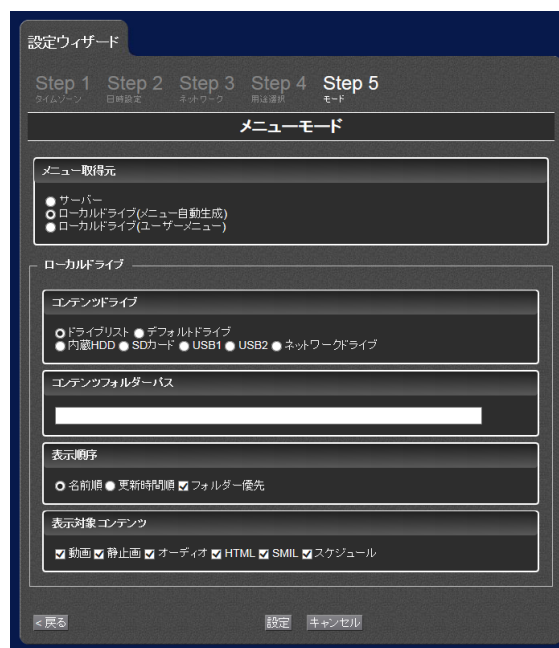
- **表示順序**

[メニュー取得元]で[ローカルドライブ(メニュー自動生成)]を選択した場合に設定します。メニューに登録するコンテンツの順番を指定します。フォルダー優先になっているとファイルよりも先にフォルダーを表示します。

- **表示対象コンテンツ**

[メニュー取得元]で[ローカルドライブ(メニュー自動生成)]を選択した場合に設定します。メニューに登録するコンテンツの種類を設定します。

コンテンツの判定にはファイルの拡張子を使用しています。詳細は[表示対象コンテンツ](#)の項を参照してください。



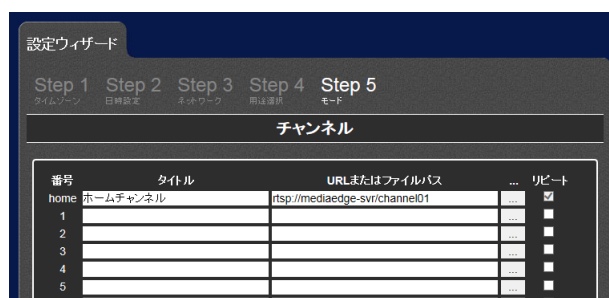
IX-3-5-3. チャンネル視聴

[home]および[1]～[99]の 100 個のチャンネル(※)にコンテンツを登録し、リモコンで選択して再生することができます。

※ 使用するチャンネル数の設定(デフォルト値は 99 チャンネル)により表示されるチャンネル数は

異なります。

使用するチャンネル番号の行にタイトルおよびファイルのパスか URL を設定してください。チャンネルの [home] に指定したコンテンツは MEDIAEDGE Decoder の起動後に自動で再生を開始します。設定したタイトルは再生開始時やリモコンの (DISP) キーを押したときに表示される再生情報に表示されます。



リピートが有効になっている場合はファイルを繰り返し再生します。リピートが無効になっている場合はファイルの再生が終了したあと、[home]チャンネルに戻ります。[home]チャンネルはリピートが常に有効になります。

IX-3-5-4. ライブ配信映像再生

MEDIAEDGE LEB Pro2/Express2/Pro/Express の配信を受信して再生します。接続する MEDIAEDGE LEB Pro2/Express2/Pro/Express の IP アドレスを設定してください。



IX-4. 設定

■ IX-4-1. 設定について

MEDIAEDGE Decoder の動作を設定により変更します。それぞれのページの[設定]ボタンをクリックすると、実際の設定を行い、設定完了後に再起動が必要な場合には再起動を行います。設定画面の各項目は、設定したモードによって必要な項目が表示されます。

■ IX-4-2. 基本設定

IX-4-2-1. 動作モード

MEDIAEDGE Decoder の動作モードを選択します。

- チャンネルモード
登録したチャンネル番号から選択する[チャンネルモード](#)で動作します。DCM を使用してスケジュール再生を行う場合には[チャンネルモード]に設定してください。
- メニューモード - (初期値)
再生するコンテンツを選択する際にメニューを表示して再生する[メニューモード](#)で動作します。サーバーやドライブのメニューを表示しリモコンでコンテンツを選択する場合には[メニューモード]に設定してください。
- シリアル制御モード
シリアルポートまたはネットワークからの制御コマンドによって再生制御を行う[シリアル制御モード](#)で動作します。

IX-4-2-2. デフォルトドライブ

スケジュールファイルとコンテンツファイルを参照するドライブを選択します。DCM ではここで選択したドライブにコンテンツを配信します。

ネットワークドライブを選択した場合には別途[ネットワークドライブ]の設定が必要です。

- 内蔵 HDD
- SD カード (MEDIAEDGE Decoder のみ)
- USB1
- USB2 (MEDIAEDGE Decoder のみ)
- ネットワークドライブ

IX-4-2-3. ドライブの書き込み制限

それぞれのドライブに書き込み可能にするか、書き込みを禁止するかを設定します。[リードオンリー]に

設定するとファイル配信やその他のすべての操作で書き込みが禁止されます。

- 内蔵 HDD
- SD カード (MEDIAEDGE Decoder のみ)
- USB1
- USB2 (MEDIAEDGE Decoder のみ)
- ネットワークドライブ

IX-4-2-4. タイムゾーン

MEDIAEDGE Decoder を設置する地域の属するタイムゾーンを選択してください。地域が選択肢に存在しない場合には GMT との時差を、また夏時間の間は[夏時間]のチェックボックスをチェックしてください。

IX-4-2-5. リモコン

- **有効/無効**
 - 有効 – (初期値)
 - 無効
リモコンを使用しません。
- **ID**

複数の MEDIAEDGE Decoder を個別にリモコンで操作する場合などに、対応する[リモコン ID](#)を設定します。表示される DIPSW の画像にしたがって使用するリモコンの ID を設定してください。
- **POWER キー**
 - 有効 – (初期値)
 - 無効
リモコンによる操作で(POWER)キーだけを無効にします。
- **設定メニュー**

リモコンの(CONF)キーで[設定メニュー](#)を表示するかを設定します。

 - 有効 – (初期値)
確認のみのチェックを外す(初期値)と設定メニューでネットワーク設定が行えます。確認のみにチェックすると現在のネットワーク設定状況の確認のみ可能です。(ネットワーク設定は行えません)
 - 無効
設定メニューが表示されなくなります。

IX-4-2-6. フロントパネル (MEDIAEDGE Decoder EX のみ)

- **LCD 表示**

通常動作中に液晶画面に表示する情報(状態表示)を設定します。

- ステータス - (初期値)
機種名およびメインウィンドウのコンテンツの再生状態 (STOP/PLAY/LOAD/PAUSE)を表示します。
- IP アドレス
機種名および本機の IPv4 アドレスを表示します。
- 日付と時刻
機種名および現在日時を表示します。
- フロントパネル操作
フロントパネル操作の有効/無効を設定します。
 - 有効 - (初期値)
 - 無効
フロントパネルのキーによる操作ができなくなります。

IX-4-2-7. 定期再起動 / 定期電源オン / 定期電源オフ

以下の設定は画面最下端にある「詳細設定を表示...」をクリックすると表示されます。

指定の日時になると自動的に再起動 / 電源オン / 電源オフする機能です。

- 有効
 - 無効 - (初期値)
- 日時設定
再起動 / 電源オン / 電源オフを行う日時を "分 時" または "分 時 日 月 曜" で指定します。
それぞれのフィールドはスペースで区切ります。
指定しないフィールドは * を指定します。
 - 指定可能な値

| | |
|---|-------------------|
| 分 | 0~59 |
| 時 | 0~23 |
| 日 | 1~31 |
| 月 | 1~12 |
| 曜 | 0 または 7(日曜)~6(土曜) |

ご注意

指定を誤るとシステムが正常に動作しなくなる恐れがあります。

➤ 例

| | |
|--------------|-------------|
| 毎日朝 5 時 | 0 5 |
| 毎週日曜日の 23:30 | 30 23 * * 0 |

● シャットダウン中でも再起動する (定期再起動のみ)

➤ 有効 — (初期値)

定期再起動を行う日時において、シャットダウン状態であっても再起動を行います。再起動後は起動状態となります。

➤ 無効

定期再起動を行う日時において、シャットダウン状態であった場合再起動を行いません。

IX-4-2-8. 時計

● 時計表示

画面に時計を表示するかを設定します。

➤ 有効

➤ 無効 — (初期値)

● 表示フォーマット

日時の表示形式を設定します。以下の表記の組み合わせで指定します。

初期値は yyyy/MM/dd ddd hh:mm です。

➤ 日付表記

| 表記 | 表示 |
|-----------|---------|
| d, dd | 日 |
| ddd, dddd | 曜日 |
| M, MM | 月 |
| MMM, MMMM | 月名 (英語) |
| yy, yyyy | 年 |

➤ 時間表記

| 表記 | 表示 |
|--------|--------------|
| h, hh | 時 |
| m, mm | 分 |
| s, ss | 秒 |
| AP, ap | 午前または午後 (英語) |

➤ 例

| 表記 | 表示 |
|------------|------------|
| dd.MM.yyyy | 21.05.2013 |

| | |
|---------------|---------------|
| ddd MMMM d yy | Tue May 21 13 |
| hh:mm:ss | 14:13:09 |
| h:m:s ap | 2:13:9 pm |

以下の設定は画面最下端にある「詳細設定を表示...」をクリックすると表示されます。

- **デザイン**

時計表示のデザインを設定します。

- **フォントサイズ**

時計表示の文字サイズ(高さ)をピクセル単位で設定します。初期値は 36 ピクセルです。

- **背景色**

時計表示領域の背景色を 16 進数の 32 ビット値(AARRGGBB)で指定します。初期値は 90000000 です。

- **文字色**

時計表示の文字の色を 16 進数の 24 ビット値(RRGGBB)で指定します。初期値は FFFFFFFF (白)です。

- **文字の縁色**

時計表示の文字の縁の色を 16 進数の 24 ビット値(RRGGBB)で指定します。初期値は 000000 (黒)です。

- **文字の縁幅**

時計表示の文字の縁の幅をピクセルで指定します。0(なし)から 32ピクセルの範囲で指定します。初期値は 0ピクセルで縁は表示されません。

- **位置サイズ**

時計の表示位置とサイズを指定します。

- **X** — (初期値:1300)

時計表示領域の左上の X 座標(0~1919)を指定します。

- **Y** — (初期値:100)

時計表示領域の左上の Y 座標(0~1079)を指定します。

- **幅** — (初期値:500)

時計表示領域の幅をピクセル(1~1920)で指定します。

- **高さ** — (初期値:100)

時計表示領域の高さをピクセル(1~1080)で指定します。

- **詳細設定**

- **表示オフセット**

現在の日時にオフセット値を加減して、日時を表示します(+の値で進み、-の値で遅れます)。

0 秒から±86400 秒(1 日)の範囲で指定できます。初期値は 0 です。

IX-4-2-9. リモートログ

- ログ出力

MEDIAEDGE Decoder のログを IETF-syslog (RFC-5424) の形式で UDP 送信するかどうかを設定します。リモートログを受信するためには、Syslog を受信する環境が必要です。

- 有効

- [リモートログ](#)を有効にします。

- 無効 – (初期値)

- 送信先 IP アドレス

ログの送信先 PC などの IP アドレスを設定します。IPv6 アドレスを指定すると IPv6 UDP 形式で送信します。

送信先にホスト名は使用できません。

IX-4-2-10. ネットワークドライブ

Windows ファイル共有で共有されているドライブにアクセスする設定を行います。共有されているドライブ、ユーザー名やパスワードについてはネットワーク管理者に確認してください。

- ドライブパス

接続するネットワークドライブのパスを`¥¥server-name¥share` の形式で設定します。

ご注意

ドライブパスはネットワークドライブ側で共有設定されているフォルダーのみ指定できます。共有フォルダーより下層のパス(例:[¥¥server-name¥share¥folder](#) など)を指定することはできません。

- ユーザー名

公開されているネットワークドライブのユーザー名を設定します。

- パスワード

公開されているネットワークドライブのパスワードを設定します。

IX-4-2-11. UPS

オムロン株式会社製 無停電電源装置(UPS)を USB ケーブルで接続することで、UPS の AC 入力状態を監視します。UPS の AC 入力が見失われ、バッテリー駆動状態になってからの経過時間またはバッテリー残容量により MEDIAEDGE Decoder をシャットダウンさせることができます。

MEDIAEDGE Decoder がシャットダウンしてから約 1 分後、UPS 本体がシャットダウンします。

- 動作モード

UPS 監視の動作モードを設定します。

- 無効 – UPS に連動してシャットダウンを行いません。(初期値)

- バッテリー駆動時間

- UPS がバッテリー駆動状態になってからの経過時間で MEDIAEDGE Decoder をシャットダウ

ンします。

➤ バッテリー残容量

UPS がバッテリー駆動の状態ですべてのメディアエッジデコーダのバッテリー残容量が設定値を下回った場合にメディアエッジデコーダをシャットダウンします。

● シャットダウンまでのバッテリー駆動時間

UPS がバッテリー駆動状態になってからメディアエッジデコーダをシャットダウンさせるまでの時間(秒)を指定します。

● シャットダウンするバッテリー残容量

メディアエッジデコーダをシャットダウンさせる UPS のバッテリー残容量(%)を指定します。

● グループ名

1 台の UPS から複数のメディアエッジデコーダの電源を供給する場合、USB ケーブルで直接 UPS に接続されていないメディアエッジデコーダを同じグループ名に設定しておくこと、ネットワーク経由のシャットダウンコマンドにより、同時にシャットダウンさせることができます。

グループ名を設定しない場合(空の場合)、ネットワーク経由でシャットダウンコマンドを送信しません。(初期値)

■ IX-4-3. ネットワーク

IX-4-3-1. IPv6

IPv6 の有効、無効を設定します。通常は有効にしておき、IPv6 を有効にして問題がある環境のみで無効にしてください。

➤ 有効 — (初期値)

IPv6 を使用します。IPv6 のアドレスは DHCPv6 が有効であれば DHCPv6 から、ネットワーク上に DHCPv6 が存在しなければ自動的に設定します。

➤ 無効

IPv6 を使用しません。

IX-4-3-2. 優先して使用するネットワーク(MEDIAEDGE Decoder Wi-Fi モデルのみ)

有線 LAN または無線 LAN 経由で DHCP サーバーから取得される設定(DNS サーバーや NTP サーバーなど)を優先して使用するネットワークを設定します。

➤ 有線 — (初期値)

➤ 無線

IX-4-3-3. IPv4

● 有線 LAN

➤ IPv4 アドレス

IP アドレスの取得方法を設定します。

- ◇ IPv4 アドレスを自動的に取得する(DHCP) — (初期値)
IP アドレスを DHCP サーバーから取得します。割り振られる IP アドレスは DHCP の設定によります。DHCP サーバーから取得できるまでは IP アドレスは割り振られません。
- ◇ IPv4 アドレスを自動的に取得する(AutoIP)
AutoIP を使用して自動的に IP アドレスを割り振ります。AutoIP の範囲内 (169.254/16) で自動生成されます。
- ◇ 次の IP アドレスを使う
使用する IP アドレスを手動で設定します。設定値については、ネットワーク管理者に確認してください。
 - IP アドレス
 - サブネットマスク
 - デフォルトゲートウェイ

➤ DNS

- ◇ DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する
DHCP サーバーから自動的に DNS サーバーアドレスを取得します。
- ◇ 次の DNS サーバーのアドレスを使う
使用する DNS サーバーを設定します。設定値については、ネットワーク管理者に確認してください。
 - 優先 DNS サーバー
優先する DNS サーバーを指定します。
 - 代替 DNS サーバー
優先 DNS サーバーからレスポンスが返らなかった場合に使用する、代替 DNS サーバー指定します。
 - DNS ドメイン名
設定値については、ネットワーク管理者に確認してください。

● 無線 LAN

本設定は MEDIAEDGE Decoder Wi-Fi モデルでのみ表示されます。

➤ IPv4 アドレス

IP アドレスの取得方法を設定します。

- ◇ 無効
無線 LAN の IPv4 を無効にします。
- ◇ IPv4 アドレスを自動的に取得する(DHCP) — (初期値)
IP アドレスを DHCP サーバーから取得します。割り振られる IP アドレスは DHCP の設定によります。DHCP サーバーから取得できるまでは IP アドレスは割り振られません。
- ◇ IPv4 アドレスを自動的に取得する(AutoIP)
AutoIP を使用して自動的に IP アドレスを割り振ります。AutoIP の範囲内 (169.254/16) で自動生成されます。

- ◇ 次の IP アドレスを使う
使用する IP アドレスを手動で設定します。設定値については、ネットワーク管理者に確認してください。

- IP アドレス
- サブネットマスク
- デフォルトゲートウェイ

➤ **DNS**

- ◇ DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する
DHCP サーバーから自動的に DNS サーバーアドレスを取得します。
- ◇ 次の DNS サーバーのアドレスを使う
使用する DNS サーバーを設定します。設定値については、ネットワーク管理者に確認してください。

- **優先 DNS サーバー**
優先する DNS サーバーを指定します。
- **代替 DNS サーバー**
優先 DNS サーバーからレスポンスが返らなかった場合に使用する、代替 DNS サーバー指定します。
- **DNS ドメイン名**
設定値については、ネットワーク管理者に確認してください。

➤ **SSID**

接続する無線 LAN の SSID を入力します。

➤ **セキュリティ**

無線 LAN 接続の暗号化に関する設定を行います。

- ◇ **セキュリティ**

暗号化方式を選択します。

- なし
暗号化を使用しません
- WEP 104bit
- WPA-PSK(Auto)
WPA-PSK (AES または TKIP)を自動認識します
- WPA-PSK(TKIP)
- WPA2-PSK(AES)

- ◇ **セキュリティキー**

暗号鍵のパスワードを指定します。

- WEP の場合は 13 桁 (キー指定方法が英数字)または 26 桁(キー指定方法が 16 進数)
- WPA-PSK, WPA2-PSK の場合は 8 桁以上 64 桁以下

- ◇ **キー指定方法**

WEP の場合、セキュリティキーを英数字で指定するか 16 進数で指定するかを選択しま

す。

- 英数字
- 16 進数

◇ キーインデックス

WEP のセキュリティキーのインデックスを 1~4 から選択します。

- 1
- 2
- 3
- 4

IX-4-3-4. Proxy

- **HTTP Proxy**

HTTP でアクセスする際に Proxy を使用する場合に、Proxy サーバーを指定します。

- ホスト名
- ポート番号

- **FTP Proxy**

FTP でアクセスする際に Proxy を使用する場合に、Proxy サーバーを指定します。

- ホスト名
- ポート番号

- **Exception Hosts (除外リスト)**

Proxy を使用せずに直接アクセスするサーバーのホスト名または IP アドレスを記述します。
複数設定する場合はカンマで区切って指定してください。

IX-4-3-5. ホスト名

- **ホスト名**

MEDIAEDGE Decoder のホスト名を設定します。

ホスト名に使用できる文字は半角のアルファベットと数字、「-」のみになります。ホスト名を設定しない場合は「DEC-xxxxxx」のように、MAC アドレスから自動的に生成します。

※ ホスト名の先頭と末尾に「-」は使用できません。

- **ホストの説明**

ホスト名と同時に表示される説明を設定します。特に設定する必要はありませんが、接続している機器の数が増えた場合の識別に役立ちます。

IX-4-3-6. NTP

- **NTP サーバー**

MEDIAEDGE Decoder 内蔵時計の時刻を補正する NTP サーバーを設定します。

→ [時刻設定\(NTP\)](#)

- NTP サーバーのアドレスを自動的に取得する — (初期値)
NTP サーバーのアドレスを DHCP サーバーから取得します。

- 次の NTP サーバーを使う

- ◇ **ホスト名**

- **更新間隔** — (初期値:60 分)

NTP サーバーに接続し、時刻補正する間隔を指定します。

- **信頼性の低い NTP サーバーに同期**

接続する NTP サーバーが他の NTP サーバーに同期していないなど、時刻の信頼性が低い場合でも時刻補正するかどうかを設定します。NTP サーバー側の問題で MEDIAEDGE Decoder が時刻同期できない場合に有効にすると時刻同期できることがあります。

- 有効

- 無効 — (初期値)

IX-4-3-7. UPnP

MEDIAEDGE Decoder は UPnP による自動検出に対応しています。 → [UPnP](#)

- 有効 — (初期値)

定期的に UPnP のメッセージをネットワークに通知します。

- 無効

UPnP の通信を行いません。

IX-4-3-8. サービスとの連携

DCM を使用して MEDIAEDGE Decoder のスケジュール、レイアウト、コンテンツを管理する場合、接続する DCM の設定を行います。

- **連携**

- 有効

- 無効 — (初期値)

- **サービス**

連携するサービスを選択してください。

- DCM

- ME-Cloud

- **DCM サーバー**

サービスで DCM を選択している場合にスケジュールとコンテンツを配信する DCM サーバーのホスト名を設定してください。

- ホスト名

- ポート番号

- **アカウント**

DCM サーバーのアカウントとパスワードを変更している場合に DCM の設定に合わせて設定してください。初期値は DCM の初期値が設定されています。サービスで ME-Cloud を選択している場合はパスワードのみ設定できます。

- ユーザー名
- パスワード

IX-4-3-9. ファイル共有

Windows ファイル共有で MEDIAEDGE Decoder のストレージにアクセスする機能を設定します。

→ [ファイル共有](#)

- **有効/無効**

- 有効
- 無効 – (初期値)

- **アカウント**

共有ドライブに接続するアカウントと設定値を設定します。

- ユーザー名 – (初期値: mediaedge)
- パスワード – (初期値: 設定値なし)

- **共有ドライブ権限**

無効に設定すると、そのドライブは共有されません。[リードオンリー]の場合は読み出しのみ、[リードライト]の場合は読み書きが可能になります。[共有ドライブの権限]は[ドライブの書き込み権限]とは別に設定できますが、ドライブが[リードオンリー]の場合に[リードライト]に設定しても書き込みはできません。

- 内蔵 HDD
- SD カード (MEDIAEDGE Decoder のみ)
- USB1
- USB2 (MEDIAEDGE Decoder のみ)

IX-4-3-10. SNMP

- **SNMP**

- 有効
SNMP エージェント機能を有効にします。
- 無効 – (初期値)
SNMP の通信を行いません。

- **バージョン**

SNMP 通信プロトコルのバージョンを指定します。

- SNMPv2 – (初期値)
- SNMPv3

- **コミュニティ名(SNMPv2)/ユーザー名(SNMPv3)**

コミュニティ名(SNMPv2)またはユーザー名(SNMPv3)を指定します。(初期値: public)

- **アクセスモード**

通信の際のアクセスモードを指定します。

- リードオンリー
- リードライト – (初期値)

- **認証**

通信の際の認証方式を設定します。

- **認証**

- ◇ なし – (初期値)
- ◇ MD5
- ◇ SHA

- **認証パスワード**

初期値は設定されていません。

SNMPv3 を使用する場合のパスワードは 8 文字以上、15 文字以下である必要があります。
パスワードがない状態では正しく設定できないので、必ずパスワードを設定してください。

- **暗号化**

- ◇ None – (初期値)
- ◇ DES

- **暗号化パスワード**

初期値は設定されていません。

SNMPv3 を使用する場合のパスワードは 8 文字以上、15 文字以下である必要があります。
パスワードがない状態では正しく設定できないので、必ずパスワードを設定してください。

IX-4-3-11. Web コントロール

- **有効/無効**

- **有効**

Web コントロール機能(公開フォルダーおよび制御用の CGI)を有効にします。

- **無効 – (初期値)**

Web コントロール機能を無効にします。

- **公開ドライブ**

公開対象とするコンテンツを格納するドライブを指定します。

- **デフォルトドライブ – (初期値)**

基本設定の[デフォルトドライブ]で選択したドライブを使用します。

- **内蔵 HDD**

内蔵 HDD/SSD を使用します。(HDD/SSD 内蔵モデルの場合)

- **SD カード (MEDIAEDGE Decoder のみ)**

SD カードを使用します。

- USB1
USB1 に接続したストレージを使用します。
 - USB2 (MEDIAEDGE Decoder のみ)
USB2 に接続したストレージを使用します。
 - ネットワークドライブ
基本設定で設定したネットワークドライブを使用します。
- 公開フォルダー
公開対象とするコンテンツを格納するフォルダーのパスを指定します。
初期値は [MEDIAEDGE/_WebControl] となっています。
ここで設定したフォルダーは以下の URL に公開されます。
公開 URL: <http://decoder-address/web_control/menu/>
 - 基本認証
有効にした場合、上記の公開 URL へのアクセスの際に基本認証が有効になります。
 - 有効
 - 無効 - (初期値)
ユーザー名およびパスワードを設定します。
 - ユーザー名 - (初期値: mediaedge)
 - パスワード - (初期値: 設定値なし)

IX-4-3-12. 動的コンテンツ

動的コンテンツのダウンロード設定は 5 セット設定(#1 ~ #5)することが可能です。

- URL
動的コンテンツダウンロード用の download.txt への URL を指定します。
- ユーザー名
download.txt を取得する為のユーザー名を指定します。
- パスワード
download.txt を取得する為のパスワードを指定します。
- 更新時間
download.txt を取得する間隔を秒で指定します。
#1~#5 のダウンロード処理は同時に行われる為、指定した時間間隔で正確に処理されるわけはありません。

■ IX-4-4. メニューモード

メニューモードで表示するメニューの設定を行います。

IX-4-4-1. メニュー取得元

● メニュー取得元

メニューページの取得元を選択します。

MEDIAEDGE Server もしくは MEDIAEDGE LEB からストリーミング再生する場合は[サーバー]を選択します。

[ローカルドライブ(メニュー自動生成)]を選択した場合、指定したドライブにあるコンテンツからメニューを自動的に生成し表示します。[ローカルドライブ(ユーザーメニュー)]を選択した場合、[メニューファイルパス]に指定したドライブにあるメニューファイル(HTML)を表示します。

- サーバー
- ローカルドライブ(メニュー自動生成) — (初期値)
- ローカルドライブ(ユーザーメニュー)

IX-4-4-2. サーバー

● メニューページ URL

- 初期値: 空欄 — (記述例: <http://mediaedge-svr/sample/dec/index.html>)

[メニュー取得元]を[サーバー]に設定した際の、メニューのホーム URL を指定します。ローカルファイルを再生する場合には設定の必要はありません。

IX-4-4-3. ローカルドライブ

● コンテンツドライブ

[メニュー取得元]に[ローカルドライブ(メニュー自動生成)]または[ローカルドライブ(ユーザーメニュー)]を設定した場合の、メニューのホーム画面に使用するドライブを指定します。

- ドライブリスト — (初期値)
MEDIAEDGE Decoder で使用可能なドライブの一覧が表示されます。
- デフォルトドライブ
基本設定の[デフォルトドライブ]で選択したドライブを使用します。
- 内蔵 HDD
内蔵 HDD/SSD を使用します。(HDD/SSD 内蔵モデルの場合)
- SD カード (MEDIAEDGE Decoder のみ)
SD カードを使用します。
- USB1
USB1 に接続したストレージを使用します。
- USB2 (MEDIAEDGE Decoder のみ)

USB2 に接続したストレージを使用します。

➤ ネットワークドライブ

基本設定で設定したネットワークドライブを使用します。

● コンテンツフォルダーパス

[メニュー取得元]で[ローカルドライブ(メニュー自動生成)]を選択した場合に設定します。コンテンツドライブの中のフォルダーをメニューのホームとして使用する際のフォルダー名を指定します。コンテンツドライブで選択したストレージのトップ階層からの相対パスを記述してください(例えば指定したコンテンツドライブのルートフォルダーの直下に content フォルダーがある場合、コンテンツフォルダーパスを[content]と記述します)。**[コンテンツドライブ]**で**[ドライブリスト]**を選んでいる場合は**[ドライブ名/相対パス]**を記述します。各ドライブのドライブ名は次の通りです。

- 内蔵 HDD : internal_HDD
- USB1 : USB1
- USB2 : USB2
- SD カード : SD
- ネットワークドライブ : network

指定されたパスが存在しない場合は、**[コンテンツドライブ]** で指定したドライブのトップ階層が表示されます。

右の … をクリックして、接続されているドライブに格納されているファイル一覧からファイルを選択することも可能です。

● メニューファイルパス

[メニュー取得元]で[ローカルドライブ(ユーザーメニュー)]を選択した場合に設定します。メニューファイルへのパスを指定します。**[コンテンツドライブ]**で選択したストレージのトップ階層からの相対パスを記述してください。

(content フォルダー下の menu.html を使用する場合は[content/menu.html]と記述します。)

[コンテンツドライブ]で**[ドライブリスト]**を選んでいる場合は**[ドライブ名/相対パス]**を記述します。各ドライブのドライブ名は次の通りです。

- 内蔵 HDD : internal_HDD
- USB1 : USB1
- USB2 : USB2
- SD カード : SD
- ネットワークドライブ : network

例えば SD カードの content フォルダー下の menu.html を使用する場合は [SD/content/menu.html]と記述します。

右の … をクリックして、接続されているドライブに格納されているファイル一覧からファイルを選択することも可能です。

● 表示順序

自動生成するメニューにコンテンツを表示する順番を設定します。

➤ 名前順 — (初期値)

コンテンツのファイル名順(昇順)に表示します。日本語のファイル名は UTF-8 でエンコードさ

れたデータでの順番になるため、日本語のファイルを使用する場合は、ファイル名の先頭に半角数字で番号などをつけることを推奨します。

- 更新時間順
コンテンツファイルの更新時間順(昇順)に表示します。
- フォルダー優先
フォルダーが含まれる場合、フォルダーを優先して上部に表示します。

● 表示対象コンテンツ

自動生成するメニューに表示するコンテンツの種類を設定します。チェックボックスにチェックした種類のコンテンツのみをメニューに表示します。

コンテンツの種類はファイルの拡張子で判別しています。

| コンテンツの種類 | 拡張子 |
|----------|--------------------------|
| 動画 | mpg, m2t, m2p, m2ts, mts |
| 静止画 | jpg, jpeg, png, gif, bmp |
| オーディオ | wav, mp3 |
| HTML | html, htm, asp |
| SMIL | smil, smi, sml |

DCM で作成したスケジュールファイルはスケジュールコンテンツとして認識します。

IX-4-4-4. スクリーンセーバー

メニューモードで操作が一定時間ない場合にスクリーンセーバーを表示することが可能です。スクリーンセーバー表示中に操作を行うとメニューに戻ります。

● スクリーンセーバーの使用

- 有効
スクリーンセーバーを使用します。
- 無効 - (初期値)
スクリーンセーバーを使用しません。

● アイドル時間 - (初期値:300)

スクリーンセーバーが起動するまでの待ち時間を秒単位で指定します。

表示コンテンツ - (初期値:設定なし)

スクリーンセーバーで再生するファイルパスを指定します。動画、静止画の他にスケジュールなど MEDIAEDGE Decoder で対応している全てのコンテンツが指定できます。パスはローカルのコンテンツを使用する場合は基本設定の[デフォルトドライブ]で指定したドライブのトップ階層からの相対パスを記述してください。サーバーのコンテンツを使用する場合は URL を記述してください。

右の … をクリックして、接続されているドライブに格納されているファイル一覧からファイルを選択することも可能です。

● スクリーンセーバーから復帰したときにホーム画面に戻る

- 有効
復帰時にメニューのホーム画面に戻ります。ホーム画面以外でスクリーンセーバーが起動した

場合に、ホーム画面に戻る必要がある場合に使用します。

- 無効 – (初期値)
復帰時に直前の画面に戻ります。

■ IX-4-5. チャンネルモード

チャンネルモードで、それぞれのチャンネルに割り当てるコンテンツを指定します。

コンテンツに設定できるのは動画ではストリーミングかローカルファイルでそれぞれ URL か、ファイルのパスを記述します。動画ファイル以外の静止画、テロップ、HTML、オーディオ、スケジュールはファイルパスを指定します。ファイルパスの記述の仕方は後述の[URL またはファイルパス]を参照してください。チャンネルモードで起動すると[home]で指定したコンテンツが再生されます。また[home]、番号で指定したコンテンツはリモコンにより切り替えることができます。

● リモコンの CANCEL キー

コンテンツ再生中にリモコンの(CANCEL)キーを押したときの動作を指定します。

- 再生を停止する – (初期値)
再生を停止します。
- ホームチャンネルを再生する
[home]で指定したチャンネルを再生します。

● 使用するチャンネル数 – (初期値:99)

使用する最大チャンネル数を 0~999 で指定します。リモコン操作でチャンネルを選択するとき、9 以下を指定した場合は 1 桁の番号を、99 以下を指定した場合は 2 桁の番号を、それ以外の場合は 3 桁の番号を入力した時点でチャンネルが確定されます。

● チャンネル

➤ タイトル

再生開始時に再生情報に表示されるタイトルを指定します。

➤ URL またはファイルパス

再生するファイルの URL もしくはファイルパスを指定します。

ストリーミングの場合は

● MEDIAEDGE LEB のとき

rtsp://(MEDIAEDGE LEB の IP アドレスまたはホスト名)/video

● MEDIAEDGE Server のとき

rtsp://(MEDIAEDGE Server の IP アドレスまたはホスト名)/(サーバー内のコンテンツ名)

と記述します。

例)

rtsp://192.168.0.10/video IPv4 アドレス

rtsp://[fe80::c6ad:21ff:fe00:1]/video IPv6 アドレス

rtsp://mediaedge-svr/content01 ホスト名

ファイルパスの場合は、[デフォルトドライブ](#)で指定したドライブのトップ階層からの相対パスで指定します。SD カードの content フォルダ一下にある sample.m2p を指定する場合、[デフォ

ルトドライブ]を[SD カード]に設定した上で[content/sample.m2p]と指定します。[デフォルトドライブ]の設定に関わらずコンテンツを指定する場合は、ファイルパスに[/drives/(ドライブ名)]から始まる絶対パスを記述します。先ほどの例では[/drives/SD/content/sample.m2p]と指定します。各ドライブのドライブ名は次の通りです。

- 内蔵 HDD : internal_HDD
- USB1 : USB1
- USB2 : USB2
- SD カード : SD
- ネットワークドライブ : network

右の … をクリックして、接続されているドライブに格納されているファイル一覧からファイルを選択することも可能です。

➤ リピート

コンテンツの再生が終了したとき、再生をリピートするかどうかを指定します。チェックを外している場合は、再生が終了すると[home]チャンネルに戻ります。[home]チャンネルはリピートが常に有効になっています。

■ IX-4-6. シリアル制御モード

IX-4-6-1. コンテンツドライブ

シリアル制御モードで再生対象とするコンテンツを格納するドライブを指定します。

- デフォルトドライブ — (初期値)
基本設定の[デフォルトドライブ]で選択したドライブを使用します。
- 内蔵 HDD
内蔵 HDD/SSD を使用します。(HDD/SSD 内蔵モデルの場合)
- SD カード (**MEDIAEDGE Decoder のみ**)
SD カードを使用します。
- USB1
USB1 に接続したストレージを使用します。
- USB2 (**MEDIAEDGE Decoder のみ**)
USB2 に接続したストレージを使用します。
- ネットワークドライブ
基本設定で設定したネットワークドライブを使用します。

IX-4-6-2. コンテンツフォルダーパス

再生対象とするコンテンツを格納するフォルダーのパスを指定します。

右の … をクリックして、接続されているドライブに格納されているフォルダー一覧からフォルダーを選択することも可能です。

初期値は MEDIAEDGE/_Serial となっています。

IX-4-6-3. ネットワークシリアル制御

- **有効/無効**
 - 有効
ネットワーク経由でシリアル制御モードの制御コマンドを受け付けます。
 - 無効 - (初期値)
ネットワーク経由でシリアル制御モードの制御コマンドを受け付けません。
- **待機ポート番号** - (初期値:12000)
ネットワーク経由でシリアル制御モードの制御コマンドを受け付ける待機ポート番号を指定します。

IX-4-6-4. 再生開始コマンド(PL)から再生開始までの遅れ - (初期値:0)

PL コマンドを発行してから再生処理を開始するまでの遅延時間(ミリ秒)を設定できます。
通常は初期値のまま使用します。

■ IX-4-7. 再生

IX-4-7-1. 複数台同期再生

- **有効/無効**
 - 有効
複数台同期再生(VI-5 [複数台同期再生](#)を参照)を有効にします。
 - 無効 - (初期値)
複数台同期再生(VI-5 [複数台同期再生](#)を参照)を無効にします。
- **動作モード**
 - マスター
同期再生時にマスターユニットとして動作させます。
 - スレーブ - (初期値)
同期再生時にスレーブユニットとして動作させます。
- **同期制御マルチキャストアドレス** - (初期値:239.192.40.0)
同期再生を制御するためのマルチキャストアドレス(範囲は、224.0.1.0~239.255.255.255)を指定します。
マスターとスレーブで同じアドレスを指定する必要があります。特に理由がない場合は初期値のままご使用ください。
- **同期制御ポート番号** - (初期値:57024)
同期再生を制御するためのポート番号(範囲は、49152 ~ 65535)を指定します。
マスターとスレーブで同じポート番号を指定する必要があります。特に理由がない場合は初期値のままご使用ください。
- **スレーブユニットのアドレス** - (初期値:なし)

動作モードをマスターに設定した場合、同期するスレーブの IPv4 アドレスを列挙します。

- **スレーブユニットが起動するまでの待ち時間** — (初期値:60 秒)
マスターユニットは起動後にスレーブユニットとの通信ができるのを(最大で)指定された時間だけ待ってから再生を開始します。
通常は初期値のままご使用ください。
- **ビデオ出力信号が同期するまで待つ**
 - 有効 — (MEDIAEDGE Decoder EX 初期値)
マスターユニットは起動後に最大で 10 分間、同期再生を行う全ユニットのビデオ出力信号タイミングの調整が完了するのを待ちます。有効にするとユニット間の同期再生の精度が向上します。
 - 無効 — (MEDIAEDGE Decoder 初期値)
マスターユニットは起動後に同期再生を行う全ユニットのビデオ出力信号の調整が完了するのを待たずに同期再生を開始します。

ご注意

- MEDIAEDGE Decoder EX ではビデオ出力信号タイミングの調整中はビデオ信号が乱れ、映像が正常に表示されない恐れがあります。通常は有効の設定でご使用ください。
- ビデオ出力信号タイミングの調整が完了しない状態で複数台同期再生を開始すると各ユニット間でフレーム表示タイミングがずれてしまいます。

IX-4-7-2. ビデオ

- **ビデオファイルの再生開始位置**
動画ファイルを再生する際のデコード開始位置を指定します。
 - 黒画面
黒画面の状態から再生を開始します。[シリアル制御再生](#)などでポーズ状態から再生を開始する際に初めのフレームを表示したくない場合に使用できます。
 - ファイル先頭 — (初期値)
ファイルの先頭から再生を開始します。
 - ファイル先頭から数フレーム進める
ファイル先頭から数フレーム進めた位置から再生を開始します。複数台同期再生を行う場合は指定しないでください。

IX-4-7-3. デジタル音声出力 (Dolby Digital) (MEDIAEDGE Decoder のみ)

Dolby Digital 音声を再生する場合の S/PDIF および HDMI 出力方法を選択します。

- LPCM 2ch — (初期値)
Dolby Digital 音声をダウンミックスして、LPCM 2ch で出力します。
- スルー

Dolby Digital 音声を圧縮ストリームのままスルー出力します。5.1ch の圧縮ストリームを外部のオーディオアンプなどに出力する場合に選択します。

IX-4-7-4. 音量

コンテンツ再生時の音量を左右それぞれで設定します。

- 50 — (初期値)
音量をそのまま(0dB)出力します。
- 49～1
音量を (設定値－50) [dB] にして出力します。
- 0
消音状態にします。

IX-4-7-5. ジャンプ時間 — (初期値:10)

リモコンの⏮⏭ キーを押したときにファイルの表示位置を移動する秒数を設定します。

IX-4-7-6. 再生情報

メニューからの再生開始時に画面上に表示される再生情報の表示モードを設定します。

● 表示モード

- オフ
再生情報の表示を行いません。
- 自動 — (初期値)
再生開始時に自動的に表示し、表示時間を経過すると自動的に消えます。
- 手動
リモコンの(DISP)キーを押すことで、情報表示を行います。

● 表示時間 — (初期値:5)

自動的に表示した再生情報を自動的に消去するまでの時間を秒単位で設定します。

IX-4-7-7. エラーポップアップ表示

再生時にエラーが発生すると、再生エラーを通知するためのエラーポップアップが画面に表示されます。表示されたエラーポップアップはリモコンの(OK)キーを押すことで消えます。

- 静止 — (初期値)
画面の中央上部に表示します。
- 非表示
エラーポップアップを表示しません。

➤ 移動

画面の焼き付きを防ぐために表示位置が画面上を移動します。

IX-4-7-8. スケジュール

動作モードによらず、スケジュールファイルにしたがって再生している場合の動作を設定します。

MEDIAEDGE ではフィルターとはスケジュール再生時にエラーが発生した場合に指定されたコンテンツを自動的に再生する機能を指します。

- **空き時間をエラーとみなす**

- 有効

再生中のスケジュールにコンテンツの登録されていない空き時間があつた場合、エラーとしてフィルター再生を行います。

- 無効 - (初期値)

スケジュールに空き時間があつた場合にエラーとはみなさず、再生を停止します。

- **エラー発生時にフィルターを再生**

- 有効

再生エラーを検出するとフィルターファイルを再生します。

次のスケジュールに移るとフィルターファイルの再生は停止し、スケジュールに従つたファイルを再生します。

- 無効 - (初期値)

フィルター再生を行いません。

- **フィルターファイル - (初期値:設定値なし)**

再生エラーを検出した場合に再生する、フィルターファイルの URL またはファイルパスを設定します。ファイルパスの場合は、[デフォルトドライブ](#)で指定したドライブのトップ階層からの相対パスで指定します。SD カードの content フォルダ下にある sample.m2p を指定する場合、[デフォルトドライブ]を[SD カード]に設定した上で[content/sample.m2p]と指定します。[デフォルトドライブ]の設定に関わらずコンテンツを指定する場合は、[/drives/(ドライブ名)/]から始まる絶対パスを記述します。先ほどの例では[/drives/SD/content/sample.m2p]と指定します。各ドライブのドライブ名は次の通りです。

- 内蔵 HDD : internal_HDD
- USB1 : USB1
- USB2 : USB2
- SD カード : SD
- ネットワークドライブ : network

フィルターファイルにはスケジュール以外の任意のコンテンツ(動画、オーディオ、静止画、HTML、テロップ)を指定できます。

右の … をクリックして、接続されているドライブに格納されているファイル一覧からファイルを選択することも可能です。

- **スケジュールのオフセット (複数台同期再生が無効時)**

DCM で作成したスケジュールに対して、再生やコマンドの実行タイミングを調整するための設定です。

スケジュールした時刻よりも早めに行いたい場合はマイナス、遅めに実行したい場合はプラスの値を -3600000~3600000 (ミリ秒)の範囲で指定します。

※スケジュールの実行時刻をミリ秒の精度で保証するものではありません。

※複数台同期再生が有効の場合は設定が反映されません(0として動作します)。

- 再生 - (初期値:0)
コンテンツの再生開始、停止時刻についてのオフセット。
- シリアル出力 - (初期値:0)
スケジュールコマンドの実行時刻についてのオフセット。
- 音量変更 - (初期値:0)
音量変更コマンドの実行時刻についてのオフセット。
- モニター電源 - (初期値:0)
モニター電源制御コマンドの実行時刻についてのオフセット。
- チャンネル変更 - (初期値:0)
チャンネル変更コマンドの実行時刻についてのオフセット。

IX-4-7-9. SMIL

- **コンテンツのエラーで再生を停止する**

- 有効
SMIL(DCM のプレイリスト)の再生中にエラーが発生すると再生を停止します。(スケジュール再生中だった場合)スケジュールの設定でフィルター再生が有効ならばフィルターが再生されます。
- 無効 - (初期値)
コンテンツのエラーを無視して SMIL の再生を継続します。

- **コンテンツのエラー時にリトライする**

- 有効 - (初期値)
(コンテンツのエラーで再生を停止しない設定の場合)エラーが発生したコンテンツの再生をリトライします。
- 無効

- **リトライする間隔 - (初期値:10)**

エラーが発生したコンテンツの再生をリトライする間隔(秒)を設定します。

- **レイアウトの変更をチェックする**

- 有効 - (初期値)
別の SMIL を再生する前にレイアウト変更の有無をチェックします。レイアウトが変更されている場合、切り替えの間に黒が挿入されます。
- 無効

レイアウト変更の有無をチェックせずに次のコンテンツを再生します。切り替え時に黒は挿入されませんが、切り替えの際に前のコンテンツの一部が混じった絵が表示されることがあります。

IX-4-7-10. フォルダ再生

コンテンツとしてフォルダが指定された場合の再生方法を設定します。

- **サブフォルダも再生する**
 - 有効 — (初期値)
サブフォルダ内のコンテンツも再生されます。
 - 無効
指定されたフォルダ直下のコンテンツのみ再生されます。
- **再生する順序**
 - ファイル名の昇順 — (初期値)
 - ファイル名の降順
- **再生するファイル数の上限** — (初期値:0)
フォルダ内のコンテンツファイルを「再生する順序」に従ってソートして、先頭から指定された数だけを再生対象にします。0 が指定された場合は、すべてのコンテンツファイルを対象とします。
- **再生対象コンテンツ** — (初期値:テロップ以外のコンテンツにチェック)
再生するコンテンツにチェックをいれます。
- **静止画表示時間** — (初期値:5)
静止画を再生する場合の表示時間(秒)を指定します。
- **HTML 表示時間** — (初期値:5)
HTML を再生する場合の表示時間(秒)を指定します。
- **挿入時に自動再生するドライブ** — (初期値:なし)
リムーバブルドライブ(SD カード(**MEDIAEDGE Decoder のみ**)または USB ストレージ)が挿入された際に、そのドライブのルートフォルダを自動的に再生したい場合は、ドライブにチェックをいれます。

IX-4-7-11. RTSP リダイレクト

外部からの再生制御(RTSP リダイレクト)を有効にします。RTSP サーバーには認証がないため使用しない場合には無効にしておくことを推奨します。

- 有効 — (初期値)
- 無効

IX-4-7-12. ストリーミング

ストリーミング再生の設定を行います。 → [ストリーミング](#)

- **ストリームが途絶えた時の表示**

ストリーミングでパケットロスやその他の状況でストリームが途絶えたときに、画面を消す(OSD 背景色)か、再生した最終フレームを表示し続けるかを設定します。

ストリームが再開したり、キープアライブにより再接続したりすると直後から再生が再開します。

- OSD 背景色 — (初期値)
- 最終フレーム

- **FEC (Forward Error Correction)**

FEC が有効になっている場合、サーバーで設定した FEC モードにしたがって、欠落した RTP パケットが自動的に修復されます。通常は有効でご使用ください。

- 有効 — (初期値)
- 無効

- **キープアライブ**

MEDIAEDGE Server や MEDIAEDGE LEB のストリーミング再生中に RTSP セッションがなくなった場合(MEDIAEDGE Server や MEDIAEDGE LEB を再起動した場合など)、ストリーミングサーバーに自動的に再接続します。通常は有効でご使用ください。

- 有効 — (初期値)
- 無効

- 間隔 — (初期値:60 秒)
 - ◇ キープアライブの間隔を指定します
通常は初期値でご使用ください。
- RTSP GET_PARAMETER を使用 — (初期値:使用しない)
 - ◇ キープアライブの通信のために RTSP GET_PARAMETER を使用します。
チェックを外すと RTSP SET_PARAMETER を使用します。

- **エラー時のリトライ**

ストリーミングサーバーがエラーを返した場合、成功するまで再接続を行います。

- 有効
- 無効 — (初期値)

- **バッファリング時間** — (初期値:0 ミリ秒)

受信したストリームを内部でバッファリングする時間を 0~5000 ミリ秒の範囲で設定します。初期値は 0 ミリ秒ですが、0 ミリ秒に設定した場合でも動作上必要な最低限のバッファリングは行います。

| |
|--|
| <p>クローズドキャプション有効時(SDI 出力が有効または表示モードがモニターまたは OSD のとき)は、クローズドキャプション無効時よりもバッファリングが多く必要となります。そのため本設定に関わらずバッファリング時間が増加し、再生遅延が発生します。</p> |
|--|

- **バッファ安定モード**

- 安定優先 — (初期値)
映像の品質を優先します。
バッファリング時間(遅延)が設定値より増加する場合があります。

- 低遅延優先
低遅延性能を優先します。
ネットワークパケットのジッターにより映像にノイズが発生しやすくなります。
- **RTP over RTSP**
ストリーミングサーバーが対応している場合に、RTP over RTSP を使用します。
 - 有効
 - 無効 — (初期値)
- **ストリームが途絶えた場合に再接続** — (初期値:60 秒)
一定時間ストリームが途絶えた場合に、ストリーミングサーバーに自動的に再接続します。ストリーミングサーバー側が何らかの原因で配信を停止した場合などに再生が復帰します。0 を指定すると無効になります。
- **遅延の上限** — (初期値:300 ミリ秒)
ストリーミングサーバーの配信速度等が原因で内部のバッファリング時間(再生遅延)が増加した場合に、補正処理を行う閾値をミリ秒単位で設定します。0 を指定すると無効になります。

以下の設定は「詳細設定を表示...」をクリックすると表示されます。

- **RTSP による強制 RTP マルチキャスト**
RTSP により RTP マルチキャストへの切り替えがサポートされている IP カメラの場合、強制的に RTP マルチキャストによる配信を行います。
有効に設定しても IP カメラによっては動作しないことがあります。
 - 有効
 - 無効 — (初期値)
- **RTSP Accept-Ranges**
AXIS 製の IP カメラが再生できない場合、本設定を無効に設定すると再生できる場合があります。
 - 有効 — (初期値)
 - 無効

IX-4-7-13. クローズドキャプション

クローズドキャプションの設定を行います。

- **SDI 出力 (MEDIAEDGE Decoder EX のみ)**
クローズドキャプション信号(CEA-608/CEA-708)を SDI 出力に重畳するかを設定します。
 - 有効
 - 無効 — (初期値)
- **表示モード**
クローズドキャプションの表示についての設定を行います。コンポジット出力をクローズドキャプション対応モニターで視聴される場合は[モニター]を選択してください。HDMI 出力、またはクローズドキャプション非対応のモニターで視聴される場合は[OSD]を選択してください。

- オフ — (初期値)
- モニター
- OSD

ご注意

クローズドキャプションの表示については制限があります。「■ 制限事項」をご参照ください。

■ IX-4-8. シリアル

IX-4-8-1. シリアルポート機能

MEDIAEDGE Decoder のシリアルポートの使用方法やパラメーターを選択します。

- **シリアルポート機能**
 - リモートシリアル
リモートシリアルモードで使用します。
 - スケジュールコマンド
スケジュールファイルに記述したシリアルコマンドを、スケジュールにしたがって出力します。
 - シリアル制御
シリアル制御モードで使用します。
 - 無効 — (初期値)
シリアルポートを使用しません。
- **通信パラメーター**

以下の通信パラメーターを接続する機器に合わせて設定します。

 - 通信速度
 - データビット長
 - パリティ
 - ストップビット長
 - フロー制御

IX-4-8-2. リモートシリアル

- **接続モード**

ネットワーク上の中継先との接続方法を指定します。

 - 連動(ストリームサーバー) — (初期値)
ストリーミング再生中の MEDIAEDGE Server や MEDIAEDGE LEB などに接続します(TCP 接続のみ)。ストリーミング再生を停止すると接続が切断されます。
 - 固定接続
起動時に[接続先]に設定したアドレスのサーバーと接続します。
 - サーバー動作
ホストコンピューターからの接続を待ち受け、サーバーとして動作します(TCP 接続のみ)。

● 接続パラメータ

以下の接続パラメータをリモート接続する機器に合わせて設定します。

- 接続先ポート番号 - (初期値:60001)
シリアルポートから入力した通信をネットワークへ送信するためのポート番号を指定します。
- 待機ポート番号 - (初期値:60001)
シリアルポートへ出力する通信をネットワークから受信するためのポート番号を指定します。
ポート番号は任意ですが、他の通信で使用している番号と同じ番号は使用できません。
- プロトコル
接続モードが固定接続の場合のみ選択できます。接続先が使用するプロトコルと同じ値を設定します。
 - ◇ TCP
 - ◇ UDP - (初期値)

IX-4-8-3. シリアルログ出力

リモートシリアルでの通信をログに出力するかを設定します。

- 有効
シリアル通信の内容を動作ログに出力します。
- 無効 - (初期値)
シリアル通信の内容は動作ログに出力しません。
異常などがあつた場合には、[無効]に設定されていてもエラーログには出力される場合があります。

■ IX-4-9. USB PIO

接点入出力装置に接続された各接点の ON/OFF に対して再生制御機能の割り当ての設定を行います。

別途下記の USB 接点入出力装置が必要となります。

対応 USB 接点入出力装置

システムサコム USB-PIO 8/16-BX-FT

● 動作

各ポートの IO(Low/High)に対して以下から割り当てる動作を選択します。

- **PLAY**
再生を開始します。追加で URL の入力が必要となります。
- **STOP**
再生を停止します。
- **PAUSE**

再生を中断します。

➤ **RESUME**

再生を中断位置から再開します。

➤ **Channel**

チャンネル再生を開始します。追加でチャンネル番号の入力が必要となります。

➤ **Volume**

ボリューム(音量)の変更をします。追加でボリューム値の入力が必要となります。

➤ **KEY**

リモコンキーを受信したときと同じ動作を実行します。キー名と押下状態(press/release)が必要となります。

● **URL / チャンネル番号 / ボリューム / リモコンキー**

動作でPLAY、Channel、Volumeを選択した場合の追加設定を行います。

➤ **PLAY** の場合、URL もしくはファイルパスを指定します。

URL、ファイルパスの指定方法については■ IX-4-5 [チャンネルモード](#)をご参照ください。

右の … をクリックして、接続されているドライブに格納されているフォルダー一覧からフォルダーを選択することも可能です。

➤ **Channel** の場合、チャンネル番号(0~999)を指定します。

ホームチャンネルの場合は0を指定します。

➤ **Volume** の場合、ボリューム(音量)値を指定します。

音量を (設定値-50) [dB] にして出力します。

例) 左の値を 30、右の値を 40 に設定する場合、

| |
|-------|
| 30,40 |
|-------|

と入力します。

➤ **KEY** の場合、キー名と押下状態(press/release)の組み合わせから選択します。

■ IX-4-10. ビデオ

IX-4-10-1. HDMI (MEDIAEDGE Decoder HDMI モデルのみ)

HDMI に出力するビデオ信号の設定を行います。

● **表示モード**

➤ **Auto** — (初期値)

TV モニターに最適な表示モードを選択します。

➤ **Off**

HDMI への信号出力を停止します。

➤ **モードを設定**

Auto 以外を選択した場合は、選択したモードで表示を行います。選択した表示モードをサポートしていないモニターを接続すると、自動的に表示可能なモードで表示します。

- 固定解像度モード – (初期値:無効)
チェックを入れるとTVモニターが対応する解像度にかかわらず、設定した表示モードでHDMI信号を出力します。

ご注意

固定解像度モードを有効にするとCECによるTVモニターの電源制御は無効になります。

● 色空間

- RGB
- YCbCr – (初期値)
通常の場合にはYCbCrで使用ください。一部のコンテンツでは、コンテンツ作成のパラメータにより再生時と再生停止時に明るさなどが異なる場合にRGBに設定します。

● RGB出力レンジ

- 16-235 – (初期値)
通常のTVと接続する場合に、色空間はRGBのフルレンジの0-255ではなく16-235を使用します。
- 0-255
CGで作成したデータなどの一部に色空間が0-255で作成されたものがあります。このような映像を16-235で表示すると黒の部分が少し明るく、白の部分が少し暗く表示されます。この場合にはRGB出力レンジを設定してください。この設定を変更する場合はモニターの仕様や設定を確認した上で行ってください。

● CEC

- 有効 – (初期値)
HDMI CECによるTVモニターとの通信を行います。TVモニターの電源制御などを行う場合は有効にします。
- 無効

ご注意

固定解像度モードを有効にするとCECによるTVモニターの電源制御は無効になります。

● オーディオサンプリング周波数48kHz固定 (MEDIAEDGE Decoder HDMIモデルのみ)

- 有効 – (初期値)
オーディオのサンプリング周波数を変換し、常に48kHzで出力します。
- 無効
コンテンツが持つサンプリング周波数で出力します。サンプリング周波数が異なるコンテンツが混在するとき、HDMIモニターによってはコンテンツの切り替え時にオーディオノイズが発生する場合に有効にします。

IX-4-10-2. SDI (MEDIAEDGE Decoder SDIモデルのみ)

SDIに出力するビデオ信号の設定を行います。

- **表示モード**
 - Off
SDI への信号出力を停止します。
 - モードを設定
選択したモードで表示を行います。

IX-4-10-3. 表示モード (HDMI / SDI) (MEDIAEDGE Decoder EX のみ)

HDMI および SDI に出力するビデオ信号の設定を行います。設定したモードのビデオ信号が出力されます。

- 1920x1080/59.94p — (初期値)
- 1920x1080/59.94i
- 1280x720/59.94p

IX-4-10-4. HDMI (MEDIAEDGE Decoder EX のみ)

- **HDMI モード**
 - 有効 (HDMI) — (初期値)
HDMI コネクタからの出力を HDMI モードで出力します。通常はこの設定でご使用ください。
 - 無効 (DVI)
HDMI コネクタからの出力を DVI モードで出力します。HDMI 入力に対応していない DVI モニターなどとの接続時はこの設定にします。
DVI モードでは
 - ◇ 色空間は RGB で出力されます。
 - ◇ 音声は出力されません。
- **色空間**
 - RGB
 - YCbCr — (初期値)
通常の場合には YCbCr でご使用ください。一部のコンテンツでは、コンテンツ作成のパラメーターにより再生時と再生停止時に明るさなどが異なる場合に RGB に設定します。
HDMI モードを無効(DVI)にすると、この設定にかかわらず RGB で出力されます。
- **RGB 出力レンジ**
 - 16-235 — (初期値)
通常の TV と接続する場合に、色空間は RGB のフルレンジの 0-255 ではなく 16-235 を使用します。
 - 0-255
CG で作成したデータなどの一部に色空間が 0-255 で作成されたものがあります。このような映像を 16-235 で表示すると黒の部分が少し明るく、白の部分が少し暗く表示されます。この場合には RGB 出力レンジを設定してください。この設定を変更する場合はモニターの仕様や

設定を確認した上で行ってください。

IX-4-10-5. 表示モード(コンポジット)

コンポジットに出力される信号のモードを NTSC(J)、NTSC(US)、PAL から選択します。

- NTSC(J) — (初期値)
NTSC 日本国内向け(セットアップレベル= 0IRE)に設定します。
- NTSC(US)
NTSC 北米向け(セットアップレベル=7.5IRE) に設定します。
- PAL (MEDIAEDGE Decoder のみ)
主にヨーロッパや中国で使用されているアナログ放送の規格です。

IX-4-10-6. OSD

- **背景色 (RRGGBB)** — (初期値:000000)
コンテンツの再生が停止している状態で表示される OSD の背景色を 16 進数で設定します。
000000 (黒) ~ FFFFFFFF (白)の範囲で指定します。

ご注意

本設定を 000000 (黒)以外で使用する場合は HDMI 表示モードの設定を Auto 以外に変更してください。

IX-4-10-7. SDI 入力 (MEDIAEDGE Decoder EX のみ)

本機能については [SDI 入力の背景表示](#)をご参照ください。

- **SDI 入力の背景表示**
 - 有効
本機が出力する再生映像の背景に SDI 入力映像を重ね合わせて表示します。
 - 無効 — (初期値)
本機が出力する再生映像の背景に SDI 入力映像を重ね合わせて表示しません。

ご注意

本設定を有効にすると、ビデオ出力信号は SDI 入力信号に同期するため、REF-IN 入力によるリファレンス信号には同期しません。

- **キーカラー (RRGGBB)** — (初期値:OSD 背景色と同じ)
SDI 入力映像を表示する際のキーカラーを 16 進数で設定します。本機が出力する再生映像のうち、キーカラーと一致した色の領域が SDI 入力映像に置き換わって表示されます。
000000 (黒) ~ FFFFFFFF (白)の範囲で指定します。
OSD 背景色と同じにチェックすると [OSD 背景色](#)と同色になります。

- **キーカラー許容量** — (初期値:1)
キーカラーとしてみなされる色の許容量を指定します。値が大きいほど色の許容量が大きくなり、SDI 入力映像に置き換わる領域が大きくなります。
- **SDI 入力の音声を使用する**
HDMI/SDI 出力端子から出力される音声について設定します。
 - 有効
SDI 入力に含まれる音声を出力します。
 - 無効 — (初期値)
ビデオやオーディオファイルに含まれる再生音声を出力します。

ご注意

AUDIO LINEOUT 出力、SPDIF 出力は本設定にかかわらず常にビデオやオーディオファイルに含まれる再生音声が出力されます。

IX-4-10-8. リファレンス入力終端抵抗 (MEDIAEDGE Decoder EX のみ)

REF-IN 端子の終端抵抗について設定します。

- 75Ω — (初期値)
終端抵抗(75Ω)を有効にします。通常はこの設定でご使用ください。
 - Open
終端抵抗(75Ω)を無効にします。REF-IN 端子間抵抗は開放状態となります。
信号発生器からの信号を分岐コネクタ等で分配して入力する場合は末端の 1 台を「75Ω」、その他を「Open」に設定すると最大 4 台までリファレンス信号を分配することができます。
- III-2-3 [ビデオ信号同期](#)もご参照ください。

IX-4-10-9. リファレンス入力位相 (MEDIAEDGE Decoder EX のみ)

リファレンス信号のビデオ出力との位相差を pixel 値で指定します。(設定範囲:-2475000~2475000、初期値:0)

- マイナスの値でリファレンス信号に対してビデオ出力が遅れ、プラスの値でビデオ出力が進みます。
ライン単位で変化させるには表示モードによって次の値を加減します。
 - 1920x1080/59.94p または 1920x1080/59.94i の場合は 2200
 - 1280x720/59.94p の場合は 1650
- 例)
- リファレンス信号に対してビデオ出力を 100 ピクセル分進めるとき
 - ◇ 100 を指定
 - 表示モード設定が 1920x1080/59.94p のとき、リファレンス信号に対してビデオ出力を 4 ライン分遅らせるとき
 - ◇ -8800 (= -2200 × 4 ライン) を指定

IX-4-10-10. 映像のクリッピング (MEDIAEDGE Decoder EX のみ、複数台同期再生が有効時)

HDMI および SDI 出力信号の上下左右を指定したピクセル数だけ切り取り、拡大して表示します。ベゼル補正などに使用できます。

※複数台同期再生が無効の場合は設定が反映されません(0として動作します)。

- 左端 — (初期値:0)
0~150(ピクセル)の範囲で設定します。
- 右端 — (初期値:0)
0~150(ピクセル)の範囲で設定します。
- 上端 — (初期値:0)
0~70(ピクセル)の範囲で設定します。
- 下端 — (初期値:0)
0~70(ピクセル)の範囲で設定します。

IX-5. 機器管理

■ IX-5-1. ストレージ管理 (HDD/SSD 内蔵モデルのみ)

ドライブ選択

フォーマットやエラーチェックを行うドライブの選択を行います(内蔵 HDD のみが選択できます)。

ドライブのステータスが "none" になっている場合、内蔵 HDD/SSD が正常に認識されていません。後述のドライブチェックまたはフォーマットを実行してください。

フォーマット

選択したドライブのフォーマットを行います。

フォーマットを実行すると、ドライブに記録したすべてのデータが削除されます。

ドライブチェック

選択したドライブのチェックと異常があった場合に修復を行います。

ドライブチェックを実行してもドライブの異常が修復されない場合には、フォーマットを行なってください。

ドライブの異常が修復されない場合は、当社カスタマーサポートまでご連絡ください。

■ IX-5-2. 再起動・シャットダウン

MEDIAEDGE Decoder の再起動およびシャットダウンを行います。

- ※ シャットダウンした MEDIAEDGE Decoder に接続すると、起動させるための画面が表示されます。



■ IX-5-3. 初期化

設定初期化

システムを工場出荷時の設定に戻します。設定を行う場合、[実行]ボタンをクリックしてください。再起動が必要な設定値を初期化する場合、MEDIAEDGE Decoder は自動的に再起動します。

ログ初期化

ログは装置内部の不揮発性のメモリに記録され電源を切っても保持されます(一定量より古いログは順次削除されます)。**[実行]**ボタンをクリックすると記録されている全てのログが初期化されます。

通常はログ初期化を行う必要はありません。

■ IX-5-4. 一括設定

[システム管理]→[情報の取得]画面で[設定値の取得]を実行して得られる設定値ファイルを編集して指定することで、設定値を一括して書き込むことができます。再起動が必要な設定値を書き換える場合、MEDIAEDGE Decoder は自動的に再起動します。

一括設定ファイル名の[ファイルの選択]をクリックし、一括設定ファイルを指定して**[実行]**ボタンを押してください。

■ IX-5-5. 日時設定

日時の設定を行います。

MEDIAEDGE Decoder のあるローカル時間を設定してください。

[更新]ボタンを押したタイミングで MEDIAEDGE Decoder の時計が更新されます。

タイムゾーンの設定は[基本設定](#)から行ってください。

NTP による時刻の自動設定を行なっている場合は、ネットワークで時刻は自動的に補正されます。NTP が使用できない環境では定期的に時刻の設定を行なってください。

[PC の時計に同期する]のチェックボックスをチェックすると操作している PC の時刻が自動的にセットされます。

タイムゾーンの設定に関係なく PC の時刻が設定されます。

■ IX-5-6. ファームウェア更新

ファームウェアの更新を行います。

[ファイルの選択]をクリックし、ファームウェアファイルを指定してください。

本体のファームウェアよりも古いバージョンのアップデートファイルを指定すると、ファームウェアの更新は行われません。以前のバージョンに戻す場合には[バージョンチェックを行わない。]のチェックボックスをチェックしてください、装置のバージョンにかかわらず強制的に更新を行います。

[更新]ボタンを押すとファームの更新が開始され、自動的に再起動します。

正しい MEDIAEDGE Decoder のアップデートファイル以外を指定すると、更新がエラーで終了します。

ファームウェアの更新中に電源を切らないでください。

万一、ファームウェア更新中に電源断等が発生し MEDIAEDGE Decoder が起動しなくなった場合には [メンテナンスモード](#) で復旧を行ってください。

■ IX-5-7. 情報の取得

設定値の取得

MEDIAEDGE Decoder の設定値をテキストファイルで取得します。

このファイルは設定値のバックアップや、一部を変更して Web コンソールの一括設定で使用します。

ログの取得

MEDIAEDGE Decoder のシステムログをファイル (ZIP 形式で圧縮されています) として取得します。

取得したログファイルは不具合などの解析のために使用します。不具合などのお問い合わせの際には取得したログファイルを当社カスタマーサポートまでお送りください。

■ IX-5-8. ユーザー名・パスワード変更

ユーザー名・パスワードを変更します。変更を行う場合、ユーザー名とパスワードを入力し、[設定]ボタンをクリックしてください。

ここで設定したユーザー名とパスワードは Web コンソールへのログインで使用します。

| | |
|------------|----------------------|
| 新ユーザー名 | 新たに登録するユーザー名を入力します。 |
| 新パスワード | 新たに登録するパスワードを入力します。 |
| 新パスワードの再入力 | 新たに登録するパスワードを再入力します。 |

初期値

ユーザー名の初期値は[admin]に、パスワードは設定されていません。

IX-6. ソフトウェアライセンス表示

■ IX-6-1. オープンソースソフトウェア一覧

MEDIAEDGE Decoder で使用しているオープンソースソフトウェアの一覧と、それぞれのソフトウェアのライセンス情報を表示します。

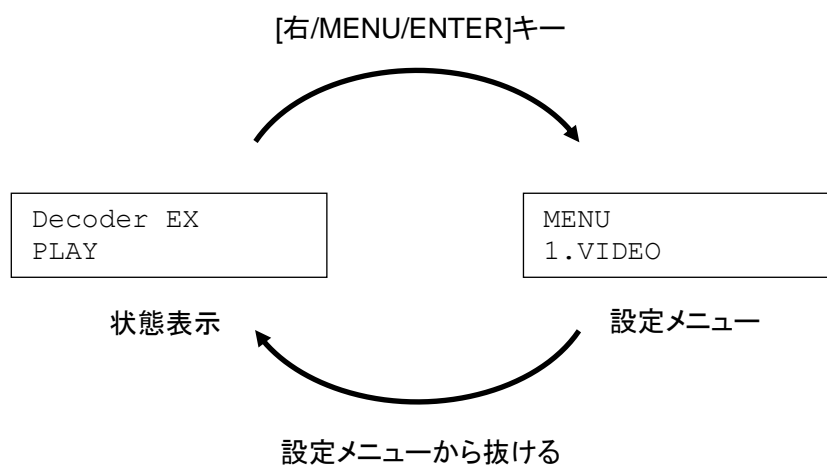
X. フロントパネル

この章では MEDIAEDGE Decoder EX のフロントパネルの表示および設定方法について説明します。

X-1. フロントパネルについて

MEDIAEDGE Decoder EX のフロントパネルには液晶画面およびスイッチが搭載されており、次の機能があります。





- 状態表示
MEDIAEDGE Decoder EX の現在の状態を表示します。本機起動直後はこのモードになっています。表示する状態は設定により[ステータス]/[IP アドレス]/[日時と時刻]から選択可能です。
- 設定メニュー
状態表示中に[右/MENU/ENTER]キーを押すと設定メニューに入り、本機の設定の表示、変更を行うことができます。



X-2. 設定メニュー

■ X-2-1. 操作

設定メニューでは次の操作が可能です。

| キー | 説明 |
|---|--|
|  [右/MENU/ENTER]キー | 状態表示中に押すと設定メニューに入ります。 サブメニューへの移動や設定値を確定する場合に押します。 IP アドレスや日時の設定の場合は次の桁にカーソルが移動します。 |
|  [左/CANCEL キー] | メニューの一つ前の階層に戻る場合や操作をキャンセルする場合に押します。 IP アドレスや日時の設定の場合は前の桁にカーソルが移動します。 設定メニューの最上位階層で押すと(設定保存が不要の場合)、設定メニューを抜け、状態表示に戻ります。 |
|  [上]キー | メニューや設定値を選択する場合に押します。 |
|  [下]キー | IP アドレスや日時の設定の場合は数字を+1([上]キー)または-1([下]キー)します。 |
| [F1], [F2]キー | 使用しません。 |

■ X-2-2. 設定の反映について

設定メニューで設定を変更した場合、設定の保存を行うまでは設定の変更内容が反映されません。メニューの最上位階層で[左/CANCEL]キーを押すと設定の保存を確認する画面が表示されます。

```
Save config ?  
[ Yes      ↓ ]
```

[Yes]を[上]/[下]キーで選択し[右/MENU/ENTER]キーを押すと設定が本体に保存されます。設定の反映に再起動が必要な場合、自動的に再起動します。

[No]を[上]/[下]キーで選択し[右/MENU/ENTER]キーを押すと変更を行った全ての設定が破棄され、設定メニューを終了します。

■ X-2-3. メニュー項目

設定メニューには次の項目があります。

| | | |
|------------|--|---|
| 1. VIDEO | 1. HDMI/SDI out <ul style="list-style-type: none"> ➤ 1920x1080/59p ➤ 1920x1080/59i ➤ 1280x720/59p | |
| | 2. HDMI mode <ul style="list-style-type: none"> ➤ HDMI ➤ DVI | Color space <ul style="list-style-type: none"> ➤ RGB ➤ YCbCr |
| | 3. RGB range <ul style="list-style-type: none"> ➤ 16-235 ➤ 0-255 | |
| | 4. Composite out <ul style="list-style-type: none"> ➤ NTSC(J) ➤ NTSC(US) | |
| | 5. Ref terminator <ul style="list-style-type: none"> ➤ 75 ohm ➤ Open | |
| 2. NETWORK | 1. IPv6 <ul style="list-style-type: none"> ➤ Enable ➤ Disable | |
| | 2. IPv4 <ul style="list-style-type: none"> ➤ DHCP ➤ AutoIP ➤ Manual | Manual setting <ul style="list-style-type: none"> ➤ IP address ➤ Subnet mask ➤ Gateway |
| | 3. DNS config <ul style="list-style-type: none"> ➤ DHCP ➤ Manual | Manual setting <ul style="list-style-type: none"> ➤ Preferred DNS ➤ Alternate DNS |
| 3. SYSTEM | 1. Date | |

| | | |
|----------------|--|-----------|
| | 2. Remote | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ➤ Enable ➤ Disable | Remote ID |
| | 3. LCD info | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ➤ Status ➤ IP address ➤ Date | |
| 4. INFORMATION | | |
| 5. SHUTDOWN | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ➤ Power off ➤ Reboot | |

フロントパネルの設定メニューで設定できない項目は [Web コンソール](#) で設定を行ってください。

■ X-2-4. VIDEO

X-2-4-1. HDMI/SDI out

HDMI および SDI に出力するビデオ信号の設定を行います。設定したモードのビデオ信号が出力されま

す。

- 1920x1080/59p — (初期値)
- 1920x1080/59i
- 1280x720/59p

X-2-4-2. HDMI mode

- HDMI — (初期値)
HDMI コネクタからの出力を HDMI モードで出力します。通常はこの設定でご使用ください。
- DVI
HDMI コネクタからの出力を DVI モードで出力します。HDMI 入力に対応していない DVI モニターなどとの接続時はこの設定にします。
DVI モードでは
 - ◇ 色空間は RGB で出力されます。
 - ◇ 音声は出力されません。

X-2-4-3. Color space

[HDMI mode](#) を HDMI に設定したときに表示されます。

- RGB
- YCbCr — (初期値)

通常の場合には YCbCr でご使用ください。一部のコンテンツでは、コンテンツ作成のパラメーターにより再生時と再生停止時に明るさなどが異なる場合に RGB に設定します。

HDMI モードを無効(DVI)にすると、この設定にかかわらず RGB で出力されます。

X-2-4-4. RGB range

- 16-235 — (初期値)

通常の TV と接続する場合に、色空間は RGB のフルレンジの 0-255 ではなく 16-235 を使用します。

- 0-255

CG で作成したデータなどの一部に色空間が 0-255 で作成されたものがあります。こうしたデータを 16-235 で表示すると黒の部分が少し明るく、白の部分が少し暗く表示されます。

こうしたデータを使用する場合には RGB 出力レンジを設定してください。この設定を変更する場合はモニターの仕様や設定を確認した上で行ってください。

X-2-4-5. Composite out

コンポジットに出力される信号のモードを設定します。

- NTSC(J) — (初期値)

NTSC 日本国内向け(セットアップレベル= 0IRE)に設定します。

- NTSC(US)

NTSC 北米向け(セットアップレベル=7.5IRE)に設定します。

X-2-4-6. Ref terminator

REF-IN 端子の終端抵抗について設定します。

- 75 ohm — (初期値)

終端抵抗(75Ω)を有効にします。通常はこの設定でご使用ください。

- Open

終端抵抗(75Ω)を無効にします。REF-IN 端子間抵抗は開放状態となります。

リファレンス信号源からの信号を分岐コネクタ等で分配して入力する場合は末端の 1 台を「75Ω」、その他を「Open」に設定すると最大 4 台までリファレンス信号を分配することができます。

■ III-2-3 [ビデオ信号同期](#)もご参照ください。

X-2-5-1. IPv6

IPv6 の有効、無効を設定します。通常は有効にしておき、IPv6 を有効にして問題がある環境のみで無効にしてください。

- Enable — (初期値)
IPv6 を使用します。IPv6 のアドレスは DHCPv6 が有効であれば DHCPv6 から、ネットワーク上に DHCPv6 が存在しなければ自動的に設定します。
- Disable
IPv6 を使用しません。

X-2-5-2. IPv4

IP アドレスの取得方法を設定します。

- DHCP — (初期値)
IP アドレスを DHCP サーバーから取得します。割り振られる IP アドレスは DHCP の設定によります。DHCP サーバーから取得できるまでは IP アドレスは割り振られません。
- AutoIP
AutoIP を使用して自動的に IP アドレスを割り振ります。AutoIP の範囲内 (169.254/16) で自動生成されます。
- Manual
使用する IP アドレスを手動で設定します。設定値については、ネットワーク管理者に確認してください。

X-2-5-3. Manual setting

[IPv4](#) を Manual に設定したときに表示されます。

- IP address
IP アドレスを設定します。
- Subnet mask
サブネットマスクを設定します。
- Gateway
デフォルトゲートウェイを設定します。

| |
|---------------------------------------|
| IP address <u>0</u> 00.000.000.000 |
|---------------------------------------|

| |
|--|
| Subnet mask <u>2</u> 55.255.255.000 |
|--|

| |
|------------------------------------|
| Gateway <u>0</u> 00.000.000.000 |
|------------------------------------|

いずれも[上]/[下]キーで数字が送られ、[右/MENU/ENTER]キーで次の項目に、[左/CANCEL]キーで前の項目に戻ります。カーソルが一番左にある状態で[左/CANCEL]キーを押すと設定がキャンセルされ、一番右にある状態で[右/MENU/ENTER]キーを押すと確定されます。

X-2-5-4. DNS config

DNS サーバーを設定します。

- DHCP — (初期値)
DHCP サーバーから自動的に DNS サーバーアドレスを取得します。
- Manual
使用する DNS サーバーを設定します。設定値については、ネットワーク管理者に確認してください。

X-2-5-5. Manual setting

[DNS config](#) を Manual に設定したときに表示されます。

- Preferred DNS
優先する DNS サーバーを指定します。

| |
|----------------------------------|
| Preferred DNS 000.000.000.000 |
|----------------------------------|
- Alternate DNS
優先 DNS サーバーからレスポンスが返らなかった場合に使用する、代替 DNS サーバー指定します。

| |
|----------------------------------|
| Alternate DNS 000.000.000.000 |
|----------------------------------|

いずれも[上]/[下]キーで数字が送られ、[右/MENU/ENTER]キーで次の項目に、[左/CANCEL]キーで前の項目に戻ります。カーソルが一番左にある状態で[左/CANCEL]キーを押すと設定がキャンセルされ、一番右にある状態で[右/MENU/ENTER]キーを押すと確定されます。

■ X-2-6. SYSTEM

X-2-6-1. Date

内蔵時計の日付と時刻を設定します。

| |
|--------------------------|
| Date 2017/07/01 12:00 |
|--------------------------|

[上]/[下]キーで数字が送られ、[右/MENU/ENTER]キーで次の項目に、[左/CANCEL]キーで前の項目に戻ります。カーソルが一番左にある状態で[左/CANCEL]キーを押すと設定がキャンセルされ、一番右にある状態で[右/MENU/ENTER]キーを押すと確定されます。

X-2-6-2. Remote

リモコンの有効/無効を設定します。

- Enable — (初期値)
- Disable
リモコンを使用しません。

X-2-6-3. Remote ID

[Remote](#) が Enable に設定したときに表示されます。

0~4 または b0~b15 から設定します。

複数の MEDIAEDGE Decoder を個別にリモコンで操作する場合などに、対応する[リモコン ID](#)を設定します。

X-2-6-4. LCD info

通常動作中に液晶画面に表示する情報(状態表示)を設定します。

➤ Status — (初期値)

機種名およびメインウィンドウのコンテンツの再生状態を表示します。

```
Decoder EX  
PLAY
```

◇ STOP.....停止中

◇ LOAD.....再生のための準備中(接続中やデータ展開中など)

◇ PLAY再生中

◇ PAUSE.....一時停止中

➤ IP address

機種名および本機の IPv4 アドレスを表示します。

```
Decoder EX  
192.168.0.20
```

➤ Date

機種名および現在日時を表示します。

```
Decoder EX  
2017/07/01 12:00
```

■ X-2-7. INFORMATION

MEDIAEDGE Decoder EX の現在の状態を表示します。以下の項目が表示できます。

[上]/[下]キーで項目を切り替えることができ、[右/MENU/ENTER]/[左/CANCEL]キーで設定メニュー表示に戻ります。

➤ ファームウェアバージョン

➤ MAC address (有線 MAC アドレス)

➤ IPv6 address

◇ IPv6 アドレスが複数割り当てられている場合はすべて表示されます。

◇ IPv6 が無効の場合は表示されません。

➤ IPv4 address

➤ Subnet mask

➤ Gateway

➤ Preferred DNS

➤ Alternate DNS

➤ Host name

■ X-2-8. SHUTDOWN

MEDIAEDGE Decoder EX をシャットダウンまたは再起動します。

- Power off
MEDIAEDGE Decoder EX をシャットダウンします。
- Reboot
MEDIAEDGE Decoder EX を再起動します。

Power off または Reboot を選択して[右/MENU/ENTER]キーを押すと右のような画面が表示されます。

```
<MENU> Power off  
<CANCEL> Exit
```

- ※ 設定値が変更されている場合は設定の保存を確認する画面が表示されます。■ X-2-2 [設定の反映について](#)をご参照ください。

さらに[右/MENU/ENTER]キーを押すとシャットダウンまたは再起動が実行されます。

[左/CANCEL]キーを押すと動作がキャンセルされ状態表示モードに戻ります。

- シャットダウンすると電源ランプが橙色点灯状態になり、液晶画面には何も表示されなくなります。
- シャットダウン状態でフロントパネルの[右/MENU/ENTER]キーを 5 秒以上長押しするとシステムが起動します。■ IV-1-1 [起動とシャットダウン](#)をご参照ください。

XI. Appendix

XI-1. 更新制御スクリプト

■ XI-1-1. 概要

SD カードや USB ストレージに更新すべきファイルと更新制御スクリプトを入れておき、MEDIAEDGE Decoder に接続することで、コンテンツやファームウェアの更新、設定値の更新を行うことができます。ルートフォルダーに update.inst または [ホスト名].update.inst という名称のファイルが存在すると更新制御スクリプトとして認識します。(ホスト名は初期値では「DEC-xxxxxx」のように、MAC アドレスから自動的に生成された名称です。)

■ XI-1-2. 書式

1 行目には #!UPDATE と記述します。この行があることで更新制御スクリプトと認識します。

2 行目以降にはコマンドを指定します。コマンドを複数指定できます。

指定可能なコマンドを以下に示します。

| コマンド | 説明 |
|--------------|------------------------------|
| add_contents | コンテンツをデフォルトドライブにコピーする |
| update_firm | ファームウェアを更新する |
| set_config | 設定値を更新する |
| save_log | システムログをファイル (ZIP 形式) として保存する |

XI-1-2-1. add_contents

```
add_contents [-b] [-d] フォルダ-1 [フォルダ-2]
```

- コンテンツをデフォルトドライブにコピーします。
- [更新元ドライブ]¥[フォルダ-1]の下にあるファイルを、[デフォルトドライブ]¥MEDIAEDGE¥[フォルダ-2] に上書きコピーします。[フォルダ-2] を省略すると[デフォルトドライブ]¥MEDIAEDGE に上書きコピーします。
- [フォルダ-1]に . (ドット) を指定すると、[更新元ドライブ]のルートフォルダー以下にあるファイルを [デフォルトドライブ]¥MEDIAEDGE¥[フォルダ-2]に上書きコピーします。
- デフォルトではコンテンツを更新する前にコンテンツの再生を停止しますが、-b オプションが指定された場合は、再生を継続したままコンテンツを更新します。
- -d オプション(省略可能)が指定された場合は、[デフォルトドライブ]¥MEDIAEDGE¥[フォルダ-2] 以下にあって[更新元ドライブ]¥[フォルダ-1] にないファイルを先に削除してから上書きコピーを行います。

XI-1-2-2. update_firm

```
update_firm [-f] ファームウェアファイル
```

- ファームウェアを更新します。[ファームウェアファイル]が現在のファームウェアバージョンよりも新しい場合のみ更新します。
- -f オプションが指定された場合は現在のファームウェアバージョンと異なる場合更新します。(バージョンダウンする場合)

XI-1-2-3. set_config

```
set_config 設定値ファイル
```

- [設定値ファイル]をもとに設定値を更新します。
- [設定値ファイル]は Web コンソールの[情報の取得](#)ページの設定値の取得を実行することで取得できます。

XI-1-2-4. save_log

```
save_log
```

- Web コンソールの[ログの取得](#)と同様のシステムログファイル(ZIP 形式で圧縮されています)を SD カード/USB ストレージのルートフォルダーに保存します。

■ XI-1-3. 記述例

SD カード/USB ストレージの¥newcontents フォルダーを MEDIAEDGE Decoder のデフォルトドライブの MEDIAEDGE フォルダー以下にコピーします。

```
#!UPDATE  
add_contents newcontents
```


ファームウェアファイル decoder.x.x.x.system でファームウェアを更新した後、設定値を settings.txt で更新します。

```
#!UPDATE  
update_firm decoder.x.x.x.system  
set_config settings.txt
```

XI-2. ファームウェアの更新

■ XI-2-1. Web ブラウザーによるアップデート

- [1] MEDIAEDGE Decoder と接続する PC にファームウェア更新ファイルをコピーします。
- [2] Web ブラウザーを使用し、MEDIAEDGE Decoder の Web コンソールに接続します。
- [3] ファームウェアの更新を選び、ファイルを指定して更新を行います。
 - ※ 現在より古いファームウェアに更新する場合は[バージョンチェックを行わない。]にチェックを付けてください。
- [4] 更新完了後、MEDIAEDGE Decoder は自動的に再起動します。

■ XI-2-2. SD カード/USB ストレージによるアップデート

- [1] SD カード/USB ストレージのルートフォルダーに[更新制御スクリプト](#) (update.inst) とファームウェア更新ファイル(decoder.x.x.x.system)を入れます。

※ update.inst にはあらかじめテキストエディタ等で

```
#!UPDATE  
update_firm decoder.x.x.x.system ←実際のファームウェア更新ファイル名
```

を記述しておきます。

現在より古いファームウェアに更新する場合は -f オプションを指定します。

```
update_firm -f decoder.x.x.x.system
```

- [2] SD カード/USB ストレージを MEDIAEDGE Decoder に接続します。
- [3] 現在より新しいファームウェアの場合はアップデートを行います。
- [4] 更新完了後、MEDIAEDGE Decoder は自動的に再起動します。

ご注意

電源ランプが橙色点滅しているときはファームウェアの更新中です。このときは絶対に MEDIAEDGE Decoder の電源を切らないでください。

XI-3. メンテナンスモード

■ XI-3-1. メンテナンスモードについて

MEDIAEDGE Decoder のメンテナンスモードは、ファームウェア更新に失敗し、本装置が起動しなくなったような場合、もしくは[ユーザー名・パスワードの変更]画面で変更したユーザー名やパスワードを忘れてしまった場合の緊急復旧用プログラムです。

メンテナンスモードには以下の機能があります。

- USB ストレージや SD カードからのファームウェア更新
- ネットワーク経由でファームウェア更新
- Ping コマンド送信
- ハードウェア情報表示
- 工場出荷時の設定に戻す機能

■ XI-3-2. 接続と起動

接続

MEDIAEDGE Decoder の COM(シリアル)ポートに PC を接続し、ターミナル通信ソフトを起動してください。

通信パラメーターの設定は次の通りです；

| | |
|-----------|-----------|
| ボーレート: | 115200bps |
| データビット長: | 8ビット |
| ストップビット長: | 1ビット |
| パリティ: | なし |
| フロー制御: | なし |

メンテナンスモードの起動

電源が接続されている状態で、前面のリセットスイッチを 5 秒以上押してください。しばらくするとターミナル通信ソフトの画面にメンテナンスモードのトップメニューが表示されます。

```
+----- Maintenance mode TOP MENU -----+
| 1: IPv4 address setup                       |
| 2: Firmware update from a USB/SD drive     |
| 3: Firmware download via HTTP/FTP          |
| 4: Ping (Sending ICMP echo requests)       |
| 5: Restore to factory settings             |
| 6: Display hardware info                   |
| 0: Restart                                 |
+-----+
Select Command ->
```

1～6, 0 に続いて ENTER を入力することで、それぞれのコマンドを実行できます。

■ XI-3-3. 操作

IP アドレス設定 (IPv4 address setup)

ネットワーク経由でのファームウェア更新機能、および Ping コマンドを使用するにはあらかじめ MEDIAEDGE Decoder の IP アドレスを設定しておく必要があります。

1. Use DHCP

MEDIAEDGE Decoder の IP アドレス設定を DHCP により自動で行います。

2. Manual setup

MEDIAEDGE Decoder の IP アドレス設定をマニュアルで行います。

1 または 2 を選択し、IP アドレスを設定します。

ここで行った IP アドレス設定は本体に保存されず、メンテナンスモード終了時に破棄されます。

ENTER のみ入力するとトップメニュー画面へ戻ります。

正常に設定が完了した場合は IP アドレスを表示します。

USB ストレージや SD カードからのファームウェア更新 (Firmware update from a USB/SD drive)

USB 端子に USB ストレージ(USB メモリ、USB HDD 等)または SD カードを挿入後、ファームウェアファイル名を入力するとファームウェアの更新を開始します。

'*'を入力すると接続した USB ストレージ内のファイル一覧(拡張子.system のファイル)を表示します。

ENTER のみ入力するとトップメニュー画面へ戻ります。

HTTP/FTP クライアント機能によるファームウェア更新 (Firmware download via HTTP/FTP)

HTTP/FTP サーバーからファームウェアをダウンロードするには URL 入力画面でファームウェアのパスを指定します。

例):

FTP サーバー: mediaedge-svr

FTP でログインするフォルダー: C:¥temp¥ftpwork

ファームウェアの絶対パス: C:¥temp¥ftpwork¥firm¥decoder.x.x.x.system

→入力する URL:

ftp://mediaedge-svr/firm/decoder.x.x.x.system

ダウンロードが完了するとファームウェアの更新を開始します。ファームウェアの更新が完了したら 0: Restart を選択して MEDIAEDGE Decoder を再起動してください。

ENTER のみ入力するとトップメニュー画面へ戻ります。

Ping (Sending ICMP echo requests)

MEDIAEDGE Decoder から Ping(ICMP エコーリクエスト)パケットを送信し、ネットワークの状態を確認する機能です。

```
=== Ping (Sending ICMP echo requests)===  
Enter a target IP address ->
```

ネットワークの状態を確認したい送信先の IPv4 アドレスを入力してください。

ENTER のみ入力するとトップメニュー画面へ戻ります。

工場出荷時設定に戻す (Restore to factory settings)

すべての設定値を工場出荷時に戻します。

```
=== Restore to factory settings ===  
Are you sure? (y/[n]) ->
```

'y'を入力すると工場出荷時設定に戻します。

'n'もしくは ENTER を入力するとトップメニュー画面へ戻ります。

ハードウェア情報表示 (Display hardware info)

本体に保存されているハードウェア情報を表示します。

MEDIAEDGE Decoder の再起動 (Restart)

MEDIAEDGE Decoder を再起動します。

■ XI-3-4. 強制初期化

MEDIAEDGE Decoder 背面の DIPSW-1 を ON にした状態で、メンテナンスモードに移行すると工場出荷時の設定に初期化します。初期化が完了すると前面の電源ランプが橙色点灯状態に変化します。その後、DIPSW-1 を OFF に戻し、再度 MEDIAEDGE Decoder の電源を入れなおしてください。

■ XI-3-5. 更新制御スクリプト(update.inst)によるファームウェア更新

XI-2 [ファームウェアの更新](#)に記載の update.inst とファームウェア更新ファイルを USB ストレージまたは SD カードに入れ、USB ストレージまたは SD カードを挿入した状態でメンテナンスモードに入ることによってファームウェアを更新します。ファームウェア更新完了後、自動的に MEDIAEDGE Decoder の電源が切れます。

ご注意

メンテナンスモードが起動した状態で update.inst が入った USB ストレージや SD カードを挿入しても自動的にファームウェアは更新されません。

XI-4. 動作確認済み SD カード

MEDIAEDGE Decoder で次の SD カードでの動作を確認しています。

- Micron SDHC 32GB Class 10 (MTSD032AHC6RG-1WT)
- Panasonic SDHC 32GB Class 10 (RP-SDWA32GJK)
- SanDisk SDHC 32GB Class 10 (SDSDU-032G-U46)
- SanDisk SDHC 32GB Class 4
- 東芝 SDHC 32GB Class 10 (SD-T32GJ)
- 東芝 SDHC 4GB Class 4 (SD-K04G)

XI-5. 無停電電源装置について

動作確認済み UPS

MEDIAEDGE Decoder はオムロン株式会社製 UPS と接続することができます。

次の UPS での動作を確認しています。

- オムロン株式会社製 BX35F
- オムロン株式会社製 BY35S
- オムロン株式会社製 BN150XR

すべてのオムロン株式会社製 UPS での動作を保証するものではありません。

UPS との接続

- MEDIAEDGE Decoder の背面部にある USB 端子と UPS を USB ケーブルで接続します。
 - 2 つの USB 端子のうちどちらでも動作します。
 - USB ハブ経由での UPS の接続、および複数の UPS の接続を行った場合は動作保証外となります。
- 1 台の UPS から複数の MEDIAEDGE Decoder の電源を供給する場合、USB ケーブルで直接 UPS に接続されていない MEDIAEDGE Decoder を同じグループ名に設定しておく、ネットワーク経由のシャットダウンコマンドにより、同時にシャットダウンさせることができます。この場合、これらの MEDIAEDGE Decoder を同一のネットワークに接続します。

XI-6. 仕様

■ XI-6-1. MEDIAEDGE Decoder

XI-6-1-1. ハードウェア仕様

標準構成

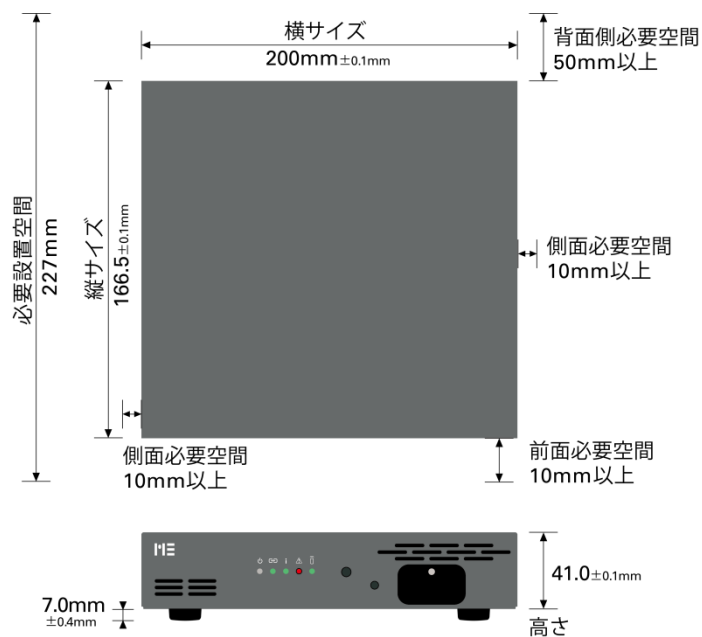
| ネットワーク・インターフェース | | |
|-----------------|---|--|
| 有線 LAN | 形式 | 100Base-TX、1000Base-T Ethernet/IEEE802.3 フレーム形式に準拠 オートネゴシエーション対応 フルデュプレックス対応 |
| | 端子 | RJ45 モジュラーコネクタ × 1 |
| Wi-Fi(オプション) | IEEE 802.11a/b/g/n 準拠(2.4/5GHz) チャンネルボンディング対応(5GHz のみ)、シングルストリーム(1x1) ※ 本体背面部にアンテナを接続します。 | |
| 映像出力 | | |
| HDMI | 形式 | RGB 4:4:4 8bit, YCbCr 4:4:4 8bit (Ver.1.3a 準拠 Deep Color 非対応) |
| | 端子 | HDMI (Type A, 19 ピン) ※モデルにより HDMI、SDI はいずれか一方のみ |
| | 出力解像度 | 1920x1080/59.94p 1920x1080/50p 1920x1080/23.98p 1920x1080/59.94i 1920x1080/50i 1280x720/59.94p 1280x720/50p 720x480/59.94p 720x576/50p 640x480/59.94p |
| SDI | 形式 | 3G-SDI YCbCr 4:2:2 10bit (SMPTE 424M / SMPTE 425M-A 準拠) HD-SDI YCbCr 4:2:2 10bit (SMPTE 292M 準拠) ※映像信号の精度は 8bit です。 |
| | 端子 | BNC (3G/HD/SD-SDI 共用出力) × 2 ※モデルにより HDMI、SDI はいずれか一方のみ |
| | 負荷インピーダンス | 75Ω |

| | | |
|------------------------|-------------|---|
| | 出力解像度 | 1920x1080/59.94p 1920x1080/50p 1920x1080/23.98p 1920x1080/59.94i 1920x1080/50i 1280x720/59.94p 1280x720/50p |
| コンポジット | 形式 | NTSC, PAL |
| | 端子 | ピンジャック(コンポジット) × 1(黄) |
| | 最大出力レベル | 1Vp-p @RL=75Ω |
| | 負荷インピーダンス | 75Ω |
| | 出力解像度 | 720x480/59.94i (NTSC) 720x576/50i (PAL) |
| | クローズドキャプション | EIA/CEA-608 Line 21 data service (VBI) |
| 音声出力 | | |
| アナログ音声出力 | 形式 | ステレオライン出力(アンバランス) |
| | 端子 | 左チャンネル ピンジャック × 1(白) 右チャンネル ピンジャック × 1(赤) |
| | 音声出力レベル | 2Vrms @RL=10kΩ |
| | 負荷インピーダンス | 10kΩ 以上を推奨 |
| デジタル音声出力 (S/PDIF) | 形式 | S/PDIF 同軸 |
| | 端子 | ピンジャック × 1(黒) |
| | 出力レベル | 0.5V @RL=75Ω |
| | 負荷インピーダンス | 75Ω |
| HDMI | 形式 | ステレオ LPCM、Dolby Digital 5.1ch (HDMI 信号に重畳) |
| SDI | 形式 | ステレオ LPCM (SDI 信号に重畳) ※サンプリング周波数は 48kHz のみ |
| リモートコントロール | | |
| 赤外線ワイヤレスリモ ートコントロール | ワイヤレスリモコン | 赤外線受光部 × 1 |
| SD カードスロット | | |
| SD カード | SDHC、SD | |
| 汎用入出力 | | |
| シリアルポート | 形式 | RS-232C |
| | 端子 | D-Sub 9 ピン(オス) × 1 |
| USB ポート | 形式 | USB 2.0 準拠 |
| | 端子 | USB Type A × 2 (バスパワー500mA) |

| 定格 | | |
|---------|--|---|
| 電源電圧 | AC アダプター | 入力:AC 100V~240V(50Hz/60Hz) 出力:DC 12V 3A(max) |
| | 本体 | 入力:DC 12V 1.65A(max) |
| | 最大消費電力 | 通常動作時:20W |
| 温度条件 | 動作温度範囲 | 5~40℃ *結露なきこと。 |
| 動作姿勢 | 水平 | |
| その他 | | |
| 外形寸法 mm | 200(W)x41(H)x166.5(D) (端子、突起物、ゴム足含まず) | |
| 質量 | 約 1.3kg(AC アダプターを除く) | |

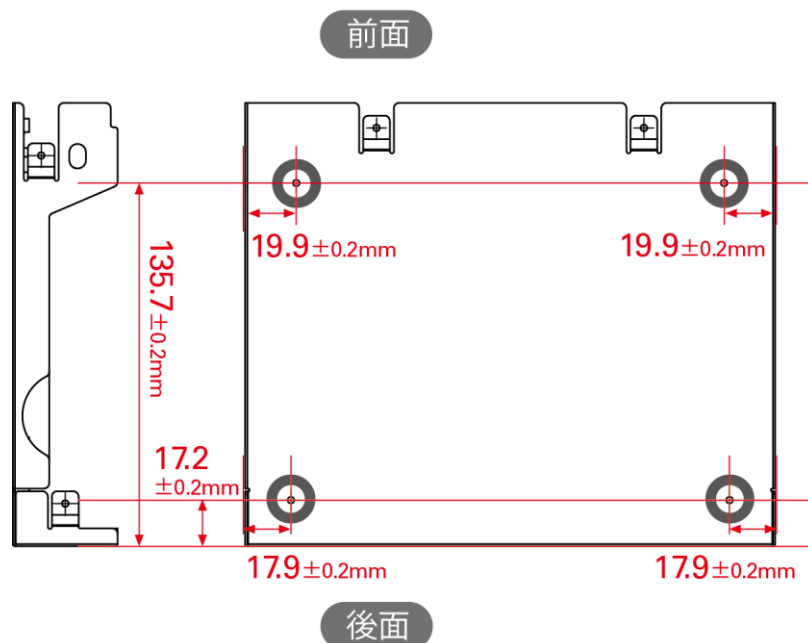
XI-6-1-2. 外観、サイズ

MEDIAEDGE Decoder 本体

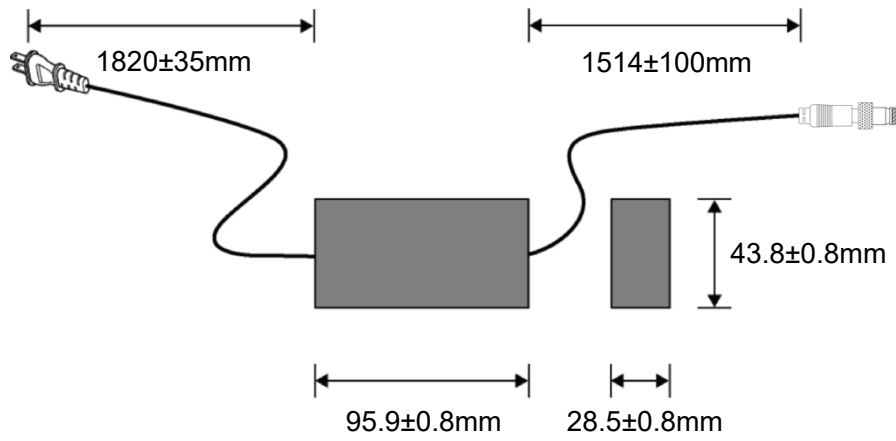


- ※ 本体サイズに加えて前面に 10mm、背面に 50mm 以上空間を空けて設置してください。
- ※ 上図左面から吸気、右面から排気です。

ゴム足位置 (上方面視図)



AC アダプター



■ XI-6-2. MEDIAEDGE Decoder EX

XI-6-2-1. ハードウェア仕様

| ネットワーク・インターフェース | | |
|-----------------|-------------|--|
| 有線 LAN | 形式 | 100Base-TX、1000Base-T Ethernet/IEEE802.3 フレーム形式に準拠 オートネゴシエーション対応 フルデュプレックス対応 |
| | 端子 | RJ45 モジュラーコネクタ × 1 |
| 映像出力 | | |
| HDMI | 形式 | RGB 4:4:4 8bit, YCbCr 4:4:4 8bit (Deep Color 非対応、CEC 非対応) |
| | 端子 | HDMI (Type A, 19 ピン) |
| | 出力解像度 | 1920x1080/59.94p 1920x1080/59.94i 1280x720/59.94p |
| SDI | 形式 | 3G-SDI Level A - Direct image format mapping YCbCr 4:2:2 10bit (SMPTE 424M / SMPTE 425M-A 準拠) HD-SDI YCbCr 4:2:2 10bit (SMPTE 292M 準拠) ※映像信号の精度は 8bit です。 |
| | 端子 | BNC (3G/HD-SDI 共用出力) |
| | 負荷インピーダンス | 75Ω |
| | 出力解像度 | 1920x1080/59.94p 1920x1080/59.94i 1280x720/59.94p |
| | クローズドキャプション | EIA/CEA-708 Digital Television (DTV) Closed Captioning (VANC) |
| | コンポジット | 形式 |
| コンポジット | 端子 | ピンジャック(コンポジット) × 1(黄) |
| | 最大出力レベル | 1Vp-p @RL=75Ω |
| | 負荷インピーダンス | 75Ω |
| | 出力解像度 | 720x480/59.94i |
| | クローズドキャプション | EIA/CEA-608 Line 21 data service (VBI) |
| 映像入力 | | |
| SDI | 形式 | 3G-SDI Level A - Direct image format mapping YCbCr 4:2:2 10bit (SMPTE 424M / SMPTE 425M-A 準拠) |

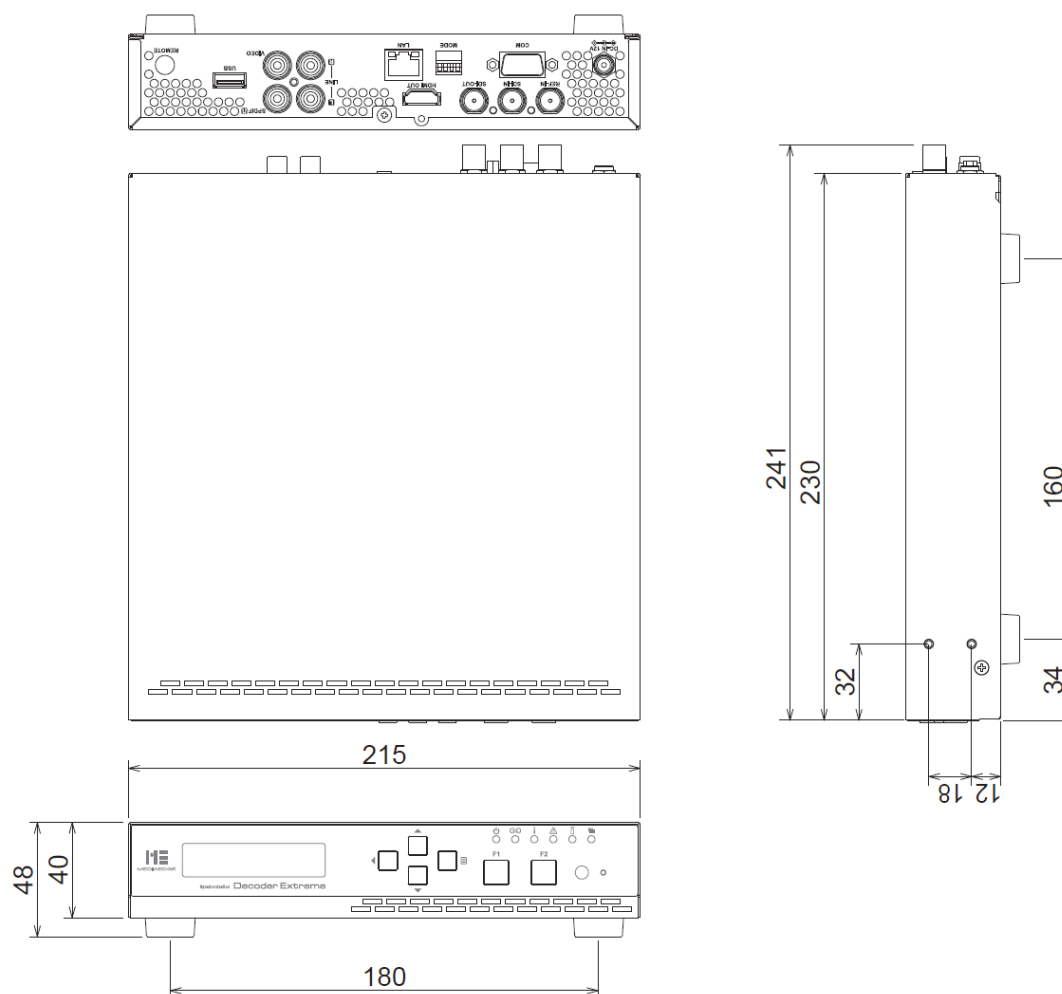
| | | |
|----------------------------|-------------|---|
| | | HD-SDI YCbCr 4:2:2 10bit (SMPTE 292M 準拠) |
| | 端子 | BNC (3G/HD-SDI 共用入力) |
| | 負荷インピーダンス | 75Ω |
| | 入力解像度 | 1920x1080/59.94p 1920x1080/59.94i 1280x720/59.94p ※出力形式と解像度、フレームレートが異なる場合は同期しません |
| 外部同期入力 | | |
| 形式 | Black Burst | NTSC (720x480/59.94i) |
| ※出力形式とフレームレートが異なる場合は同期しません | 3 値 Sync | 1920x1080/59.94i |
| | 端子 | BNC (75 Ω 終端 on/off) |
| | ロックレンジ | ±30 ppm |
| 音声出力 | | |
| アナログ音声出力 | 形式 | ステレオライン出力(アンバランス) |
| | 端子 | 左チャンネル ピンジャック×1(白) 右チャンネル ピンジャック×1(赤) |
| | 音声出力レベル | 2Vrms @RL=10kΩ |
| | 負荷インピーダンス | 10kΩ 以上を推奨 |
| デジタル音声出力 (S/PDIF) | 形式 | S/PDIF 同軸 |
| | 端子 | ピンジャック×1(黒) |
| | 出力レベル | 0.5V @RL=75Ω |
| | 負荷インピーダンス | 75Ω |
| HDMI | 形式 | ステレオ LPCM (HDMI 信号に重畳) ※サンプリング周波数は 48kHz のみ |
| SDI | 形式 | ステレオ LPCM (SDI 信号に重畳) ※サンプリング周波数は 48kHz のみ |
| 音声入力 | | |
| SDI | 形式 | ステレオ LPCM (SDI 信号に重畳) ※サンプリング周波数は 48kHz のみ |
| リモートコントロール | | |
| 赤外線ワイヤレスリモートコントロール | ワイヤレスリモコン | 赤外線受光部 × 1 |
| 汎用入出力 | | |
| シリアルポート | 形式 | RS-232C |
| | 端子 | D-Sub 9 ピン(オス) × 1 |
| USB ポート | 形式 | USB 2.0 準拠 |
| | 端子 | USB Type A × 1 (バスパワー500mA) |

| 定格 | | |
|---------|--|---|
| 電源電圧 | AC アダプター | 入力:AC 100V~240V(50Hz/60Hz) 出力:DC 12V 3A(max) |
| | 本体 | 入力:DC 12V 1.8A(max) |
| | 最大消費電力 | 25W |
| 温度条件 | 動作温度範囲 | 5~40℃ *結露なきこと。 |
| 動作姿勢 | 水平 | |
| その他 | | |
| 外形寸法 mm | 215(W)x40(H)x230(D) (端子、突起物、ゴム足含まず) | |
| 質量 | 約 2.0kg(AC アダプターを除く) | |

XI-6-2-2. 外観、サイズ

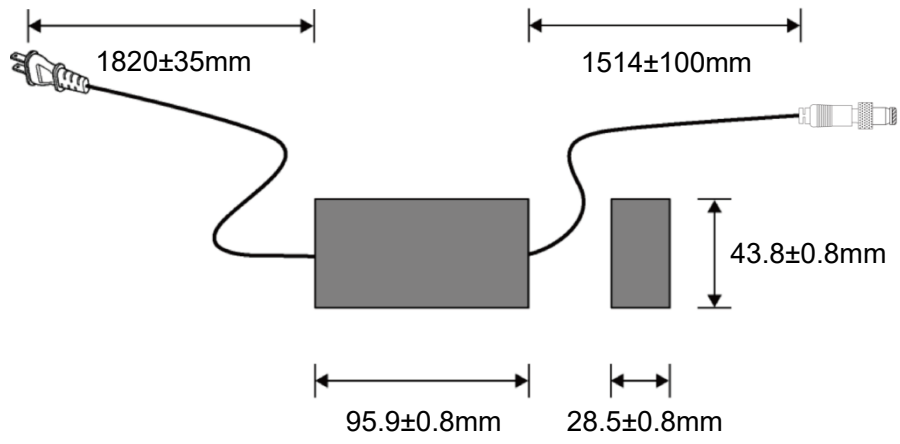
MEDIAEDGE Decoder EX 本体

(単位 mm)



- ※ 本体サイズに加えて前面 10mm 以上、背面に 50mm 以上空間を空けて設置してください。
- ※ 背面側必要空間は使用するケーブルにより異なります。
- ※ 本機は前面吸気、背面排気です。

AC アダプター

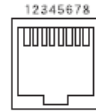


■ XI-6-3. コネクタピン配置

100Base-TX/1000Base-T Ethernet (LAN)

- RJ45

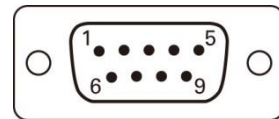
| Pin# | Signal Name |
|------|-------------|
| 1 | TP0+ |
| 2 | TP0- |
| 3 | TP1+ |
| 4 | TP2+ |
| 5 | TP2- |
| 6 | TP1- |
| 7 | TP3+ |
| 8 | TP3- |



RS-232C

- D-SUB 9ピン

| Pin# | 信号名 | 別名 | 入出力 |
|------|-----|----|----------------|
| 1 | DCD | CD | (Open) |
| 2 | RxD | RD | IN |
| 3 | TxD | SD | OUT |
| 4 | DTR | ER | Internal short |
| 5 | GND | SG | - |
| 6 | DSR | DR | Internal short |
| 7 | RTS | RS | OUT |
| 8 | CTS | CS | IN |
| 9 | RI | CI | (OPEN) |



- PC との接続方法

